

SANUPS	
ONLINE UPS A11F	
無停電電源装置	
2kVA	
100V モデル	
取扱説明書	

はじめに

このたびは、Uninterruptible Power System 無停電電源装置A11F（以下UPSという）をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様とサービス員※の安全を守るため、UPSの操作およびバッテリーの取り扱い、保守時に守らなければならない重要事項が記載されています。UPSを正しく安全にご使用いただくため、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。お読みになった後は、いつでもご覧になれる場所に保管してください。

このUPSは、温度管理された、導電性の汚染物のない環境に設置してください。

・動作温度： 0～40℃

目次

§ 1. 安全上のご注意	1
§ 2. 正しくお使いいただくためのご注意	5
§ 2.1 入力電源について	5
§ 2.2 設置時の注意	5
§ 2.3 取り扱い上の注意	5
§ 2.4 故障時の対応について	6
§ 3. 包装内容の確認	7
§ 4. 概要	7
§ 5. 外形寸法および各部の名称	8
§ 5.1 縦置きタイプ	8
§ 5.2 ラックマウントタイプ	9
§ 5.3 操作部、ディスプレイ	10
§ 5.4 外部インタフェース	11
§ 6. 設置	15
§ 6.1 環境	15
§ 6.2 搬入	15
§ 6.3 設置スペース	15
§ 6.4 縦置きタイプの据え付け	16
§ 6.5 ラックマウントタイプの据え付け	16
§ 6.6 スイッチカバーの取り付け	18
§ 7. 配線	19
§ 7.1 標準仕様の配線	20
§ 7.2 端子台仕様の配線	21
§ 8. 運転前の準備	22
§ 9. 運転操作	23
§ 9.1 装置を運転する（通常運転）	23
§ 9.2 装置を運転する（バッテリー起動）	24
§ 9.3 停電動作確認テストをする	25
§ 9.4 装置を止める（日常の停止）	26
§ 9.5 装置を止める（1週間以上使用しない場合の停止）	27

*サービス員について

当社および当社から委託された本製品の知識を有するサービス技術員を指します。
当該サービス員以外は保守作業を実施しないでください。（バッテリー交換を除く。）

この装置は、クラスA情報技術装置です。

この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

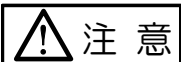
VCCI-A

この取扱説明書は、最新バージョンのUPS本体と合う内容となっています。
 最新バージョンのUPS本体は下記で判別します。
 UPSに貼り付けている定格銘板の「SERIAL No.」の一番最後に印字されているアルファベット
最新バージョン A11F202:B
 ※これ以前のバージョンのUPS本体の場合、LED表示や動作が一部異なります。

§ 10. ユーザー設定 -----	28
§ 10.1 出力電圧の設定 -----	30
§ 10.2 インタフェースの設定 -----	31
§ 10.3 通信ボーレートの設定 -----	32
§ 10.4 ブザー音の設定 -----	33
§ 10.5 周波数変動範囲の設定 -----	34
§ 10.6 復電時の動作の設定 -----	35
§ 10.7  スイッチのOFF反応時間の設定 -----	36
§ 10.8 Ring 信号起動の設定 -----	37
§ 10.9 バッテリ起動時周波数の設定 -----	38
§ 10.10 バッテリテストスケジュールの設定 -----	39
§ 10.11 過負荷時の動作の設定 -----	40
§ 10.12 インバータ給電停止時の動作の設定 -----	41
§ 10.13 バッテリ保持時間の設定 -----	42
§ 10.14 バッテリ種類の設定 -----	43
§ 10.15 バッテリ余命時間リセット -----	44
§ 10.16 連動運転時の「ON・OFF」遅延時間の設定 -----	45
§ 10.17 コンセントボックスによる出力系統制御の設定 -----	46
§ 10.18 出力系統制御運転時の「ON」遅延時間の設定 -----	47
§ 10.19 出力系統制御運転時の「OFF」遅延時間の設定 -----	48
§ 10.20 出力系統制御運転時の停電時出力時間の設定 -----	49
§ 10.21 電源管理ソフトによる 1,2 系統出力停止後のバッテリ運転中の動作設定 -----	50
§ 10.22 バッテリ電圧低下警告タイミングの設定 -----	51
§ 10.23 設定値のリセット -----	52
§ 11. 装置の点検・保守 -----	53
§ 11.1 日常の点検 -----	53
§ 11.2 定期点検 -----	53
§ 11.3 交換部品 -----	53
§ 11.4 バッテリの保守 -----	54
§ 11.5 バッテリテスト -----	55
§ 11.6 バッテリの交換 -----	56
§ 11.7 ブレーカのリセット -----	58
§ 12. こんなときには -----	59
§ 13. ブザーが鳴ったときには -----	61
§ 14. メンテナンスバイパス給電 -----	62
§ 14.1 コンセントボックスを使用している場合の確認 -----	62
§ 14.2 インバータ給電からメンテナンスバイパス給電への切り換え -----	63
§ 14.3 メンテナンスバイパス給電からインバータ給電への切り換え -----	64
§ 15. 特性 -----	65
§ 15.1 基本動作 -----	65
§ 15.2 保護動作 -----	66
§ 15.3 保護動作表 -----	67
§ 15.4 標準仕様 -----	68
§ 16. 装置の保証について -----	69
§ 付録 -----	70
付録 1 停電時の自動シャットダウンについて -----	70
付録 2 情報表示について -----	74

§ 1. 安全上の注意

取扱説明書には、お客様とサービス員の安全を守るための重要な内容が記載されています。
据え付け、運転、保守・点検の前に必ずこの取扱説明書をよく読み、機器の取り扱い、安全の情報そして注意事項について確認してからご使用ください。
この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「警告」「注意」として区分してあります。

表示	表示の意味
 警告	「誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があること」を示します。
 注意	「誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性、または物的損害が発生する可能性があること」を示します。

なお、 注意 に記載された事項でも、状況によっては重大な結果に結びつくことがあります。
いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

取扱説明書中の図記号は、次の意味を示します。

図記号	記号の意味
	「してはいけないこと」禁止を示します。
	「必ずしなければならないこと」強制を示します。 具体的な内容は、図記号の中、または近くの文章で示します。 例えば  は、必ず接地しなければならないことを示します。
	注意（警告を含む）を示します。 具体的な内容は、図記号の中、または近くの文章で示します。

1. 移動、輸送および移設時の注意



- 移動、輸送および移設時に転倒、落下させないでください。けがのおそれがあります。
- 取り扱いの際には、腰痛防止に心掛けてください。
- UPSを縦にして移動する場合は、側面方向に10度以上傾けないでください。10度以上傾けると、UPSが転倒し、けがのおそれがあります。やむをえず、10度以上傾けて移動するときは、転倒防止対策をしてください。

2. 据え付け上の注意



- 据付工事は専門業者に依頼してください。
据付工事に不備があると、感電、けが、火災のおそれがあります。
- UPSは、次のような環境での使用、保管は絶対にしないでください。
UPSの故障、損傷、劣化などによって、火災などの原因になることがあります。
 - a. カタログ、取扱説明書に記載の周囲環境条件から外れた高温、低温、多湿となる場所
(適切な設置環境：温度:0～40℃、相対湿度:20～90%)
 - b. 直射日光が当たる場所
 - c. ストープなどの熱源から熱を直接受ける場所
 - d. 振動、衝撃の加わる場所
 - e. 火花が発生する機器の近傍
 - f. 粉塵、腐食性ガス、塩分、可燃性ガスがある場所
 - g. 屋外
- UPSの吸排気口はふさがらないでください。
壁などから正面20cm以上、背面20cm以上の間隔をとってUPSを設置してください。
ラックへ搭載してご使用になる場合は、換気ができるラックへUPSを搭載し、ラックおよびUPSの吸排気口はふさがらないでください。吸排気口をふさぐとUPSの内部温度が上昇し、バッテリーなどの劣化により火災の原因になることがあります。UPSを保守するために、正面約1m以上、背面約50cm以上のメンテナンススペースがとれるようにしてください。
- UPS周辺の換気をしてください。換気量(5m³/h)が確保されないと、
充電時バッテリーから発生するガスにより容器の破裂または爆発の原因になることがあります。
- 据え付けは、UPSの質量(41kg)に耐える場所に取扱説明書のとおりに行ってください。据え付けに不備があると、UPSの転倒などによりけがのおそれがあります。また、取り扱いには、腰痛防止に心掛けてください。
- 縦置きタイプの場合は、キャスター部のロック金具で車輪をロックしてください。キャスターのロックをしていないと、衝撃・振動による移動、転倒などでけがのおそれがあります。
- 梱包のポリ袋やフィルム類、添付品のねじ類は幼児の手の届かない場所に移動してください。
小さいお子様がフィルム類をかぶったり、ねじなどをのみ込んだりすると、呼吸をさまたげる危険性があります。



3. 配線上の注意



- 配線工事は専門業者に依頼してください。
配線工事に不備があると、感電、火災の原因になることがあります。
- UPSは内部に一次回路における過電流、短絡および接地故障に対する保護手段を備えていません。
入力側に過電流短絡および接地故障に対する保護手段を備えた設備でご使用ください。
- アース線を指定の方法(入力プラグまたは入出力端子台)で確実に接続してください。
本UPSはD種接地工事が必要です。
アースを規定の接地種別で接続しない場合には感電のおそれがあります。
- UPSの出力側に接続される負荷機器※のアースは、確実にアース端子へ接続してください。
負荷機器のアースを接続しない場合には、感電のおそれがあります。
- 本装置の入力の許容電源電圧範囲は80～144Vです。許容電圧を超える電源を接続すると内部部品が破損して火災や発煙の原因になることがあります。
※ 負荷機器・・・コンピュータなどUPSへ接続する装置



4. 使用上の注意

警告

- UPSから異臭、異音がしたとき、また故障したときは、すぐにUPSを停止してください。火災の原因になることがあります。
- UPSのカバーは開けないでください。また、オプション機器の接続時以外は、UPS背面のオプション接続部のカバーを取り外さないでください。感電、および事故のおそれがあります。

禁止

- 次のような用途には絶対に使用しないでください。
 - a.人命に直接関わる医療機器などへの使用
 - b.人身の損傷に至る可能性のある電車、エレベータなどの制御機器への使用
 - c.社会的、公共的に重要なコンピュータシステムなどへの使用
 - d.これらに準ずる装置
- 上記負荷設備への使用に該当する場合は、事前に購入先または当社にご相談ください。
- 人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置などについては、システムの多重化、非常用発電設備の設置など、運用、維持、管理について特別な配慮が必要となります。
- UPS周辺での喫煙、火気の使用はしないでください。
爆発、破損により、けが、火災のおそれがあります。
 - UPSの上に花瓶など水の入った容器を置かないでください。
花瓶などが転倒した場合、こぼれた水での感電、UPS内部からの火災の原因になることがあります。
 - UPSの上に腰掛ける、乗る、踏み台にする、寄りかかる、ということはしないでください。
UPSの転倒などで、けがのおそれがあります。
 - 濡れた手でスイッチを操作しないでください。感電のおそれがあります。
 - UPSの改造、分解、修理はしないでください。UPSの内部は高電圧箇所などがあり、サービス員以外がUPSのカバーを開けたり、バッテリー交換、修理などの保守作業をすると感電など事故の原因となります。
これらの場合は保証の対象外となります。

注意

- UPSを起動する前に負荷側の安全を確認し、取扱説明書にしたがって運転操作をしてください。
操作する場合は表示を確認し、むやみに **MAIN MCCB** スイッチおよび **INV. ON/STAND BY** スイッチに触れないでください。不用意な給電は、感電、事故のおそれがあります。
- ファンの排気口に棒などを入れないでください。回転しているファンで、けがをするおそれがあります。
- 雷が鳴り出したら、ケーブル類も含めて本UPSに触れないでください。落雷の際に感電するおそれがあります。

5. 保守・点検上の注意

注意

- サービス員以外は、内部の点検、修理をしないでください。
感電、けが、やけど、発煙、発火などのおそれがあります。
- UPSの修理または故障部品の交換は、購入先またはサービス会社へ依頼してください。
カバーを開けると感電、やけどのおそれがあります。
- バッテリーは定期的(25℃で4.5年)に交換してください。
交換時期を過ぎたバッテリーは火災の原因になることがあります。
- バッテリーの清掃には、ガソリン、シンナー、ベンジンなどの有機溶剤や洗剤などを使用しないでください。
これらを付着させると電槽にひびや割れを起こし漏液して、漏電や火災の原因になることがあります。
- UPSのバッテリーコネクタおよび増設バッテリーコネクタ部(オプション)、バッテリーパックコネクタに金属棒や指などを差し込まないでください。感電のおそれがあります。
- 交流入力電源を切っても内部部品に手を触れないでください。
バッテリー電圧が印加されている部品があり、感電のおそれがあります。
- このUPSの期待寿命は10年です。この期間を過ぎたUPSは正常に機能しない場合があります。

6. その他の注意事項

注 意

- 本UPSは日本国内仕様品です。国外での使用については別途お問い合わせください。日本国内仕様品を国外で使用する、電圧、使用環境が異なり発煙・発火の原因になることがあります。
- 本UPSは輸出貿易管理令別表第一の16の項に掲げる貨物に該当します。これらの該当製品をお客様が輸出する場合、他の貨物に組み込んで輸出する場合、または他の貨物とともに輸出する場合、「インフォーム要件」「客観要件」の検討を含め、監督官庁に対し安全保障貿易に関する手続きを実施いただくことを推奨します。

7. バッテリーに関する注意

注 意

- バッテリーを交換する際は、このUPSに使用されているバッテリーと同型のものを使用してください。不適切なタイプのバッテリーに交換すると爆発の危険があります。
- 使用済みのバッテリーは、そのまま廃棄せず、購入先または当社にご連絡ください。このUPSのバッテリーは、鉛蓄電池です。鉛蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源ですのでバッテリーの交換およびご使用済みバッテリーの廃棄に際しては、鉛蓄電池のリサイクルへご協力ください。
- 使用期限の過ぎたバッテリーは使用しないでください。発煙、発火の原因になることがあります。また、停電時にバッテリーバックアップができず、負荷機器を停止させる可能性があります。
- バッテリーは感電の危険がある高短絡電流を発生することがあります。バッテリーを保守・点検するときは、つぎの予防をしてください。
 - a. 時計、腕輪などの金属物を外すこと。
 - b. 絶縁された工具を使用すること。
 - c. ゴム製の手袋、および靴を着用すること。
 - d. 工具または金属部品をバッテリーの上に置かないこと。
 - e. バッテリー端子を接続または取り外す前に、充電用電源を切ること。
- バッテリーを開いたり切断したりしないでください。内部には電解液の希硫酸が含まれています。希硫酸は劇毒物で皮膚や目に非常に有害です。バッテリーが漏液した場合は皮膚や衣服に付着させないでください。希硫酸が目に入ると失明、皮膚に付くと火傷のおそれがあります。また、導電性、腐食性があります。つぎの注意事項を守ってください。
 - a. 眼は完全に保護し、保護衣類を着用すること。
 - b. 希硫酸が皮膚に付着した場合は、直ちに水で洗い流すこと。
 - c. 希硫酸が眼に付着した場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
 - d. 漏液した希硫酸は酸中和剤（約500gの重炭酸ソーダを約4リットルの水に溶かした溶液）で洗い流してください。その後、溶液を水で洗い流し乾燥させてください。
- 鉛酸バッテリー（鉛蓄電池）は水素ガスを発生するため、火災が発生する危険があります。つぎの注意事項を守ってください。
 - a. バッテリー周辺で喫煙しないこと。
 - b. バッテリー周辺で火またはスパークを発生させないこと。
 - c. 保守・点検の前に静電気を取り除くこと。
- バッテリーの発火時には、消火のために水を使用せず、粉末(ABC)消火器を用いてください。水を使用すると、火災を拡大させる原因になることがあります。
- バッテリーを火の中に捨てないでください。バッテリーが爆発する可能性があります。
- バッテリーを漏液、発熱、爆発させる原因になることがあります。つぎの注意事項を守ってください。
 - a. バッテリーに直接はんだ付けしないこと。
 - b. バッテリーのプラス端子(+)とマイナス端子(-)を逆にして充電しないこと。
 - c. バッテリーの種類・メーカー名・新旧異なるものを混ぜて使用しないこと。
 - d. バッテリーの外装チューブをはがしたり、傷をつけないこと。
 - e. バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げつけないこと。
 - f. バッテリーの清掃には、ガソリン、シンナー、ベンジンなどの有機溶剤や洗剤を使用しないこと。
 - g. 使用済みバッテリーでも電気エネルギーが残っているので、スパークやショートをさせないこと。

§ 2. 正しくご使用いただくためのご注意

§ 2.1 入力電源について

- (1) 交流入力電源は装置定格(100V,110V,115V,120V,±15%以内、50または60Hz±5%以内※)に合わせて使用してください。
※ 周波数変動範囲は工場出荷時±3%に設定されています。入力周波数変動範囲が±5%の場合は「§ 10.5 周波数変動範囲の設定」で ±5% を選択してください。周波数変動範囲は入出力で同じため、周波数変動範囲が設定値を超えると入力電源異常となり、インバータ運転に切り換わることができません。
- (2) 入力電源容量は装置の所要容量(1.8kVA)以上としてください。(奨励ブレーカ容量30A以上)

§ 2.2 設置時の注意

- (1) 入力側に漏電ブレーカを設置する場合は、感動電流にご注意ください。本装置の漏れ電流は、最大3mAです。
- (2) CRTディスプレイからは1m以上の間隔を空けて設置してください。わずかですが漏れ磁束がありますので磁束による影響を受けやすいものは、間をあけて使用してください。
- (3) 装置はファンによる強制空冷を行っていますので、吸排気のさまたげにならないよう、正面から約20cm以上、背面から約20cm以上の間隔をとってください。ただし、保守のために正面約1m以上のメンテナンススペースがとれるようにしてください。
ラックマウントタイプをご使用の場合は、換気ができるラックへ搭載し、吸排気のため装置背面に約20cm、ラックを含め装置正面に約20cmのスペースをとってください。保守時にラックの正面に約1m以上、背面に約50cm以上のメンテナンススペースがとれるようにしてください。
詳細は「6.3 設置スペース」をご覧ください。
- (4) 交流入力電源が一線接地されている場合は、必ず本装置のS端子(相)側を接地相としてください。
- (5) 出力(負荷)側はできるだけ接地しないでください。もし、一線接地の必要がある場合は、必ずV端子(相)側を接地相としてください。(接地による電源短絡を防止するため)

§ 2.3 取り扱い上の注意

- (1) 出力回路の短絡、または短絡電流の流れる負荷は接続しないでください。保護機能動作などにより、出力が供給できなくなります。
- (2) 接続禁止負荷機器
レーザープリンタ、普通紙ファックス、コピー機、OHPなどは装置の出力に接続しないでください。これらの機器はヒータを加熱する際に大きな電流が流れるため、装置が過電流を検出して停電時のバックアップができなくなったり、装置を破壊させるおそれがあります。
- (3) 電源環境について
長時間停電が頻繁(週1回以上)に発生する環境でご使用になると、バッテリーが十分充電されなかったり、バッテリーの劣化が早まるためバッテリー寿命が著しく短くなることがあります。
- (4) 長期間UPSを使用しない場合はバッテリーの補充電が必要になりますので、UPSの保管環境により下表のように無負荷運転を行ってください。補充電を行わないまま放置するとバッテリーの寿命が著しく短くなることがあります。

保管温度環境	補充電	無負荷運転時間
25℃	6か月/1回	20 時間以上
30℃	4か月/1回	20 時間以上
40℃	2か月/1回	20 時間以上

- (5) 絶縁試験について
法定点検などで屋内配線の絶縁試験を行う場合は、UPSを停止して、UPSの入出力配線を外してから行ってください。UPSを配線したまま絶縁試験を行うと内蔵の避雷器など、電子部品を破壊するおそれがあります。また、UPSの絶縁試験は行わないでください。
- (6) 縦置きタイプの場合はキャスター部のロック金具で車輪をロックしてください。必要により床固定金具(オプション)を取り付けてください。また、ラックマウントにはラックサポートレール(オプション)が必要です。詳細は購入先までお問い合わせください。

§ 2.4 故障時の対応について

下記のような異常が生じた場合は、購入先まで連絡してください。

- (1) 【ALARM^赤】が点灯した場合。(長時間停電による装置停止を除く)
- (2) 正常な運転操作をしても【INV. ON/STAND BY^緑】、【INPUT^緑】、【OUTPUT^緑】が点灯しない場合。
- (3) その他、異常と判断されることが起きた場合。

§ 3. 包装内容の確認

包装を開きましたら、包装内容をご確認ください。

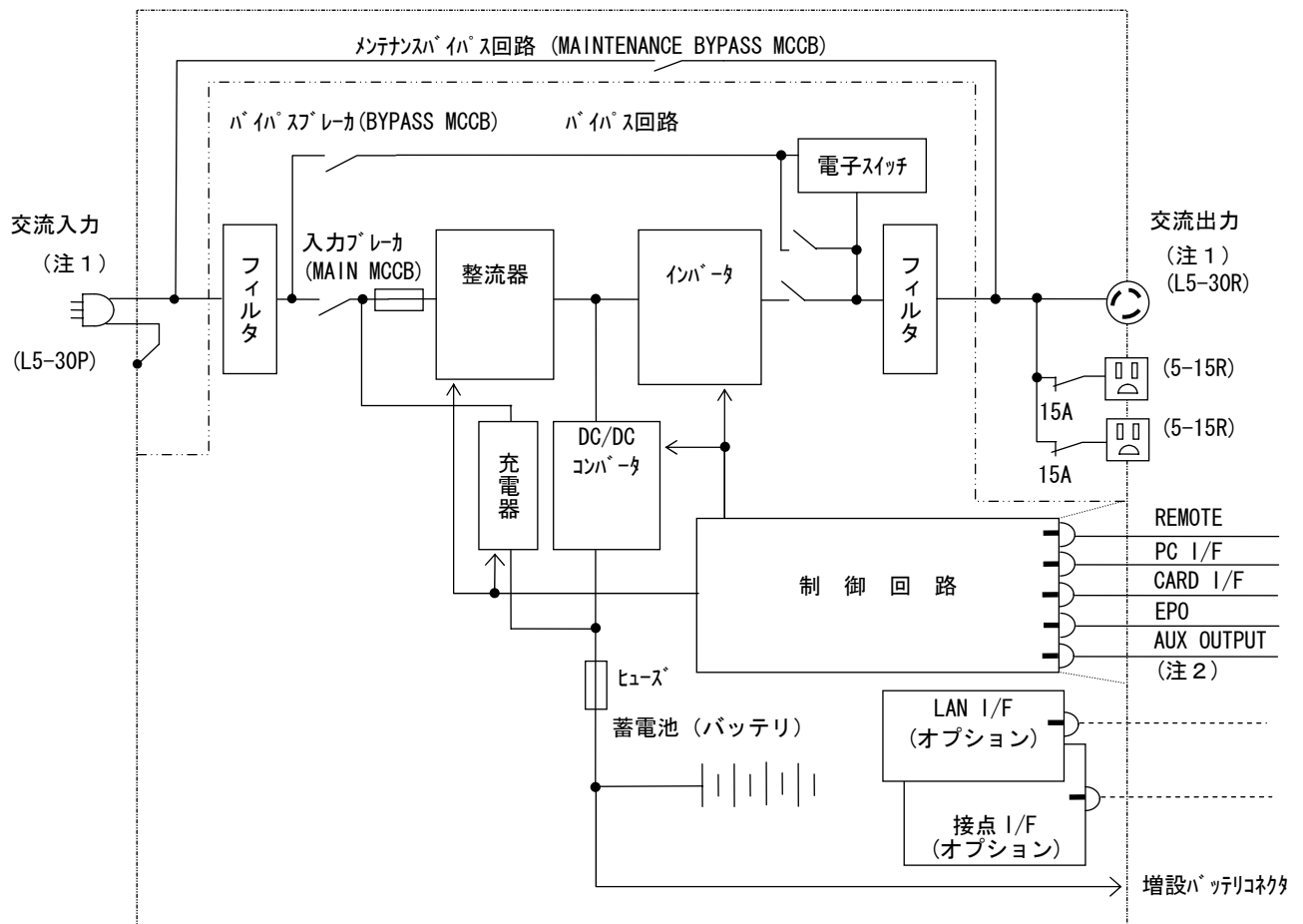
なお、万が一異常がありましたら、購入先までご連絡ください。

(1) 本装置		1 式
(2) 添付品	取扱説明書 (本書)	1 部
	保証書	1 部
	通信ケーブル	1 本
	ケーブルタイ	2 個 (縦置きタイプのみ添付されます)
	ケーブルタイ固定具	2 個 (縦置きタイプのみ添付されます)
	ケーブルタイ固定具取付ねじ	2 個 (縦置きタイプのみ添付されます)
	スイッチカバー	1 個

§ 4. 概要

本装置は、瞬時の電源中断を許さない極めて重要な機器に、良質で安定な交流電力を供給するための静止形無停電電源装置です。

整流器・充電器・インバータ・バッテリー・商用直送回路 (バイパス回路、メンテナンスバイパス回路) を組み合わせたシステムで、交流入力電源に異常があってもバッテリーからの直流電力によりインバータ運転が継続されます。交流入力電源が回復した場合には、バッテリーを充電させながらインバータ運転が継続されます。この間、負荷に瞬時の中断もない無停電電力が供給されています。



回路系統図

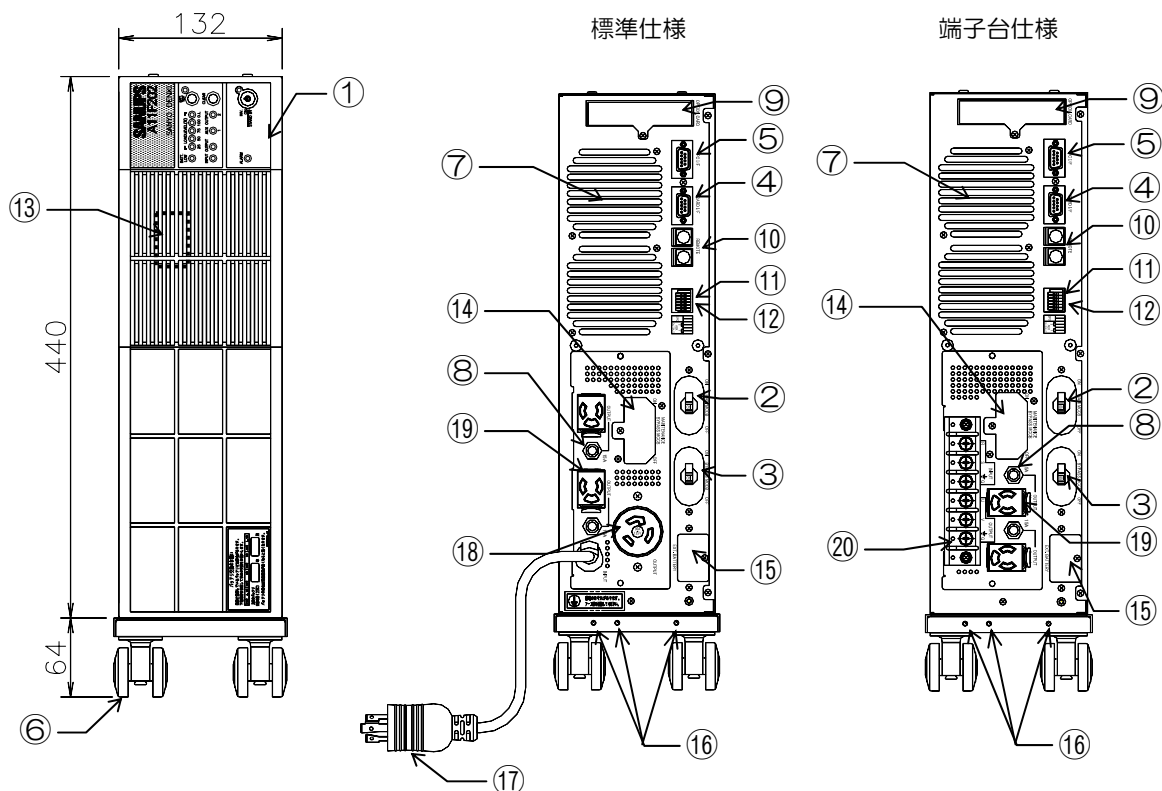
注1：上図は標準仕様の回路系統図です。

端子台仕様の場合は、入出力部 (入力プラグ、30A 出力コンセント) が端子台になります。

注2：AUX OUTPUT はオプションのコンセントボックスと組み合わせて使用します。

§ 5. 外形寸法および各部の名称

§ 5.1 縦置きタイプ

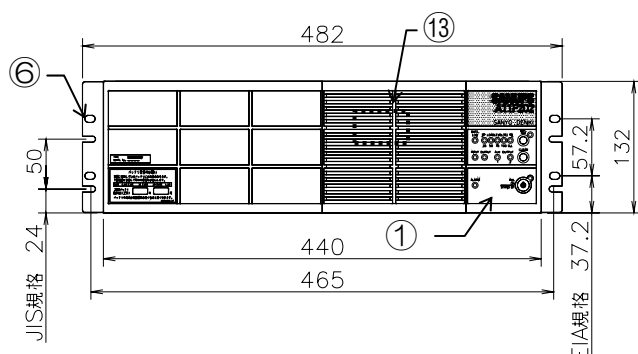


単位：mm

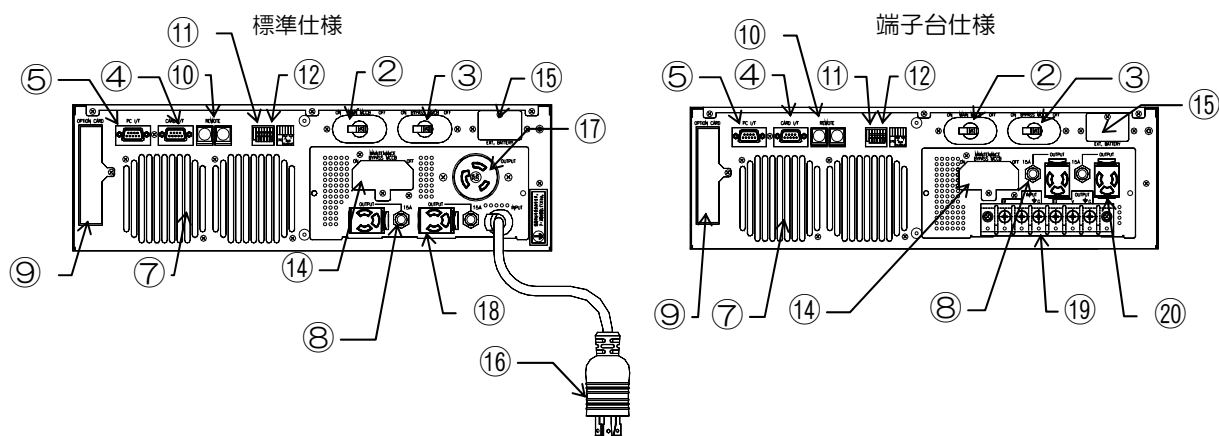
奥行き：575mm 質量：41kg

番号	名 称	本体の表示	機 能
①	操作部、ディスプレイ	—	運転操作、装置状態の表示、機能設定
②	入力MCCB	MAIN MCCB	入力 ON/OFF
③	バイパスMCCB	BYPASS MCCB	バイパス回路保護
④	カードインタフェース	CARD I/F	外部転送信号、オプションカード接続用
⑤	PCインタフェース	PC I/F	PC-WS 転送信号接続用
⑥	キャスター	—	装置の移動、固定
⑦	冷却ファン排気口	—	冷却用
⑧	出力コンセントサーキットブレーカ	15A	出力回路保護
⑨	オプションカードスロット	OPTION CARD	オプションカード挿入口
⑩	リモートON/OFF端子	REMOTE	リモートON/OFFスイッチ接続
⑪	EPO接続端子	EPO	UPS緊急停止スイッチ接続
⑫	AUX OUTPUT接続端子	AUX OUTPUT	コンセントボックス(オプション)接続
⑬	バイパス切り換えスイッチ	BYPASS SW	インバータ給電⇄バイパス給電の手動切換
⑭	メンテナンスバイパスMCCB	MAINTENANCE BYPASS MCCB	保守時のバイパス回路投入
⑮	増設バッテリーコネクタ	EXT.BATTERY	増設バッテリー接続用
⑯	ケーブルタイ取付用ねじ穴	—	ケーブルタイ取付用
標準仕様の場合			
⑰	入力プラグ	—	入力電源の接続(L5-30P) (20P 参照)
⑱	出力コンセント	OUTPUT	出力接続 (L5-30R) (20P 参照)
⑲	出力コンセント	OUTPUT	出力接続 (5-15R) (20P 参照)
端子台仕様の場合			
⑳	入出力端子台	R,S,G,U,V,G	入出力接続 (21P 参照)
⑲	出力コンセント	OUTPUT	出力接続 (21P 参照)

§5.2 ラックマウントタイプ



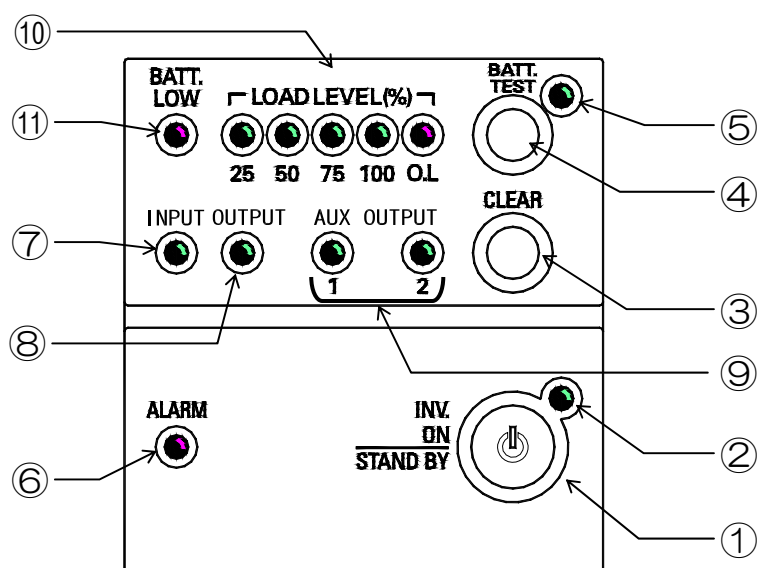
ラック取付金具は本体に取付済み。



単位：mm
奥行き：575mm 質量：41kg

番号	名 称	本体の表示	機 能
①	操作部、ディスプレイ	—	運転操作、装置状態の表示、機能設定
②	入力MCCB	MAIN MCCB	入力 ON/OFF
③	バイパスMCCB	BYPASS MCCB	バイパス回路保護
④	カードインタフェース	CARD I/F	外部転送信号、オプションカード接続用
⑤	PCインタフェース	PC I/F	PC-WS 転送信号接続用
⑥	ラック取付金具	—	ラック搭載用
⑦	冷却ファン排気口	—	冷却用
⑧	出力コンセントサーキットブレーカ	15A	出力回路保護
⑨	オプションカードスロット	OPTION CARD	オプションカード挿入口
⑩	リモートON/OFF端子	REMOTE	リモート ON/OFF スイッチ接続
⑪	EPO接続端子	EPO	UPS緊急停止スイッチ接続
⑫	AUX OUTPUT接続端子	AUX OUTPUT	コンセントボックス(オプション)接続
⑬	バイパス切り換えスイッチ	BYPASS SW	インバータ給電⇄バイパス給電の手動切換
⑭	メンテナンスバイパスMCCB	MAINTENANCE BYPASS MCCB	保守時のバイパス回路投入
⑮	増設バッテリーコネクタ	EXT.BATTERY	増設バッテリー接続用
標準仕様の場合			
⑯	入力プラグ	—	入力電源の接続(L5-30P) (20P 参照)
⑰	出力コンセント	OUTPUT	出力接続 (L5-30R) (20P 参照)
⑱	出力コンセント	OUTPUT	出力接続 (5-15R) (20P 参照)
端子台仕様の場合			
⑲	入出力端子台	R,S,G,U,V,G	入出力接続 (21P 参照)
⑳	出力コンセント	OUTPUT	出力接続 (21P 参照)

§ 5.3 操作部、ディスプレイ



番号	名 称	本体の表示	機 能
①	INV. ON/STAND BY スイッチ	INV. ON/STAND BY	インバータ運転のON/OFF 操作
②	INV. ON/STAND BY 表示	—	インバータ給電時にLED(緑)点灯、バイパス給電時に遅い点滅、充電率起動設定による自動起動の遅延中に速い点滅
③	クリアスイッチ	CLEAR	ブザー音の停止、バッテリーテスト結果のクリア
④	バッテリーテストスイッチ	BATT.TEST	バッテリーテスト
⑤	バッテリーテスト表示	—	バッテリーテスト結果の表示、バッテリーテスト結果正常時にLED(緑)点灯、異常時点滅
⑥	アラーム表示	ALARM	装置故障時、バッテリー運転の放電終止時にLED(赤)点灯
⑦	入力表示	INPUT	入力受電、正常時にLED(緑)点灯、異常時に遅い点滅、復電時確認時間設定中の自動起動遅延中に速い点滅 注
⑧	出力表示	OUTPUT	出力供給時にLED(緑)点灯
⑨	出力表示 (出力系統制御使用時)	AUX OUTPUT	出力供給時にLED(緑)点灯、電源管理ソフトウェアまたはLANインタフェースカードのスケジュールによるON/OFF遅延中に遅い点滅、系統制御ON/OFF遅延中に速い点滅
⑩	ロードレベル表示	LOAD LEVEL	負荷レベル(25,50,75,100% O.L) 表示 ※1
⑪	バッテリー低下表示	BATT.LOW	バッテリー電圧低下時にLED(赤)点灯、バッテリー余命が0の時点滅

注. 復電時確認時間は、放電終止からの復電時、または電源管理ソフトウェアおよびLANインタフェースカードから完全停止させた後に復電した時に、設定時間(10 秒,30 秒,60 秒) 復電状態が継続したらインバータ給電を開始させる機能です。時間の設定は「UPS パラメータ設定ツール」から行います。(初期設定は「なし(0 秒)」となります)

「UPS パラメータ設定ツール」については、購入先または当社までお問い合わせください。

取扱説明書の本文中、各スイッチは **INV. ON/STANDBY** のように でかこみ表示、
操作部、ディスプレイの各LEDは【INV ON/STAND BY(緑)】、【ALARM(赤)】のように表示、
LEDの状態は 点灯：✱、点滅：✱✱ のように表示されています。

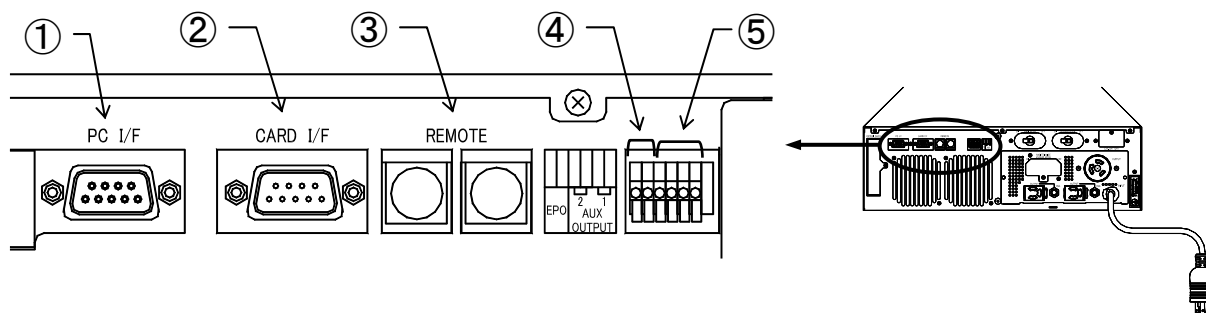
UPS初起動時のLED点滅について

※1. UPS初起動時直後の約5秒間、下表のようにUPSの出力電圧設定値を示すLEDが点滅します。

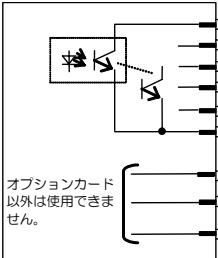
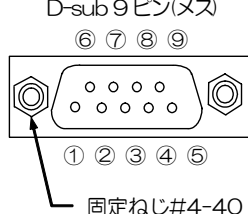
UPSの出力電圧設定	点滅するLED
100V	LOAD LEVEL 25(緑)
110V	LOAD LEVEL 50(緑)
115V	LOAD LEVEL 75(緑)
120V	LOAD LEVEL 100(緑)

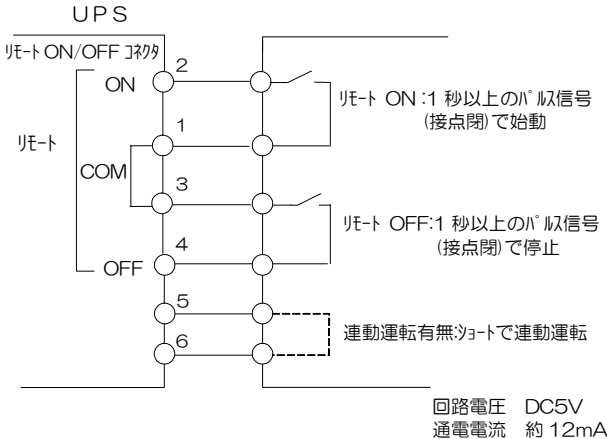
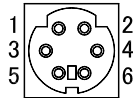
例：UPSの出力電圧が120Vに設定されてる場合は、UPS初起動時直後、【LOAD LEVEL 100(緑)】が約5秒間点滅します。

§ 5.4 外部インタフェース



番号	名 称	機 能																					
①	PC I/F PCインタフェース (RS-232C)	2つの機能があります。ご使用になる機能によりインタフェースを設定してください。 設定方法は「§ 10.2 インタフェースの設定」をご覧ください。 添付品の通信ケーブルでこのコネクタとコンピュータを接続して使用します。 1. 電源管理ソフトウェアSANUPS SOFTWARE(オプション)を使用し、UPSとコンピュータ(パーソナルコンピュータ、ワークステーションなど)の通信による電源管理をする場合。 ▶インタフェースを ワークステーション に設定します。 2. 電源管理ソフトウェアを使用せずに、接点信号によりOS (NetWare, Windows NTなど) の標準UPSサービス機能※を使用して、UPSを自動シャットダウンする場合。 ▶インタフェースを スタンドアロン に設定します。 信号名 <table border="1"> <tr><td>—</td><td>2</td><td>RXD</td></tr> <tr><td>—</td><td>3</td><td>TXD</td></tr> <tr><td>—</td><td>5</td><td>GND</td></tr> <tr><td>—</td><td>4</td><td>DTR</td></tr> <tr><td>—</td><td>6</td><td>DSR</td></tr> <tr><td>—</td><td>8</td><td>CTS</td></tr> <tr><td>—</td><td>7</td><td>RTS</td></tr> </table> D-sub 9ピン(オス) 固定ねじ#4-40 1/4インチ ※UPSサービス機能使用時のご注意 ・設定方法の詳細は、「§ 付録. 停電時の自動シャットダウンについて」をご覧ください。 ・UPSサービス機能のないOS (Windows 95, 98 など) をご使用の場合は、添付品の通信ケーブルを接続しないでください。停電時にバックアップできない場合があります。 ・電源管理ソフトウェア(オプション)との組み合わせでシリアル接続する場合は、インタフェースを ワークステーション に設定してください。スタンドアロンに設定して使用すると、停電時、UPSが直ちに停止することがあります。	—	2	RXD	—	3	TXD	—	5	GND	—	4	DTR	—	6	DSR	—	8	CTS	—	7	RTS
—	2	RXD																					
—	3	TXD																					
—	5	GND																					
—	4	DTR																					
—	6	DSR																					
—	8	CTS																					
—	7	RTS																					

番号	名 称	機 能												
②	CARD I/F カード インタフェース	LANインタフェースカード（オプション）または接点インタフェースカード（オプション）を接続する場合に使用します。 LANインタフェースカードを使用する場合は、インタフェースを ワークステーション に設定してください。 インタフェースの設定方法は、「§ 10.2 インタフェースを設定する」をご覧ください。 接点インタフェースカードを使用する場合、インタフェースの設定は ワークステーション と スタンドアロン のどちらでも可能です。 信号名  D-sub 9ピン(メス)  <table><tr><th>信 号 名 称</th><th>内 容</th></tr><tr><td>交流入力異常</td><td>商用電源異常によるバッテリー運転になった場合に信号が出力されます。</td></tr><tr><td>バッテリー電圧低下</td><td>バッテリー電圧が所定値以下に低下した場合に信号が出力されます。</td></tr><tr><td>交 流 出 力</td><td>負荷装置へ交流出力を供給している場合に信号が出力されます。</td></tr><tr><td>インバータ/バイパス出力</td><td>負荷装置へバイパス出力を供給している場合に信号が出力されます。</td></tr><tr><td>装 置 異 常</td><td>装置異常が発生した場合に信号が出力されます。</td></tr></table> ご注意 このコネクタは当社のオプションカード専用です。その他の機器で使用する場合はフォトカブラ仕様にご注意ください。無電圧接点出力が必要な場合は、接点インタフェースカード（オプション）をご使用ください。各信号のフォトカブラの出力容量はDC35V 15mAです。信号の極性にご注意ください。 LANインタフェースカードを使用した場合は、PC I/Fは同時に使用できません。	信 号 名 称	内 容	交流入力異常	商用電源異常によるバッテリー運転になった場合に信号が出力されます。	バッテリー電圧低下	バッテリー電圧が所定値以下に低下した場合に信号が出力されます。	交 流 出 力	負荷装置へ交流出力を供給している場合に信号が出力されます。	インバータ/バイパス出力	負荷装置へバイパス出力を供給している場合に信号が出力されます。	装 置 異 常	装置異常が発生した場合に信号が出力されます。
信 号 名 称	内 容													
交流入力異常	商用電源異常によるバッテリー運転になった場合に信号が出力されます。													
バッテリー電圧低下	バッテリー電圧が所定値以下に低下した場合に信号が出力されます。													
交 流 出 力	負荷装置へ交流出力を供給している場合に信号が出力されます。													
インバータ/バイパス出力	負荷装置へバイパス出力を供給している場合に信号が出力されます。													
装 置 異 常	装置異常が発生した場合に信号が出力されます。													

番号	名 称	機 能
③	REMOTE リモートON/OFF 端子	1. 離れた場所からUPSを始動／停止操作をする場合に使用します。 押しボタンスイッチなどのリモートON/OFFスイッチを接続してください。 2つの機能があります。ご使用になる機能により、次のようにインタフェースを設定してください。設定方法は「§10.2 インタフェースを設定する」をご覧ください。 1. UPSのリモートON/OFF をする場合 ➤インタフェースを スタンダアロン に設定します。 2. リモートON/ワンタッチシャットダウンをする場合 ➤インタフェースを ワークステーション に設定します。  回路電圧 DC5V 通電電流 約 12mA 2. 連動運転用ケーブル（オプション）を接続し、複数台のA11Fを連動運転させることができます。 連動運転とは・・・： 複数台のA11Fをケーブルで接続し、始動・停止操作を連動させて運転する機能です。 この端子はどちらに接続しても機能します。 コネクタは、下記のものをご使用することをおすすめします。 推奨適合コネクタ ・ホシデン株式会社：小型DINプラグ TC8560 または TCP8360 ・アールエスコンポーネンツ株式会社 ：小型DINケーブルプラグ 463-388 ・テクニカル電子株式会社：ミニDINコネクタ E6-200J 

番号	名 称	機 能
④	EPO 緊急停止	EPO(緊急停止)：UPSを緊急停止するためのスイッチなどを接続します。 緊急時、スイッチを「ON」(接点閉)することによりUPSを停止することができます。 外部ノイズによる誤動作を防ぐためにケーブルはシールド線またはツイスト線を使用し、長さは10m以内としてください。 緊急停止後、UPSを再起動する場合は、EPO端子に接続しているスイッチが「OFF」であることを確認し、を1秒以上押します。 スイッチのケーブルはつぎのように接続してください。 ① 電線の被覆を約10mmはがします。 ② マイナスドライバでツマミを押しながら端子へ電線を差し込みます。 ③ 電線が抜けないことを確認します。
⑤	AUX OUTPUT 系統コントロール 接点	AUX OUTPUT：コンセントボックス（オプション）を接続します。 コンセントボックスはUPS出力を2系統に分割し、出力を制御（システムの順次起動・停止）することができます。 系統0 ：UPSコンセントと同様の出力 系統1・2 ：制御出力

§ 6. 設置



- 装置の質量(41kg)に耐えるところに取扱説明書のとおり設置してください。
- 転倒、落下のおそれのない、平らな場所に設置してください。けがのおそれがあります。
- 振動、衝撃の少ない所に設置してください。
- 搬入、取り扱いの際には腰痛予防に心がけてください。
- 移動、据え付け時に装置を転倒させるおそれがあります。装置の上部側面の角を持ってください。けがのおそれがあります。

§ 6.1 環境

つぎのような場所には設置しないでください。

- 周囲温度が40℃以上になる場所
ただし、バッテリー寿命を考慮して通常は20～25℃で使用、管理することをおすすめします。
- 高湿度の場所
- 塩分や腐食性ガスのある場所
- 振動、衝撃のある場所
- ホコリの多い場所
- 換気ができるラック以外の場所（ラックマウントタイプの場合）
ラックに取り付ける場合は、ラックにファンモータを取り付けるなどして、UPS周辺の換気を行ってください。

§ 6.2 搬入

装置は、包装状態のまま搬入してください。包装は、装置の据え付け場所の近くで開いてください。

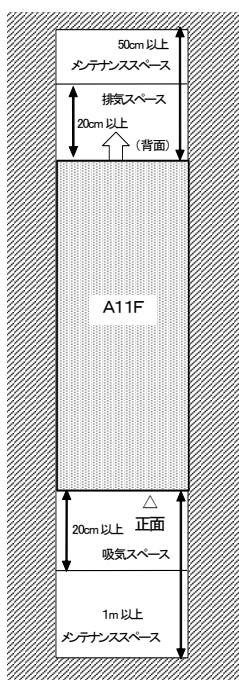
§ 6.3 設置スペース

つぎのスペースをとって設置してください。

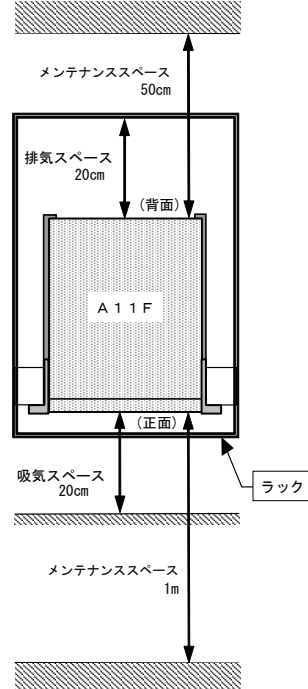
- 正面から約20cm以上 : ファンによる強制空冷の吸気スペース
- 背面から約20cm以上 : ファンによる強制空冷の排気スペース
- メンテナンス時に正面約1m以上、背面50cm以上 : メンテナンスのためのスペース
- CRTディスプレイから1m以上 : わずかですが漏れ磁束があります。

磁束による影響を受けやすいものは、間をあけてください。

縦置きタイプの設置スペース



ラックマウントタイプの設置スペース

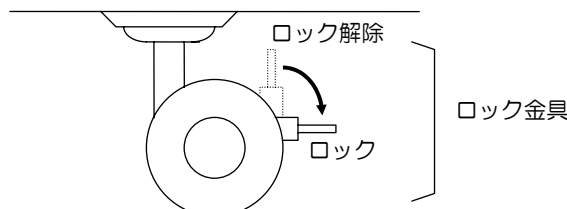


§ 6.4 縦置きタイプの据え付け



- 装置底部のキャスターは必ずロックし、がたつきがないように装置を鉛直に固定してください。装置が確実に固定されていないと地震などの衝撃、振動により、移動、転倒などで、けがのおそれがあります。
- 固定の際に、手などをはさまないようにご注意ください。

① 4か所のキャスターをロック金具でロックします。



§ 6.5 ラックマウントタイプの据え付け



- 搬入、取り扱いの際には、腰痛予防に心がけてください。
- 装置の総質量は約41kg、バッテリーパックの質量は約23kgです。二人以上で作業してください。落下によるけがなどのおそれがあります。
- 移動、据え付け時に装置を落下させるおそれがあります。装置の底部を両手でささえ据え付けてください。けがのおそれがあります。
- 安全のため、ラック搭載時はL型レール（サポートレール）を使用してください。L型レールについては、ご使用のラックメーカーにお問い合わせください。）

19インチラック搭載用です。「§ 6.3 設置スペース」をご覧ください。正面および背面に吸排気スペースを確保してください。また、装置が破損するおそれがありますので装置の上に物を置かないでください。

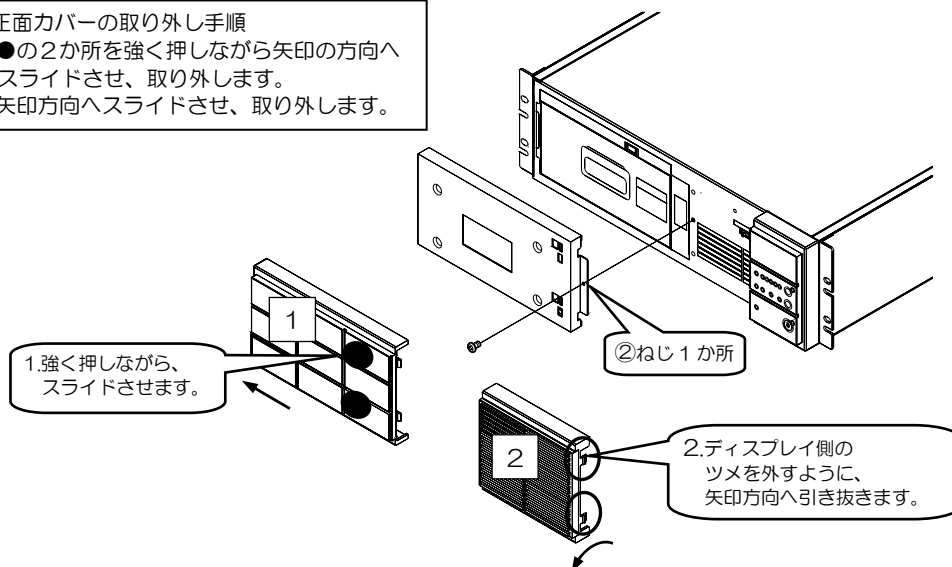
装置の総質量は約41kgと重量物です。けが防止のため、バッテリーパック2個を取り外してから、ラックに取り付けてください。ただしバックアップ時間が60分または180分仕様の場合はUPS本体にはバッテリーが内蔵されませんので、バッテリーパックの取り外し／再取り付けの手順は不要です。UPSは重量物ですのでラックの最下部へ収納することをおすすめします。ラック搭載にはL型レール（サポートレール）を使用してください。（L型レールについては、ご使用のラックメーカーにお問い合わせください。）

ラック搭載手順

- ①装置の正面パネルを取り外します。
- ②バッテリーカバーの右側のねじ1か所外し、バッテリーカバーを取り外します。

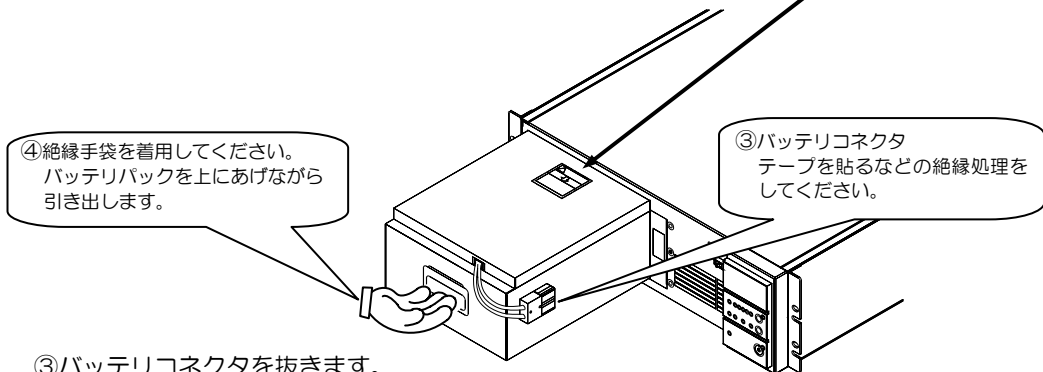
①正面カバーの取り外し手順

1. ●の2か所を強く押しながら矢印の方向へスライドさせ、取り外します。
2. 矢印方向へスライドさせ、取り外します。

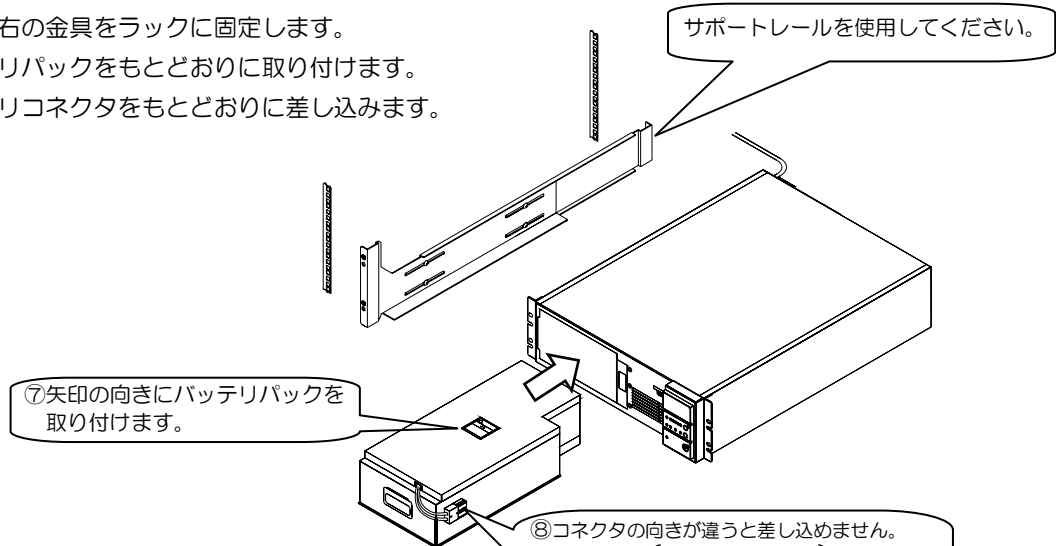


ご注意

ストッパーがついていません。バッテリーパックはゆっくり引き出し、上面に底部を両手でささえ、落とさないように注意してください。バッテリーパックを置くときに、指をはさまないように注意してください。

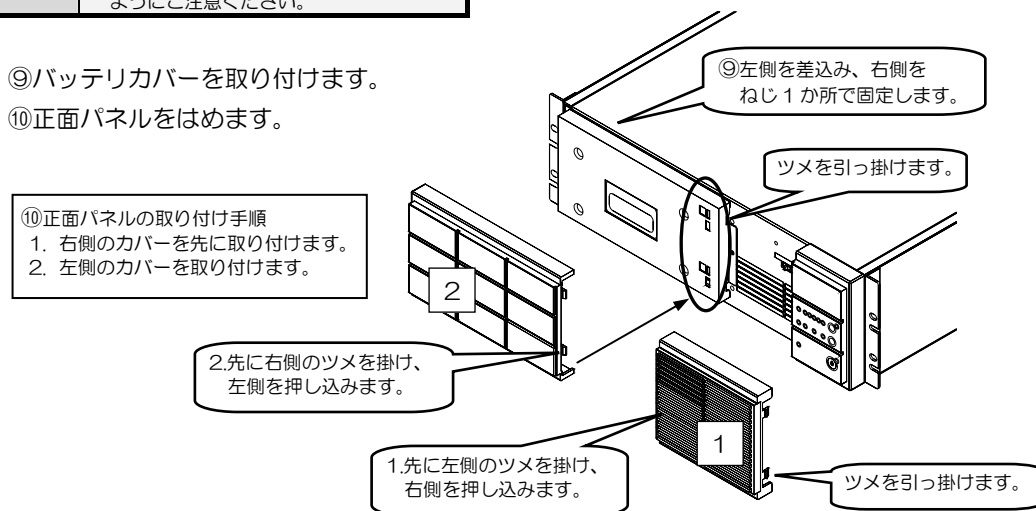


- ③ バッテリーコネクタを抜きます。
- ④ バッテリーパックを引き出します。
- ⑤ この状態で装置をラックに取り付けます。
- ⑥ 装置左右の金具をラックに固定します。
- ⑦ バッテリーパックをもとどおりに取り付けます。
- ⑧ バッテリーコネクタをもとどおりに差し込みます。



- バッテリーコネクタの差し込み向きを間違えるとコネクタ挿入ができませんので無理に挿入しないでください。コネクタが破損すると感電のおそれがあります。
- カバーを固定する際に手などはさまないようにご注意ください。

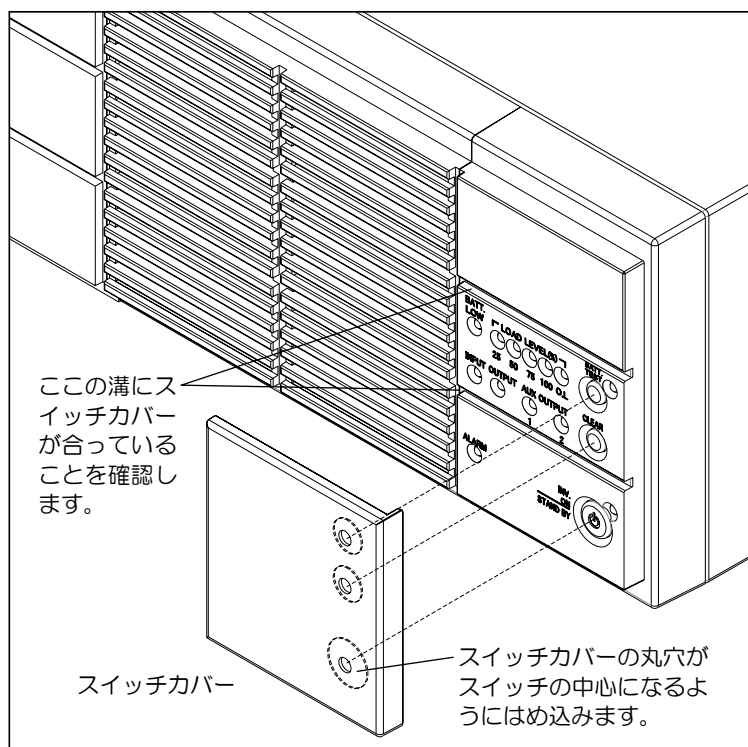
- ⑨ バッテリーカバーを取り付けます。
- ⑩ 正面パネルをはめます。



以上で、ラックへの搭載作業は終了です。

§ 6.6 スイッチカバーの取り付け

UPS正面操作部の押しボタンスイッチを誤って操作してしまうおそれがある場合は、添付のスイッチカバーを取り付けてください。



§ 7. 配線

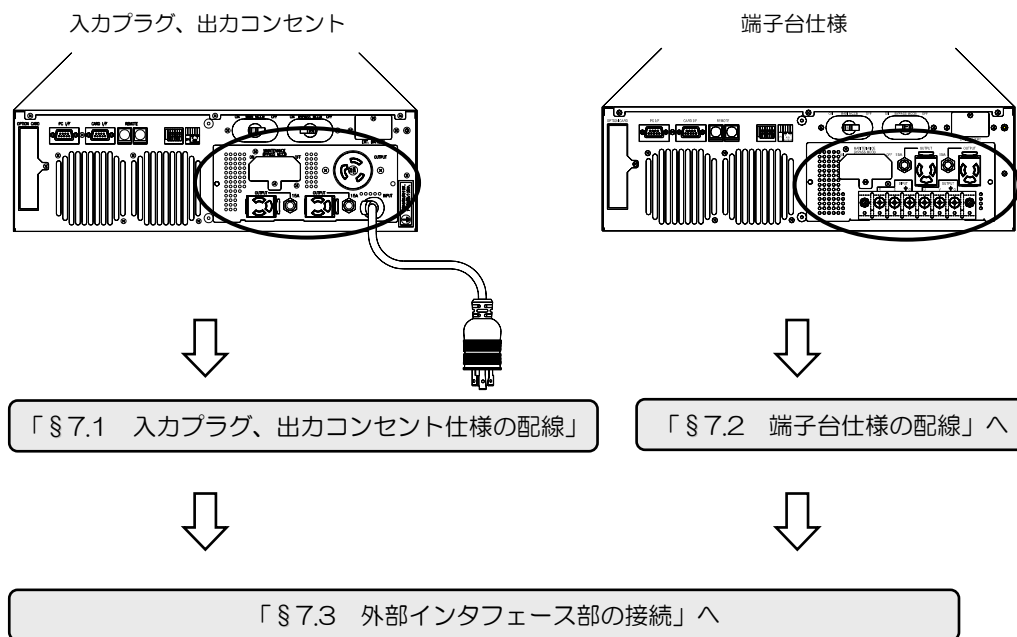


- 配線工事は専門業者に依頼してください。配線工事に不備があると感電、けが、火災のおそれがあります。
- 入・出力端子台への接続は圧着端子を使用し、ゆるみがないようにしてください。また、コンセントへの接続は指定容量のコンセントを使用し、ゆるみがないようにしてください。外部インタフェースコネクタの差し込みにゆるみがないようにしてください。感電、けが、火災のおそれがあります。
- アース端子は必ず接地してください。感電のおそれがあります。



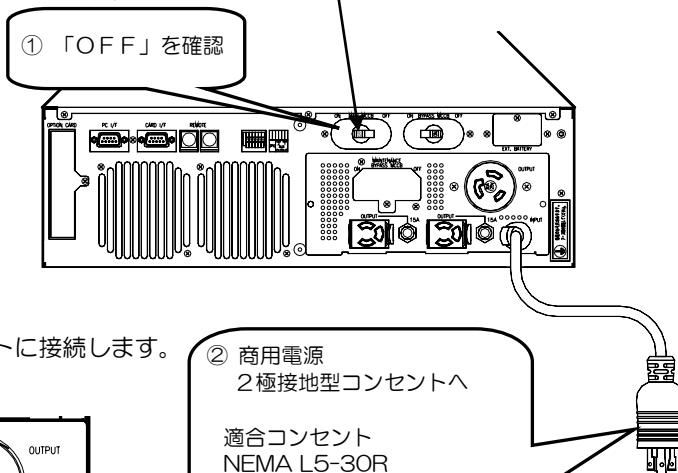
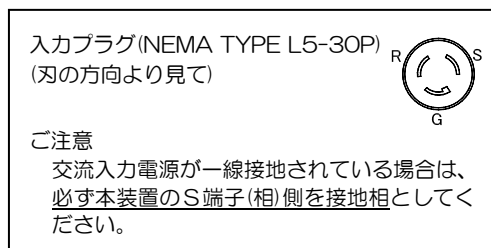
装置背面の形状により配線方法が異なります。ご使用の装置の型名と背面をご確認ください。

図はラックマウントタイプの場合を示しますが、縦置きタイプの場合も同様です。

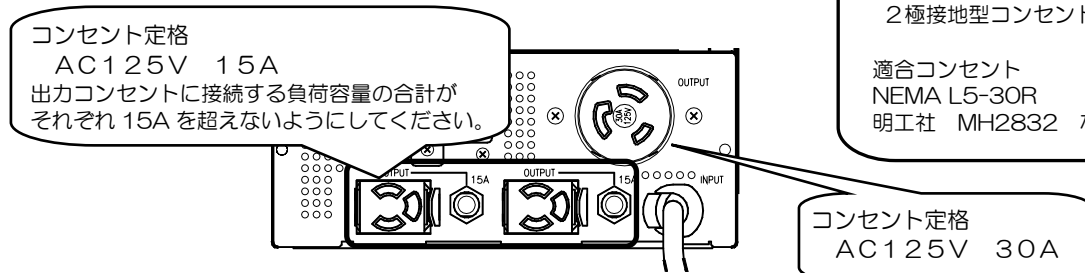


§ 7.1 入力プラグ、出力コンセント仕様の配線

- ① **MAIN MCCB** が「OFF」になっていることを確認してください。
- ② 装置の入力プラグを商用電源コンセントへ接続します。



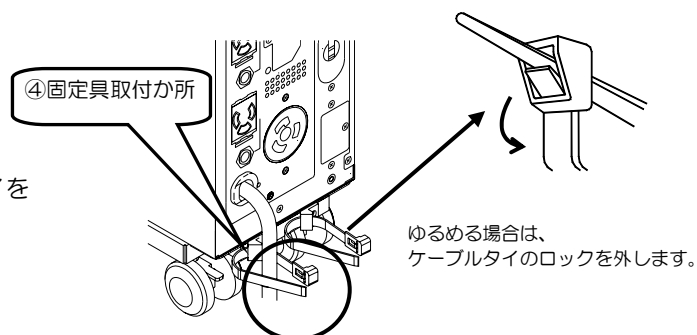
- ③ 接続する負荷機器のプラグを出力コンセントに接続します。



出力コンセント	コンセント出力容量	備考
OUTPUT 	125V 30A コンセント×1個	NEMA TYPE (L5-30R) 一線接地の必要がある 場合は必ずV端子(相)側 を接地相としてください。
OUTPUT 	125V 15A コンセント×2個	一線接地の必要がある 場合は必ずV端子(相)側 を接地相としてください。

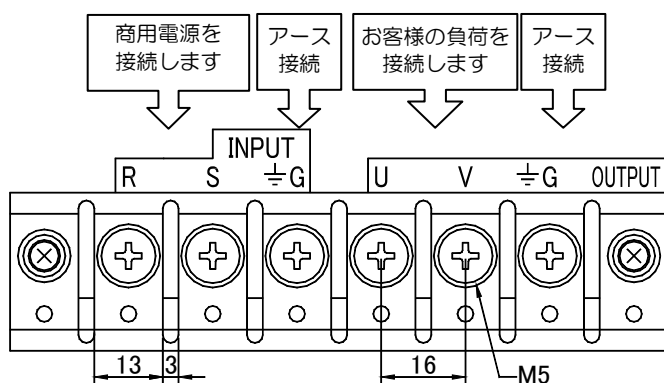
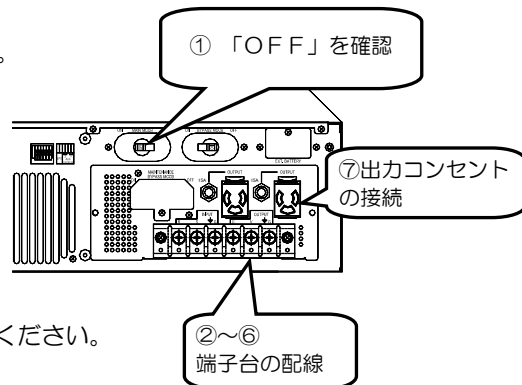
ご注意：すべてのコンセント出力の合計が2kVAを超えないようにしてください。

- ④ 縦置きタイプの場合は必要に応じて下図(例)のように、入出力線とアース線を束ねてUPS本体にケーブルタイで固定します。
- ⑤ 添付品の固定具を固定用ビスで図の指定か所に留めます。
ねじ穴は3か所ありますので適切な穴を使用してください。
- ⑥ 図のように、固定具にケーブルタイを通しケーブルタイを締めます。



§ 7.2 端子台仕様の配線

- ① **MAIN MCCB** が「OFF」になっていることを確認してください。
 - ② 端子台についている透明の端子台カバーを取り外します。
 - ③ 入力端子(INPUT)に **G, S, R** の順で接続します。アースはD種接地としてください。R, S端子に商用電源を接続する際は入力電源の極性に注意してください。
 - ④ 端子(OUTPUT)に **G, V, U** の順で接続します。アースはD種接地としてください。
 - ⑤ 配線が終わりましたら、ねじの締付けにゆるみがないか確認してください。
 - ⑥ 端子台カバーをもとどおりに取り付けます。
- ※ 配線は、端子記号表示のない方向（図の下方向）からしてください。



配線を取り外す場合は、アースを最後に外してください。

端子	表示	使用標準電線
入力端子	R, S	3.5mm ² 2芯
出力端子	U, V	3.5mm ² 2芯
アース端子	G	3.5mm ² 単芯

単位：mm

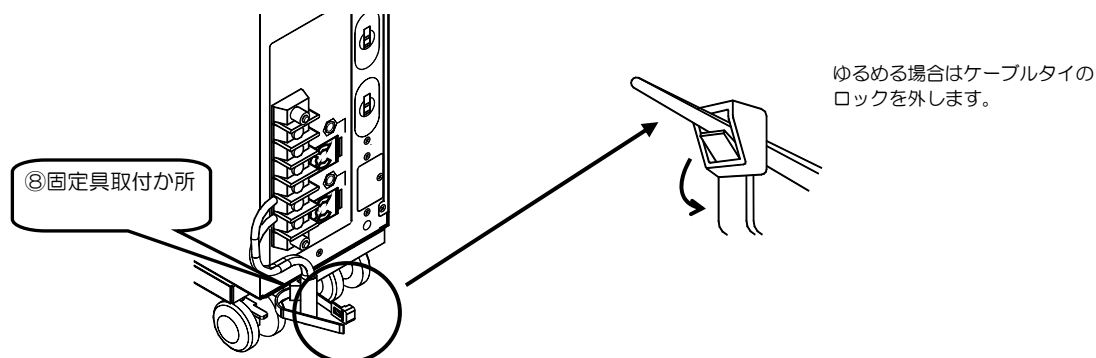
- ⑦ 接続する負荷機器の入力プラグを出力コンセントに接続します。
- 出力コンセントに接続する負荷容量の合計がそれぞれ15Aを超えないようにしてください。

出力コンセント	コンセント出力容量	備考
OUTPUT 	125V 15A コンセント×2個	一線接地の必要がある場合は必ずV端子(相)側を接地相としてください。

ご注意

端子台出力とコンセント出力の合計が2kVAを超えないようにしてください。

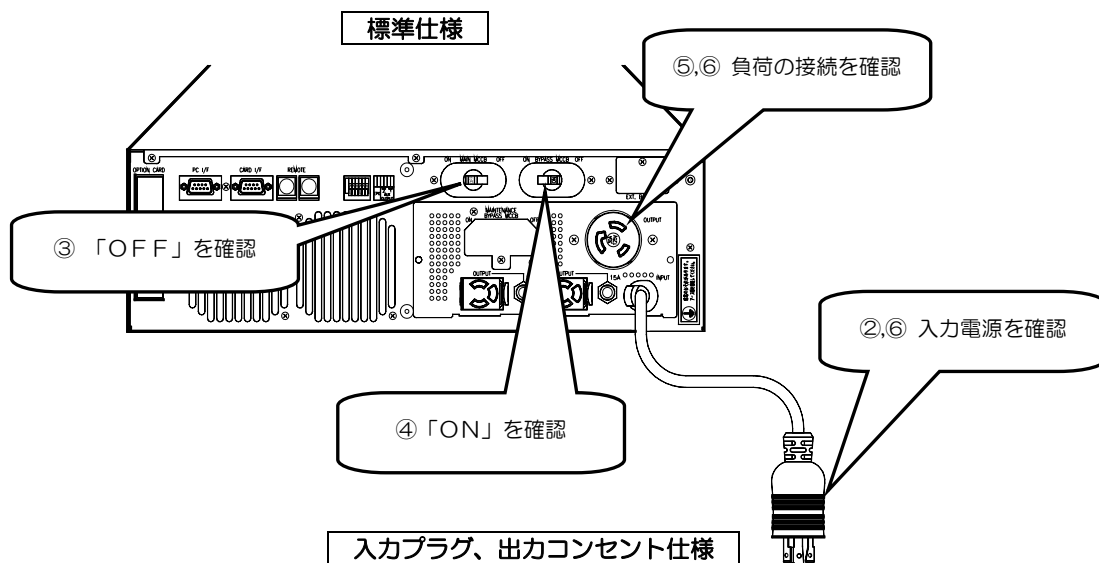
- ⑧ 縦置きタイプの場合は必要に応じて下図(例)のように、入出力線とアース線を束ねてUPS本体にケーブルタイで固定します。
- ⑨ 添付品の固定具を固定用ビスで図の指定か所に留めます。
ねじ穴は3か所ありますので適切なねじ穴を使用してください。
- ⑩ 図のように、固定具にケーブルタイを通しケーブルタイを締めます。



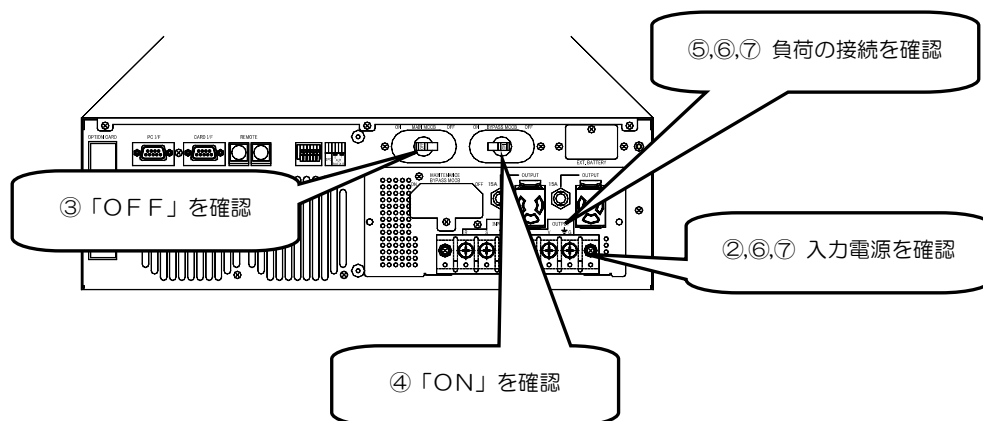
§ 8. 運転前の準備

運転前につぎの確認をしてください。

- ① 装置の外観に傷や変形はないですか？
- ② 仕様に合った正しい入力電源に接続してありますか？
- ③ **MAIN MCCB** は「OFF」になっていますか？
- ④ **BYPASS MCCB** は「ON」になっていますか？
- ⑤ 負荷装置は正しく接続されていますか？
- ⑥ 接続にゆるみはないですか？



- ⑦ 入出力端子台は正しく接続されていますか？

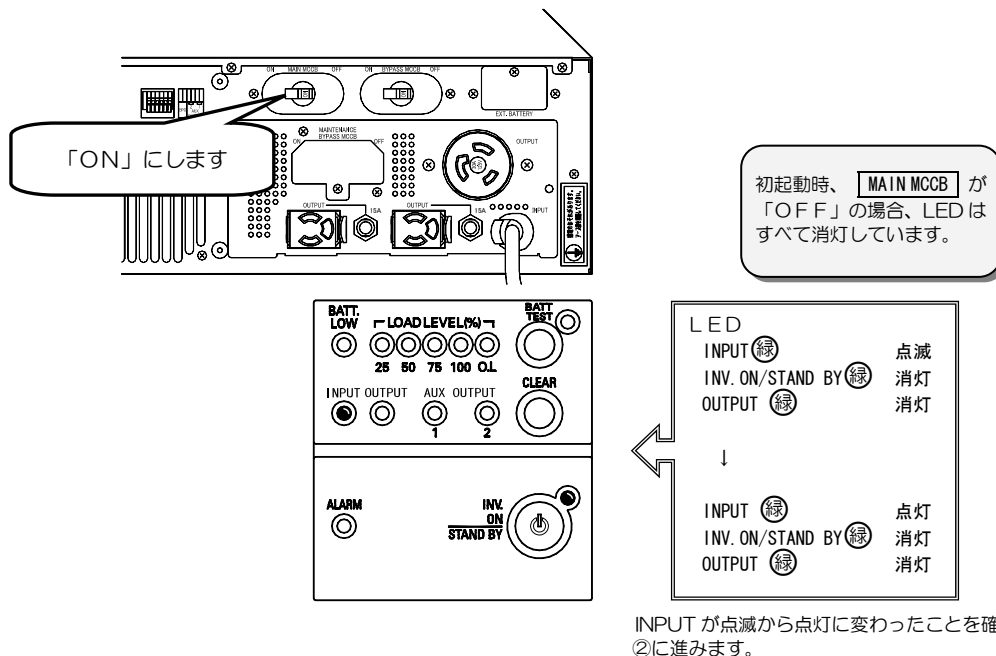


図はラックマウントタイプの場合を示しますが、縦置きタイプの場合も同様に確認してください。

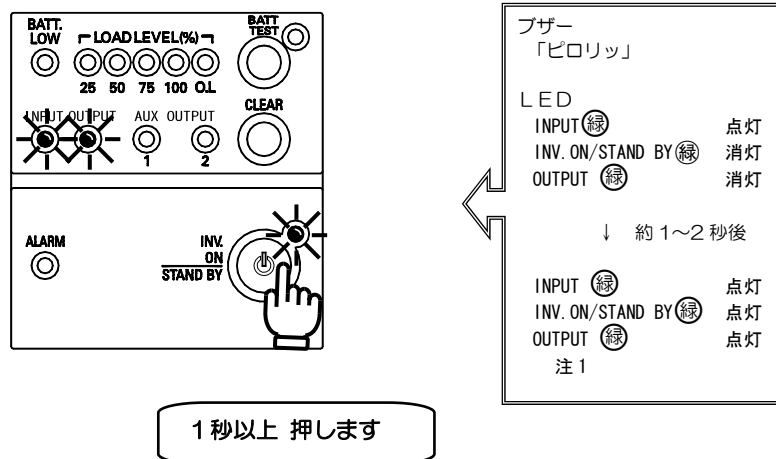
§ 9. 運転操作

§ 9.1 装置を運転する（通常運転）

- ① 装置背面の **MAIN MCCB** を「ON」にします。



- ② **INV. ON/STAND BY** を1秒以上押します。



注1.出力系統制御の設定を「する」にした場合は、AUX OUTPUTの1,2も遅延時間の設定にしたがって点灯します。

取扱説明書の本文中、各スイッチは **INV. ON/STANDBY** のように でかこみ表示、操作部、ディスプレイの各LEDは **【INV. ON/STAND BY(緑)】**、**【ALARM(赤)】** のように表示、また、LEDの状態は 点灯：、点滅： で表示されています。

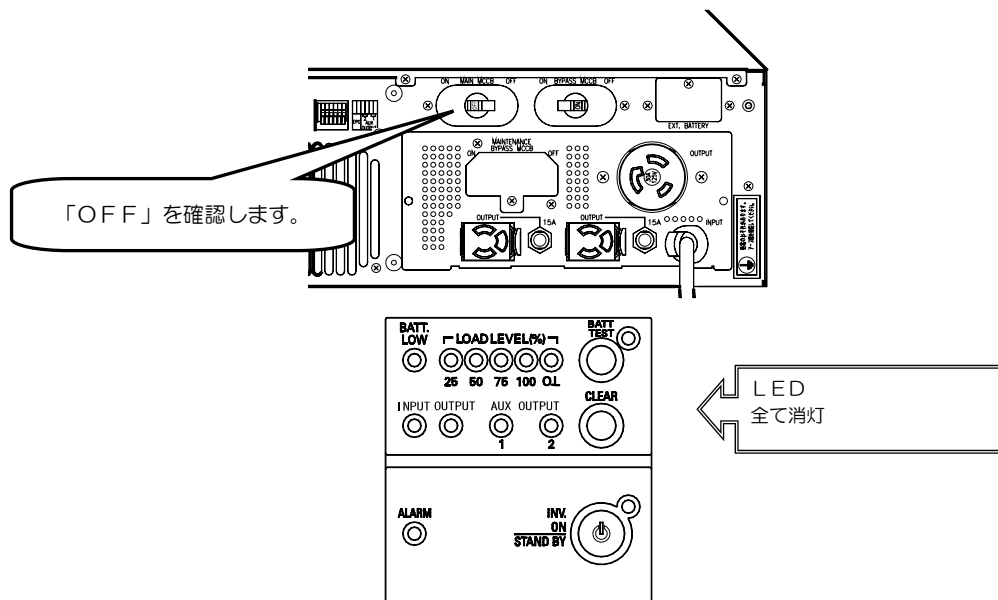
ご注意

装置背面の入力MCCB **MAIN MCCB** を「OFF」にした後、再度「ON」にする場合は、**30秒以上** 間隔をあけてください。

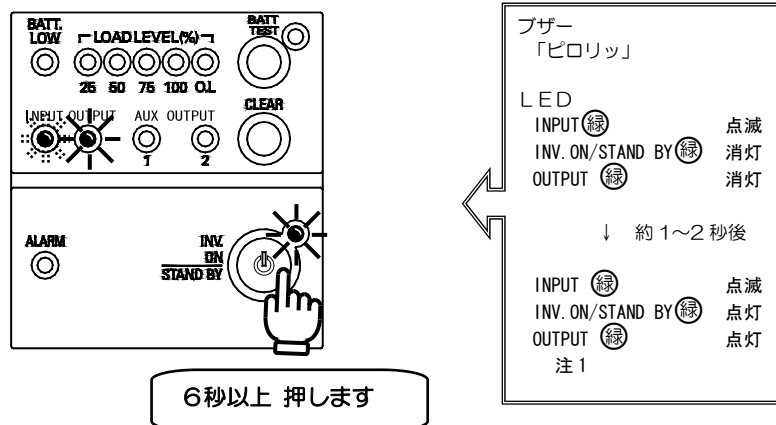
§ 9.2 装置を運転する（バッテリー起動）

本装置は交流入力が異常の状態（停電・電圧低下など）でも搭載されているバッテリーからインバータ出力を給電することができます。

- ① 装置背面の **MAIN MCCB** が「OFF」になっていることを確認します。



- ② **INV. ON/STAND BY** を6秒以上押して、ブザー音がなったら指をはなします。



注1. 出力系統制御の設定を「する」にした場合は、AUX OUTPUTの1,2も遅延時間の設定にしたがって点灯します。なお、遅延時間経過中は速い点滅となります。

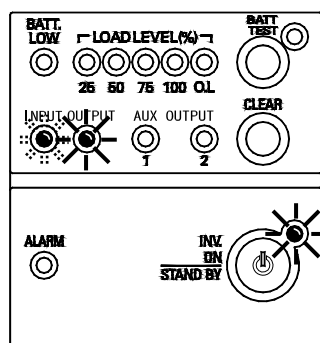
§ 9.3 停電動作確認テストをする

装置が正しく機能しているか確認するために停電動作テストをしてください。
 正常の場合はつぎようになります。

ご注意

接続している負荷の電源を「ON」にする前に実施してください。

- ① 入力分電盤のブレーカを「OFF」にします。



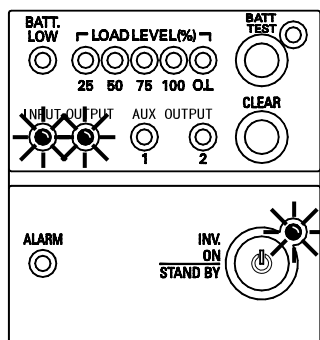
ブザー
「ピッピッ…ピッピッ…」

LED

INPUT (緑) 点滅
 INV. ON/STAND BY (緑) 点灯
 OUTPUT (緑) 点灯

注 1

- ② 入力分電盤のブレーカをONにします。



ブザー
停止

LED

INPUT (緑) 点灯
 INV. ON/STAND BY (緑) 点灯
 OUTPUT (緑) 点灯

注 1

注1. 出力系統制御の設定を「する」にした場合は、AUX OUTPUTの1,2も点灯となります。なお、遅延時間経過中は速い点滅となります。

ご注意

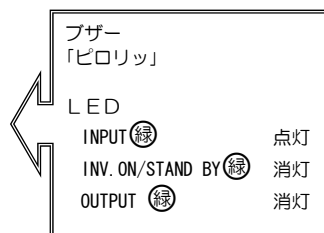
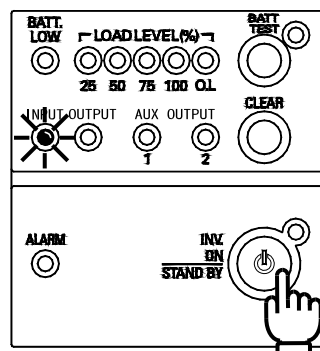
入力分電盤が近くにない場合は、**MAIN MCCB** をON/OFFさせてください。

装置はインバータ運転を継続しているため入力プラグにわずかですが電圧(30V未満)が発生しています。

入力プラグは、運転中に引き抜かないように注意してください。

§ 9.4 装置を止める（日常の停止）

- ①  を 1 秒以上押します。



1 秒以上 押します

ご注意

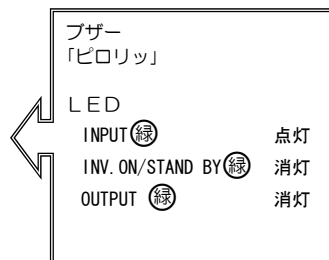
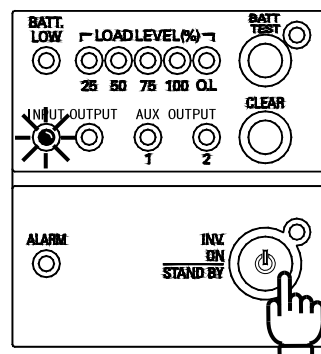
日常の停止の場合、**MAIN MCCB** は「ON」のままとし、操作しないでください。
コンセントボックス（オプション）使用時に、OUTPUT 1,2 で起動／停止時間が設定されていると、設定した時間が経過した後、出力が停止します。

スタンダロンモードの場合

- OFF時動作設定がバイパスに設定、OFF遅延が設定され、インバータ運転【INV.ON/STAND BY (緑) 点灯】している場合に、 を 1 秒以上押すと遅延時間経過後、インバータ給電からバイパス給電になります。遅延時間経過中は、AUX OUTPUT の 1,2 が速い点滅となります。

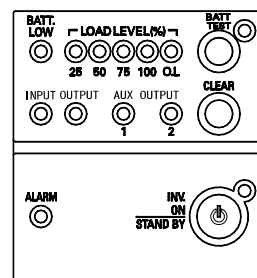
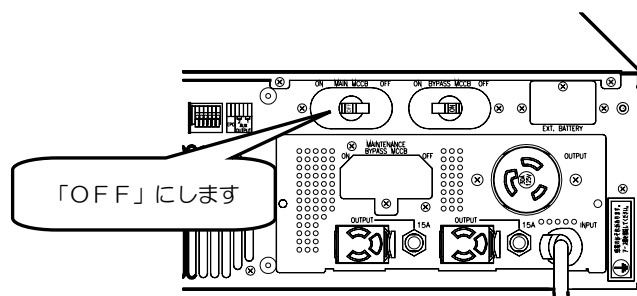
§ 9.5 装置を止める（一週間以上使用しない場合の停止）

- ①  を1秒以上押します。



1 秒以上 押します

- ② **MAIN MCCB** を「OFF」にします。



LED
すべて消灯

入カプラグ、出カコンセント仕様をご使用の場合

- ③ 入カプラグを抜きます。

端子台仕様をご使用の場合

- ③ 入出力分電盤のブレーカを「OFF」にします。

ご注意

装置を運転したままで入力電源を遮断すると長時間停電と同じ動作となり、バッテリーを放電してしまいます。運転再開時に装置のバックアップ機能を十分発揮できなくなりますのでご注意ください。

§ 10. ユーザー設定

下表のメニュー項目の設定ができます。ご使用の環境、用途に合わせて設定してください。
設定変更をした場合は、「現在の設定」の欄にチェックをしておくことをおすすめします。

●：点滅
○：消灯

ご注意

メニュー欄に「★」印のあるメニューは、設定変更後にUPSを再起動しないと設定値が有効になりません。
設定変更をした場合は、UPSをいったん停止し、再起動してください。UPSの停止操作は「§9.5 装置を止める（1週間以上使用しない場合の停止）」、起動操作は「§9.1 装置を運転する（通常運転）」をご覧ください。UPSを停止するときは、必ず負荷機器を停止してください。

項目番号	メニュー項目	項目表示LED	設定値	設定値表示LED	初期設定	現在の設定	備考
10.1	出力電圧 ★	● ● ○ ○ ○	100V 110V 115V 120V	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ○	※		
10.2	インタフェース	○ ○ ● ○ ○	スタンバイアロンモード ワークステーションモード 使用しない	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○	※		
10.3	通信ポーレート	● ○ ● ○ ○	9600 4800 2400	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○	※		
10.4	ブザー音	○ ● ● ○ ○	ON パターン1 パターン2 OFF	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ○	※		
10.5	周波数変動範囲 ★	● ● ● ○ ○	1% 3% 5%	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○	※		
10.6	復電時の動作	○ ○ ○ ● ○	自動 OFF 30% 50% 80% 電源管理ソフト使用時	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ○ ● ○ ● ○ ● ● ● ●	※		
10.7	 スイッチ反応時間	● ○ ○ ● ○	1秒 3秒	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○	※		
10.8	Ring 信号起動	○ ● ○ ● ○	起動する 起動しない	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○	※		
10.9	バッテリー起動時周波数	● ● ○ ● ○	50Hz 60Hz	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○	※		
10.10	バッテリーテストスケジュール	○ ○ ● ● ○	180日 90日 30日 しない	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ○	※		
10.11	過負荷時動作	● ○ ● ● ○	時間 電流値	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○	※		
10.12	インバータ給電停止時の動作★	○ ● ● ● ○	OFF バイパス	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○	※		
10.13	バッテリー保持時間	● ● ● ○ ●	10分 20分 25分 30分 60分 120分 180分	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ○ ● ○ ● ○ ○ ● ● ○ ● ● ● ○	※		サービス技術員以外 は操作しないでくだ さい。
10.14	バッテリー種類	○ ○ ○ ● ●	5年 10年	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○	※		
10.15	バッテリー余命時間リセット	● ○ ○ ● ●	しない する	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○	※		
10.16	連動運転	ON 遅延 OFF 遅延	● ○ ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ○ ● ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ●	※		
10.17	出力系統制御 ★	● ● ● ● ○	しない する	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○	※		
10.18	系統制御運転時 ON 遅延時間	OUTPUT1 OUTPUT2 右列の設定値	● ○ ○ ○ ● ○ ● ○ ○ ●	0秒 5秒 30秒 1分 5分 10分	0秒 6秒 35秒 1分30秒 5分30秒 10分30秒	※	コンセントボックス などオプションを使用 する場合に設定し ます。
10.19	系統制御運転時 OFF 遅延時間	OUTPUT1 OUTPUT2	● ● ○ ○ ● ○ ○ ● ○ ●	0秒 10秒 30秒 1分 3分 5分 電源管理ソフト使用時	● ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ● ○ ● ○ ● ○ ○ ● ● ○ ● ● ● ●	※	

項目番号	メニュー項目	項目表示 LED	設定値	設定値表示 LED	初期 設定	現在の 設定	備 考
10.20	系統制御運転時 停電時出力時間	OUTPUT1 ● ○ ● ○ ●	装置停止まで	● ○ ○ ○	※		コンセントボックス などオプションを使用 する場合に設定し ます。
			0 秒	○ ● ○ ○			
			30 秒	● ● ○ ○			
		OUTPUT2 ○ ● ● ○ ●	1 分	○ ○ ● ○			
			3 分	● ○ ● ○			
			5 分	○ ● ● ○			
10.21	電源管理ソフトによる 1.2 系統 出力停止後の動作設定	○ ○ ○ ○ ●	インバータを停止しない	● ○ ○ ○			
			インバータを停止する	○ ● ○ ○	※		
10.22	バッテリー電圧低下警告 タイミング	○ ● ○ ● ●	バッテリー電圧	● ○ ○ ○	※		
			2 分	○ ● ○ ○			
			3 分	● ● ○ ○			
			5 分	○ ○ ● ○			
			10 分	● ○ ● ○			
			電源管理ソフト使用時	● ● ● ●			

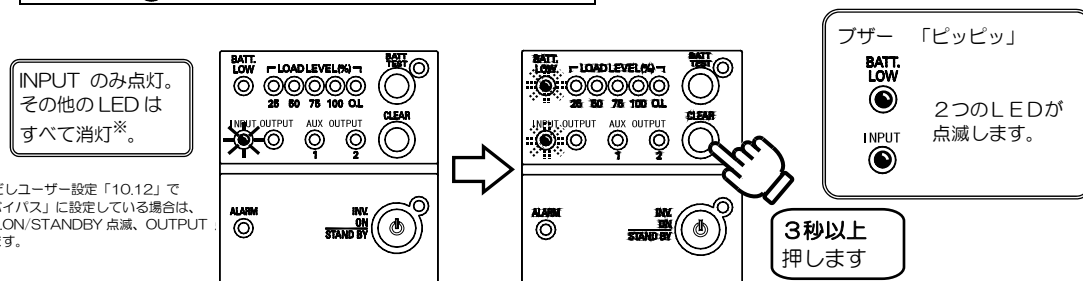
§ 10.1 出力電圧の設定

出力電圧を設定します。ご使用の環境に合わせて設定してください。

- ① 装置背面の **MAIN MCCB** が「ON」、 が「OFF」の状態では  を3秒以上押します。

必ず、 を「OFF」にして操作してください。

※ただしユーザー設定「10.12」で「バイパス」に設定している場合は、INV.ON/STANDBY点滅、OUTPUT点滅します。



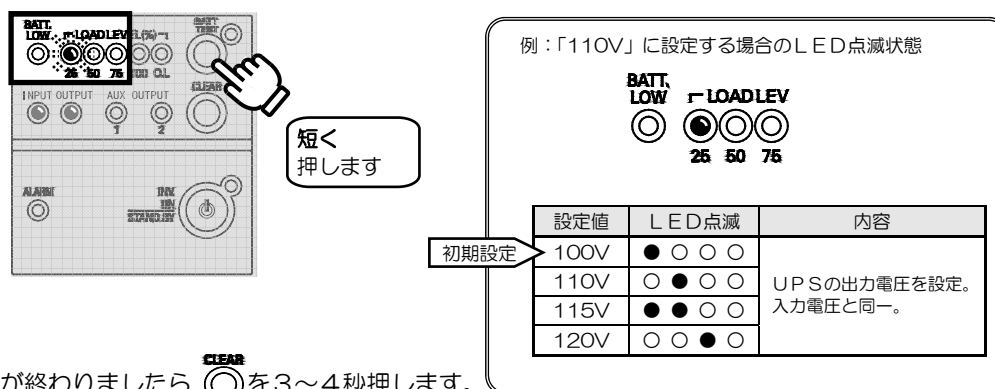
- ② 下図の  で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

 を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。 を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

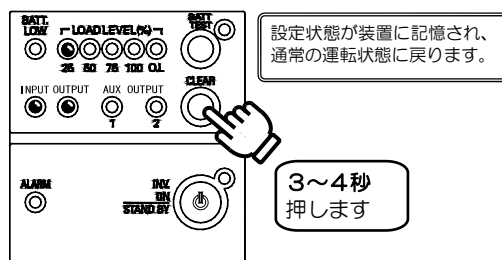


- ③ 下図の  で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

 を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。 を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



- ④ 設定が終わりましたら  を3～4秒押します。



ご注意

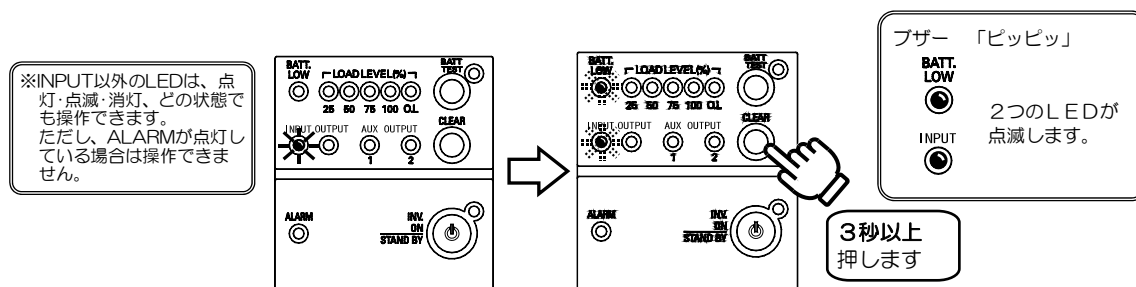
※この設定は、装置を再起動しないと、
設定変更が有効になりません。

- ⑤ 設定を有効にするために「§ 9.5 装置を止める」、「§ 9.1 装置を運転する」を参照し、装置の再起動を行ってください。

§ 10.2 インタフェースの設定

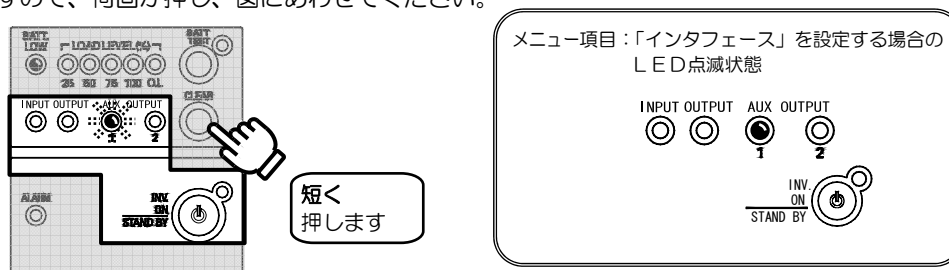
UPSにワークステーション(W/S)またはパーソナルコンピュータ(PC)を接続する場合の設定をします。

- ① 装置の操作部【INPUT[●]】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。



- ② 下図の で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。



- ③ 下図の で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

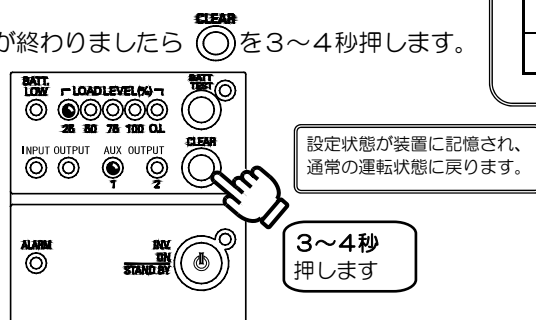
^{BATT. TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT. TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。

例：「ワークステーションモード」に設定する場合のLED点滅状態

設定値	LED点滅	内容
初期設定 スタンダオン	●○○○	・OS標準UPSサービス機能、 ・リモートON/OFF機能を使用する場合。
ワークステーション	○●○○	・電源管理ソフトウェア、 ・LANインタフェースカード ・リモートON/ワンタッチシャットダウン機能を使用する場合
—	●●○○	設定しないでください。

短く押します

- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3～4秒押します。



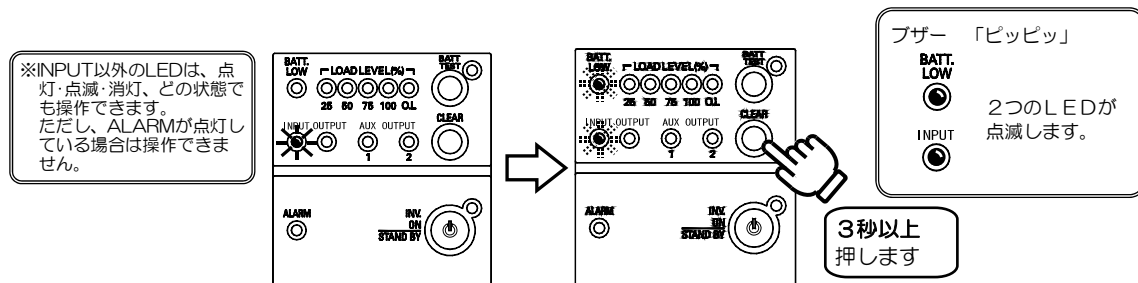
ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.3 通信ボーレートの設定

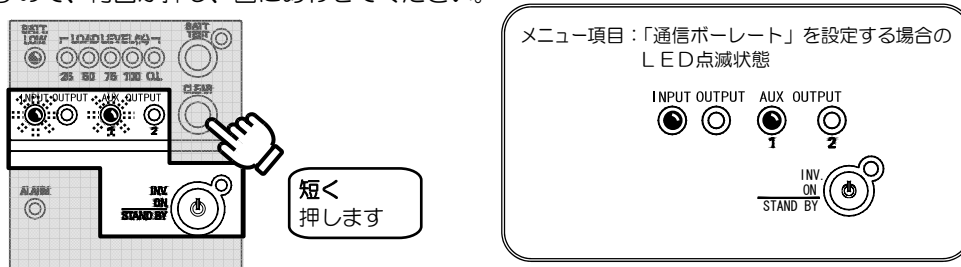
ワークステーション(W/S)、パーソナルコンピュータ(PC)またはLANインタフェースカード（オプション）を接続する場合の通信ボーレートを設定します。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。



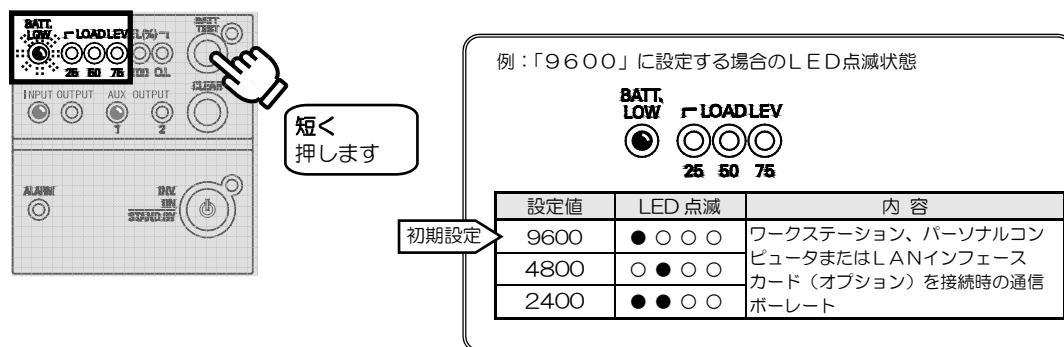
- ② 下図の で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

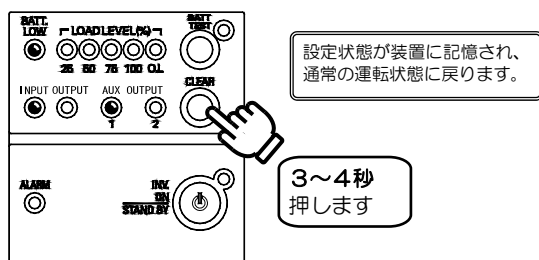


- ③ 下図の で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3～4秒押します。



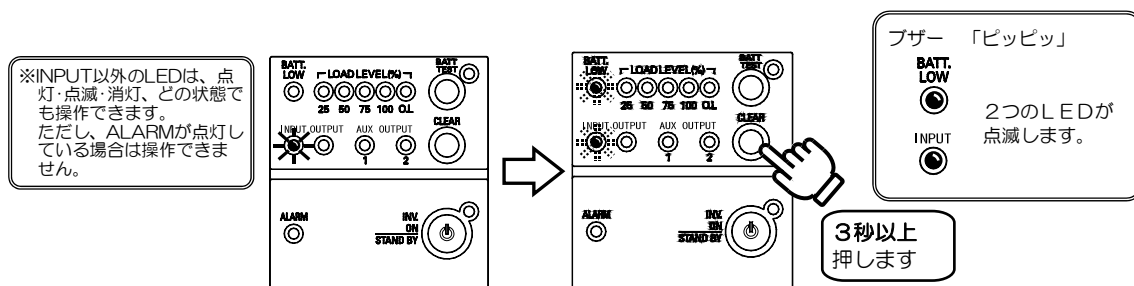
ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.4 ブザー音の設定

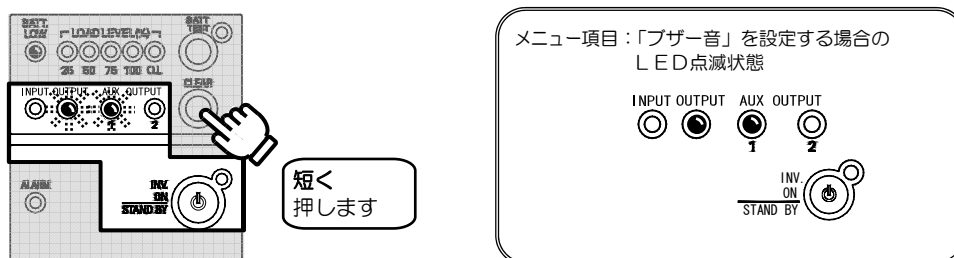
UPSの状態に変化があった場合、ブザー音を鳴らす「ON」、鳴らさない「OFF」を設定します。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、を3秒以上押します。



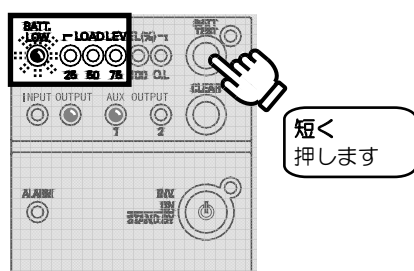
- ② 下図の  で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。



- ③ 下図の  で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



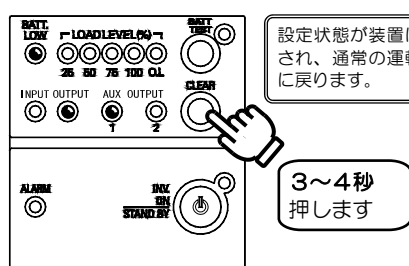
例：ブザー音「すべて」の場合のLED点滅状態

BATT. LOW
LOAD LEV
25 50 75

設定値	LED点滅	内容
すべて	● ○ ○ ○	キークリック音、バッテリーテスト中、バッテリーテスト結果異常時、停電発生時、過負荷時、重故障発生時、バッテリー警告時(バッテリー余命警告、バッテリー寿命、バッテリー電圧低下時、放電終止発生中)にブザーが鳴ります。
パターン1	○ ● ○ ○	キークリック音、重故障発生時、バッテリー警告時(バッテリー余命警告、バッテリー寿命、バッテリー電圧低下時、放電終止発生中)にブザーが鳴ります。
パターン2	● ● ○ ○	キークリック音、重故障発生時にブザーが鳴ります。
OFF	○ ○ ● ○	キークリック音のみ鳴ります。

※ブザー音「OFF」の場合でもキーによりメニュー操作をした場合はブザー音が鳴ります。

- ④ 設定が終わりましたら を3～4秒押します。



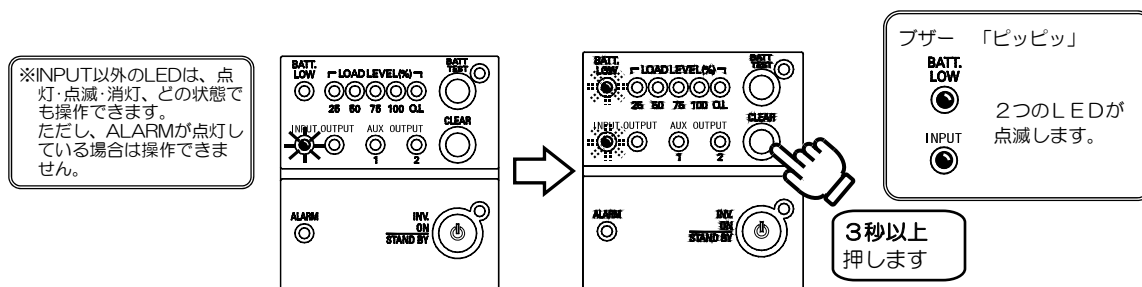
ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.5 周波数変動範囲の設定

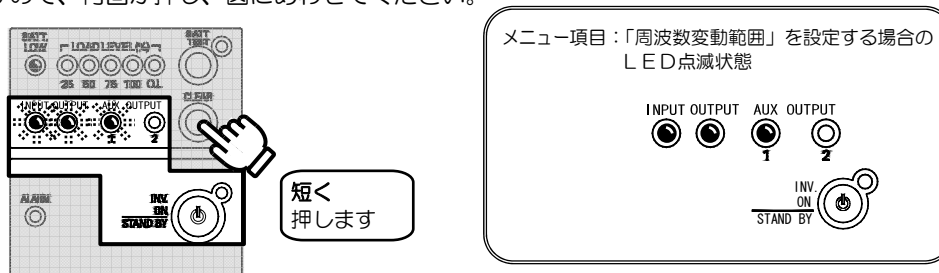
出力周波数を入力周波数の変動に合わせる範囲(%)を設定します。
 数値が小さいほど精度は良いですが、入力周波数が不安定な場合はバッテリー運転に切り換わりやすくなります。
 E G (エンジン発電機) と組み合わせるときには、大きい数値を選択してください。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。



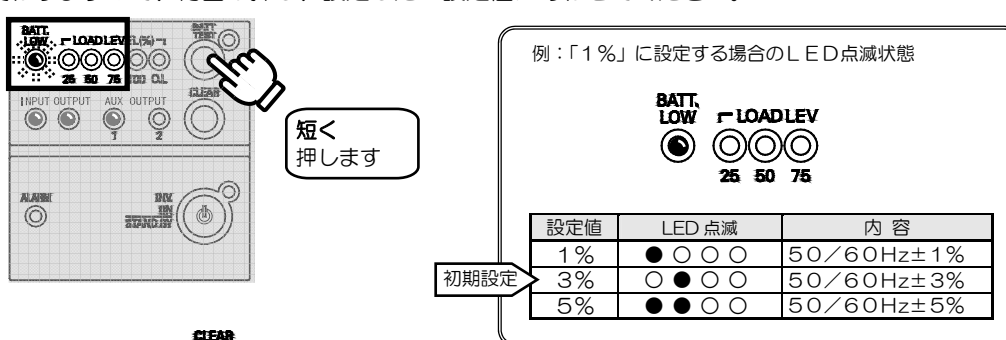
- ② 下図の  で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

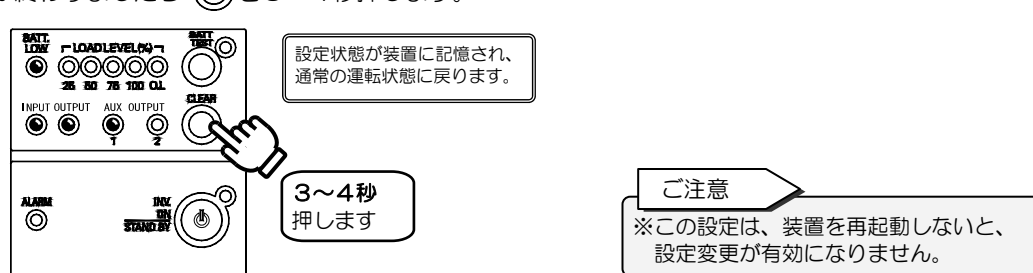


- ③ 下図の  で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3～4秒押します。

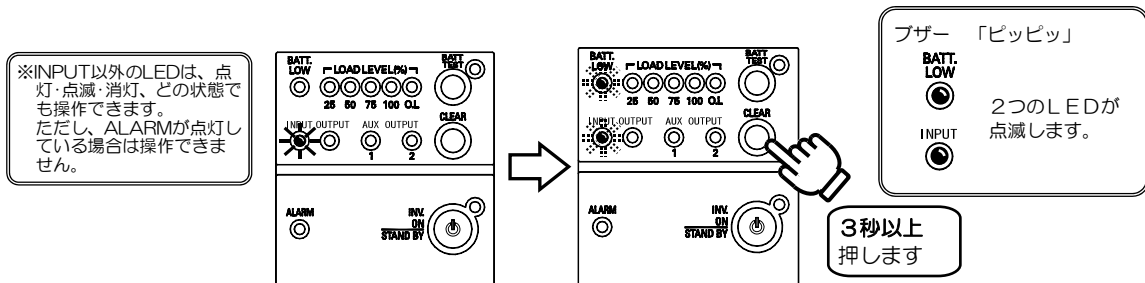


- ⑤ 設定を有効にするために「§ 9.5 装置を止める」、「§ 9.1 装置を運転する」を参照し、装置の再起動を行ってください。

§ 10.6 復電時の動作の設定

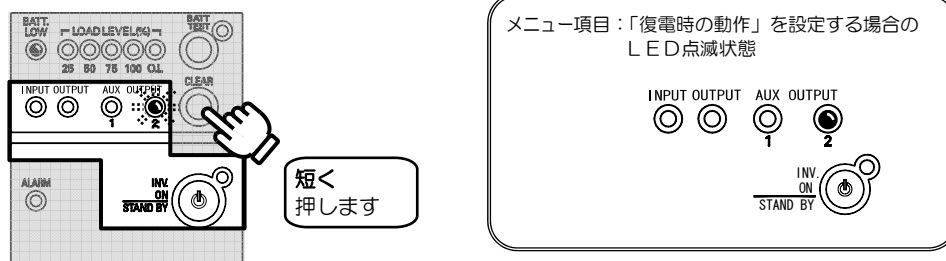
停電発生時、バッテリー放電終止によりUPSが停止した後に、商用電源が復電した場合のUPSの動作を設定します。

- ① 装置の操作部【INPUT^③】が点灯※していることを確認し、を3秒以上押します。



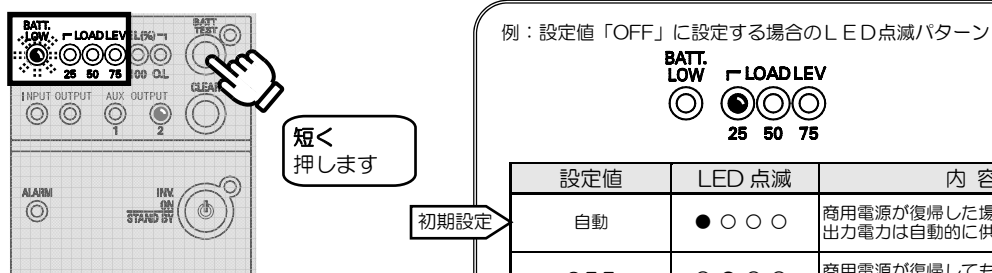
- ② 下図ので囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

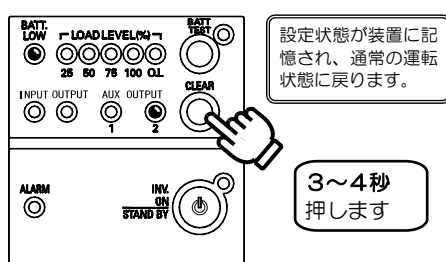


- ③ 下図ので囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



- ④ 設定が終わりましたらを3～4秒押します。



設定値	LED 点滅	内 容
自動	● ○ ○ ○	商用電源が復帰した場合、出力電力は自動的に供給されます。
OFF	○ ● ○ ○	商用電源が復帰しても、出力電力は供給されません。
30 %	● ● ○ ○	商用電源が復帰した場合、バッテリーが30%以上に充電されると、出力電力は自動的に供給されます。
50 %	○ ○ ● ○	商用電源が復帰した場合、バッテリーが50%以上に充電されると、出力電力は自動的に供給されます。
80 %	● ○ ● ○	商用電源が復帰した場合、バッテリーが80%以上に充電されると、出力電力は自動的に供給されます。
電源管理ソフトまたはLANカード使用時 ※3	● ● ● ●	商用電源が復帰した場合、バッテリーが電源管理ソフトから設定された値以上に充電されると、出力電力は自動的に供給されます。

※1. またはリモートスイッチでインバータをOFFにした場合はインバータ「自動」に設定されていても、自動起動しません。

※2. 「10.12 インバータ給電停止時の動作」で「バイパス」に設定されている場合は、バイパス給電となります。

※3. 電源管理ソフトまたはLANインタフェースカードを組み合わせる場合、UPS側での設定より、電源管理ソフトまたはLANインタフェースカードの設定が優先されます。

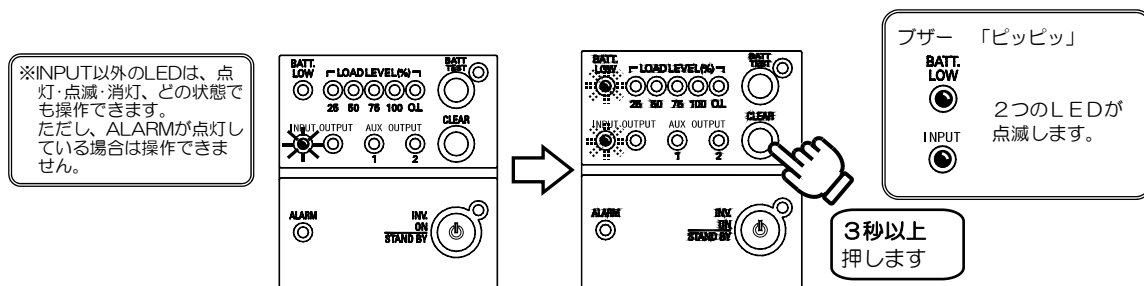
ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.7 スイッチの OFF 反応時間の設定

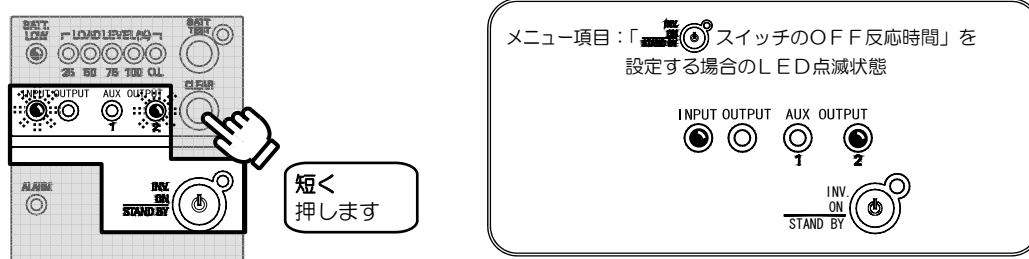
インバータ給電を停止する場合の  を押す時間(秒)を設定します。

- ① 装置の操作部【INPUT 】が点灯※していることを確認し、 を3秒以上押します。



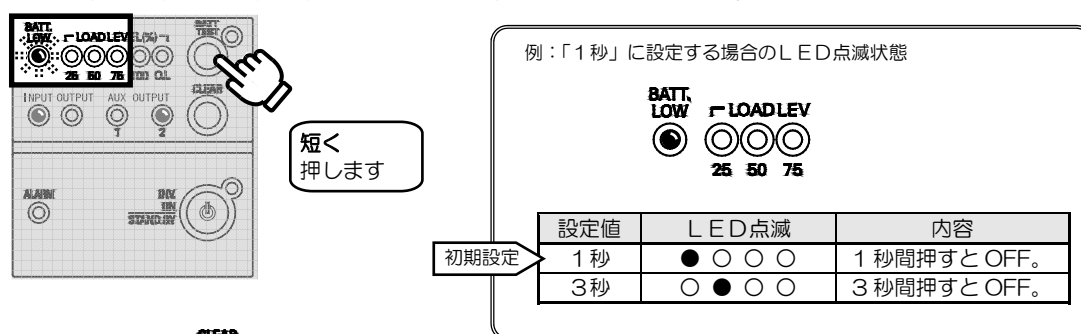
- ② 下図の  で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

 を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。 を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

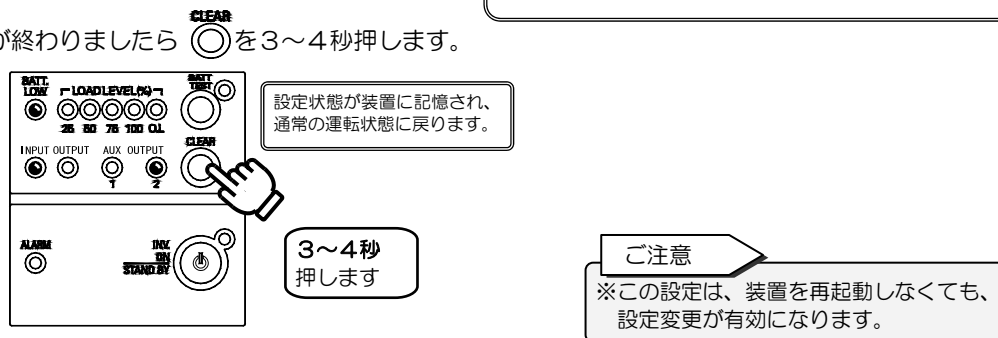


- ③ 下図の  で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

 を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。 を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



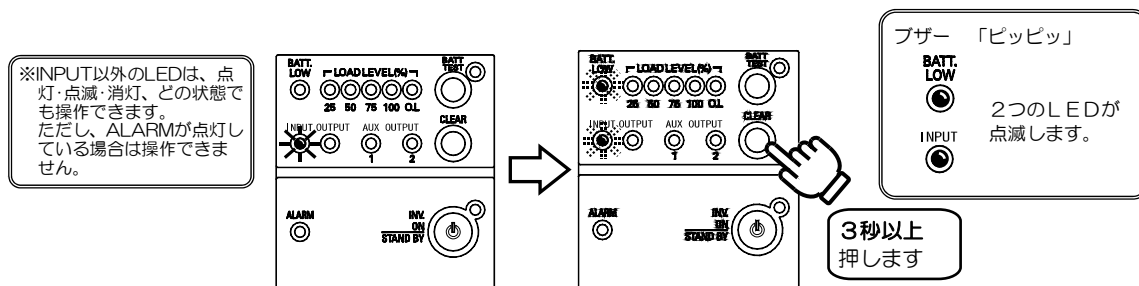
- ④ 設定が終わりましたら  を3～4秒押します。



§ 10.8 Ring 信号起動の設定

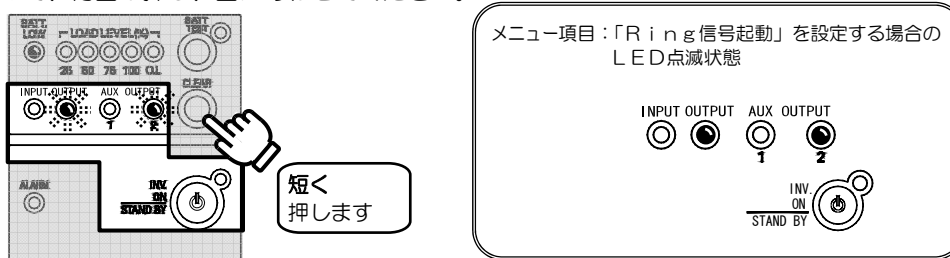
Wake UP on Ring 機能に対応したパーソナルコンピュータ(PC)を接続する場合に設定します。
Ring 信号を起動に設定すると、UPS 起動時に PC を同時に起動することができます。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。



- ② 下図の で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。



- ③ 下図の で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。

短く押します

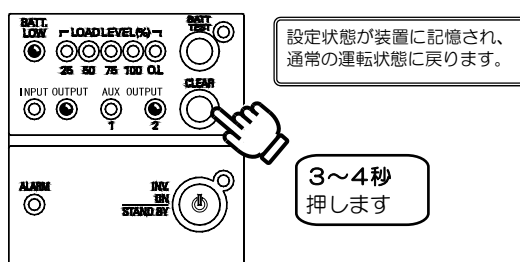
例:「起動する」に設定する場合のLED点滅状態

BATT. LOW LOAD LEV
25 50 75

設定値	LED点滅	内容
初期設定		
起動する	● ○ ○ ○	UPS 起動時に自動起動する
起動しない	○ ● ○ ○	UPS 起動時に自動起動しない

この設定は WakeUp on Ring 機能に対応した PC にのみ有効です。
PC 側でこの機能を有効に設定する必要があります。

- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3~4秒押します。



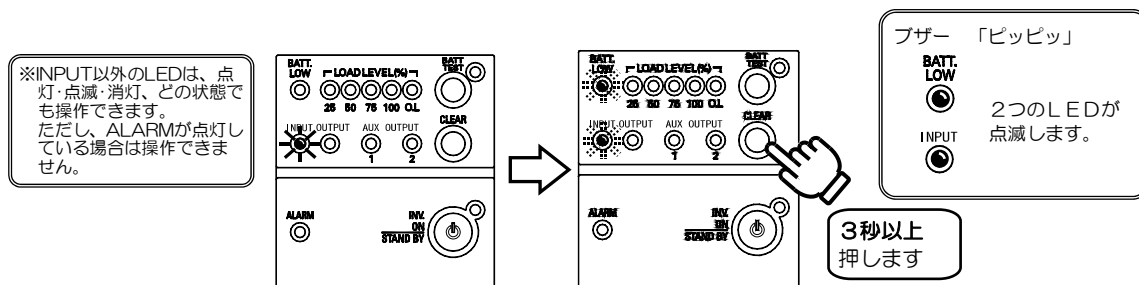
ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.9 バッテリ起動時周波数の設定

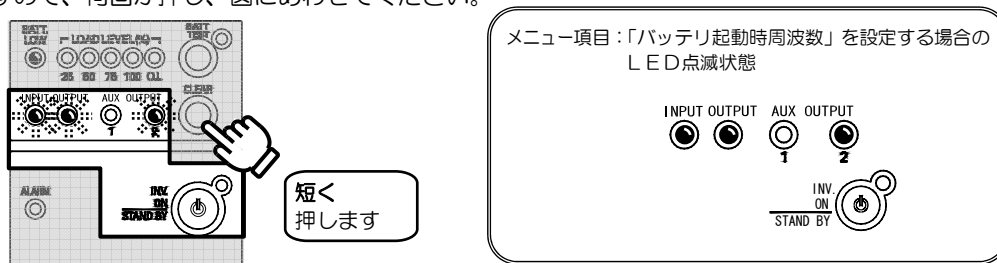
UPS停止状態時に、バッテリー電力からインバータを起動する場合のインバータ出力周波数を設定します。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。



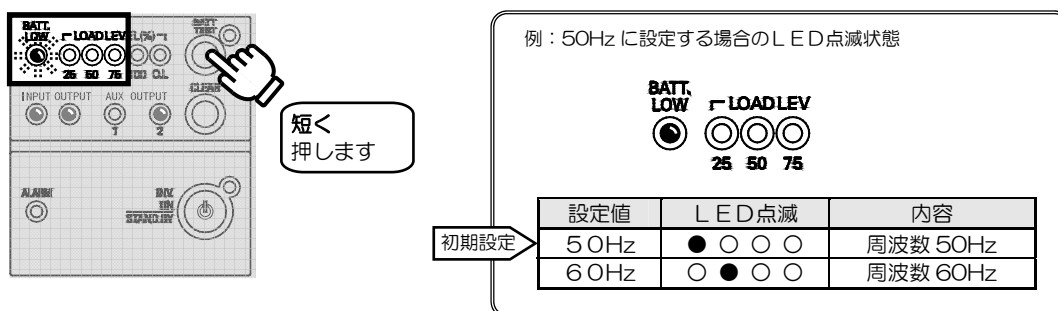
- ② 下図の  で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

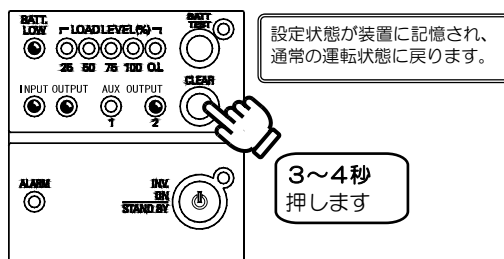


- ③ 下図の  で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT. TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT. TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3～4秒押します。



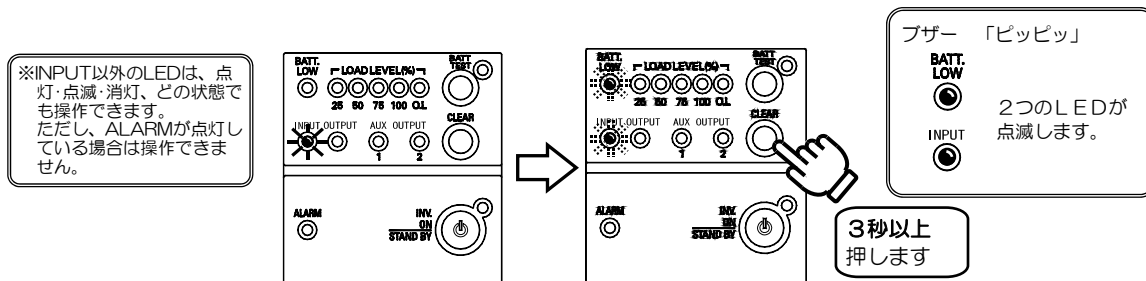
ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.10 バッテリテストスケジュールの設定

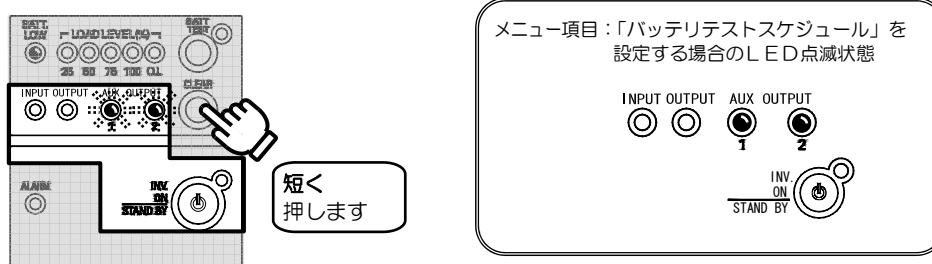
自動的に実施されるバッテリテストの期間（日数）を設定します。
設定した期間が経過すると自動的にバッテリテストが実施されます。

- ① 装置の操作部【INPUT^③】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}○を3秒以上押します。



- ② 下図の^{CLEAR}□で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}○を短く（3秒以下）押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}○を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。



- ③ 下図の^{BATT TEST}□で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT TEST}○を短く（3秒以下）押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT TEST}○を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。

短く押します

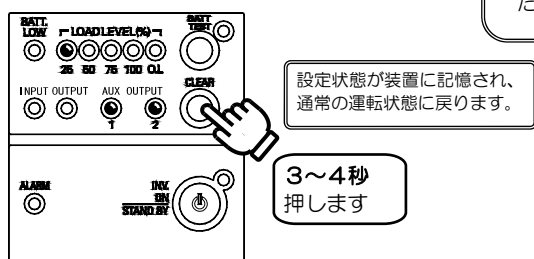
例：「90日」に設定する場合のLED点滅状態

設定値	LED点滅	内容
180日	● ○ ○ ○	180日ごとに自動でバッテリーテスト実施
90日	○ ● ○ ○	90日ごとに自動でバッテリーテスト実施
30日	● ● ○ ○	30日ごとに自動でバッテリーテスト実施
しない	○ ○ ● ○	バッテリーテストは自動的に実施されません。

初期設定

バッテリーテスト実施時に、UPSがバッテリーテストをできない状態の場合は（インバータ停止状態など）、バッテリーテストができる状態になった時点でバッテリーテストが実施されます。

- ④ 設定が終わりましたら^{CLEAR}○を3～4秒押します。



スケジュールでバッテリーテストが自動的に実行される場合にもブザーは鳴動します。

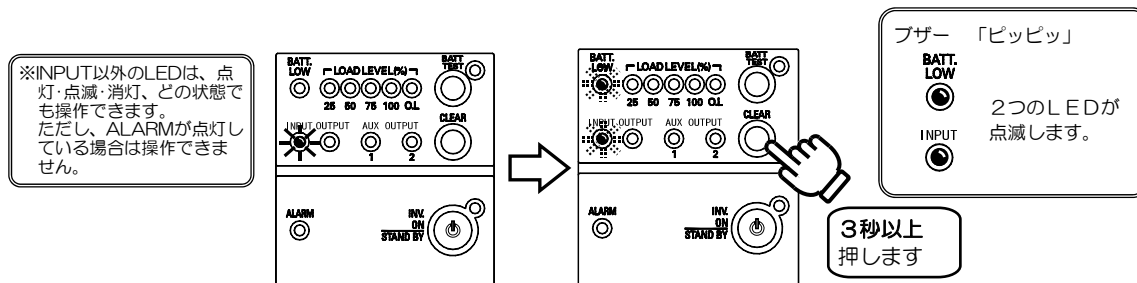
ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.11 過負荷時の動作の設定

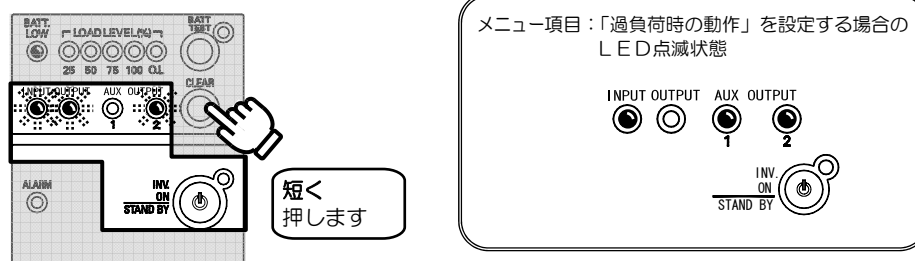
過負荷によりバイパス給電へ切り換わった後、自動的にインバータ給電へ切り換わる場合(オートリターン)の条件を設定します。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、を3秒以上押します。



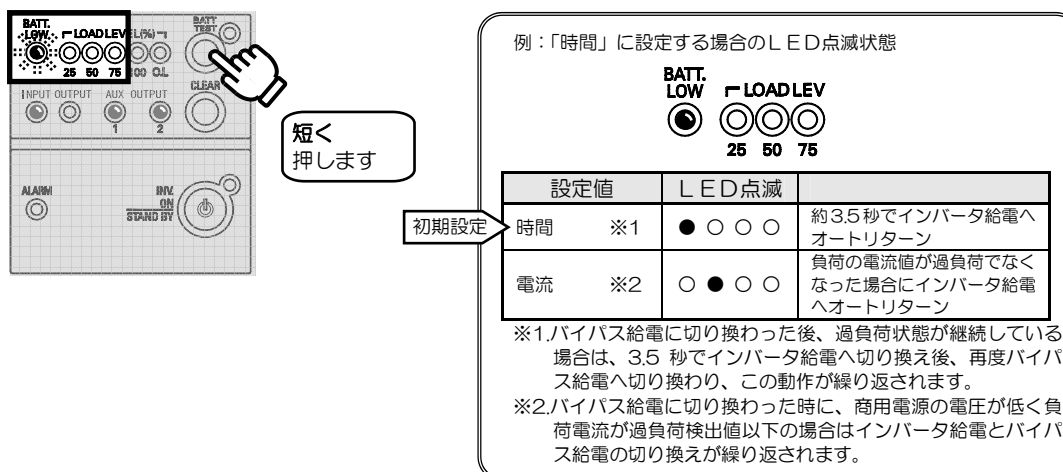
- ② 下図ので囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。



- ③ 下図ので囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



例：「時間」に設定する場合のLED点滅状態

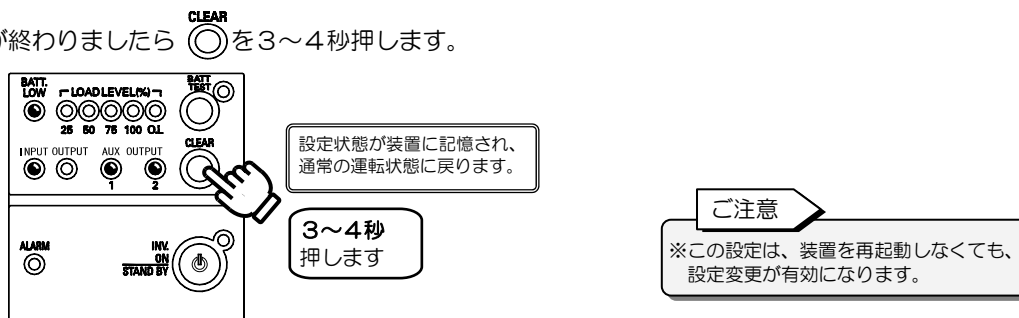
設定値	LED点滅	
時間 ※1	● ○ ○ ○	約3.5秒でインバータ給電へオートリターン
電流 ※2	○ ● ○ ○	負荷の電流値が過負荷でなくなった場合にインバータ給電へオートリターン

※1. バイパス給電に切り換わった後、過負荷状態が継続している場合は、3.5秒でインバータ給電へ切り換え後、再度バイパス給電へ切り換わり、この動作が繰り返されます。
※2. バイパス給電に切り換わった時に、商用電源の電圧が低く負荷電流が過負荷検出値以下の場合はインバータ給電とバイパス給電の切り換えが繰り返されます。

短く押します

初期設定

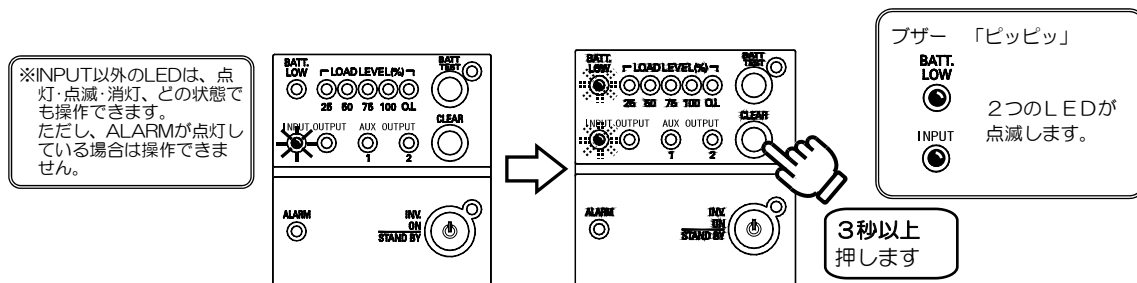
- ④ 設定が終わりましたら を3～4秒押します。



§ 10.12 インバータ給電停止時の動作の設定

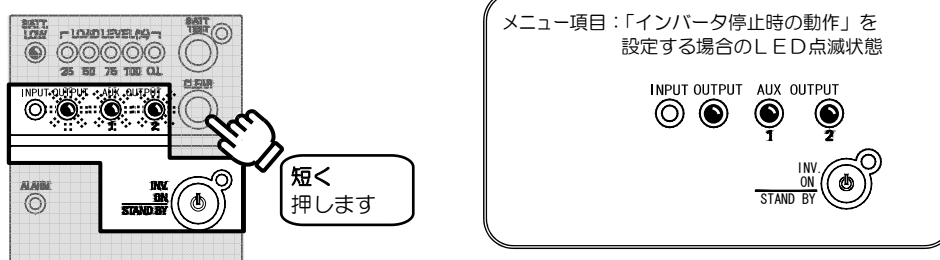
「§ 9.4 装置を止める」の操作で装置を停止（インバータ給電停止）した場合の、UPSの動作を設定します。
「バイパス」を選択すると、インバータ給電停止時に出力はバイパスから給電されます。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}○を3秒以上押します。



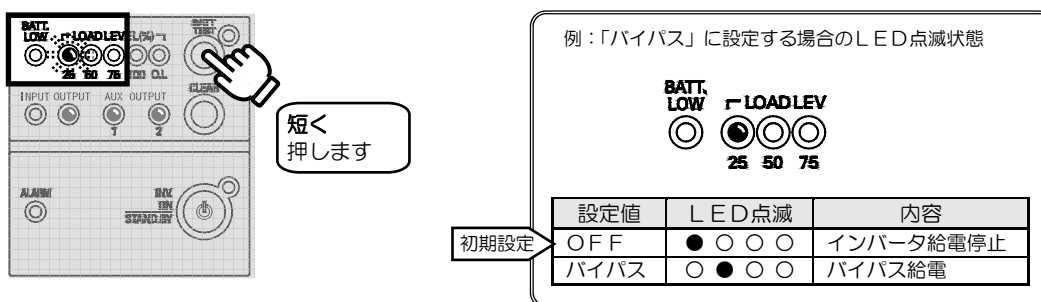
- ② 下図の  で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}○を短く（3秒以下）押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}○を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

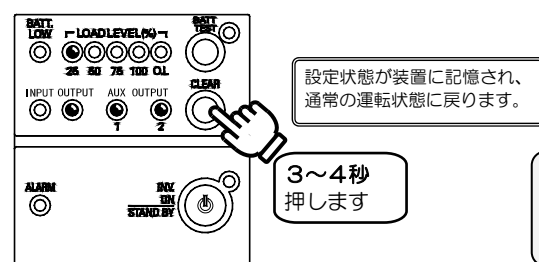


- ③ 下図の  で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT TEST}○を短く（3秒以下）押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT TEST}○を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}○を3～4秒押します。



ご注意

※この設定は、装置を再起動しないと設定変更が有効になりません。
※「§ 10.2 インタフェースの設定」がワークステーションモードに設定されている場合は、電源管理ソフト(お'ヨ'リ)も再起動が必要です。

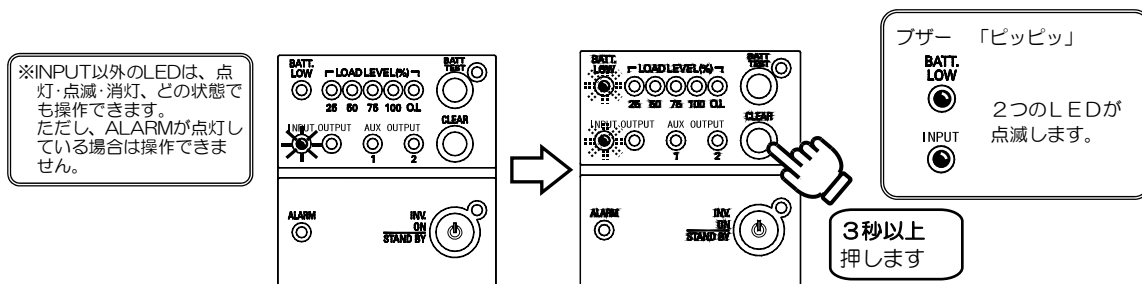
- ⑤ 設定を有効にするために「§ 9.5 装置を止める」、「§ 9.1 装置を運転する」を参照し、装置の再起動を行ってください。

§ 10.13 バッテリ保持時間の設定

工場出荷時に設定されています。お客様での設定変更はしないでください。

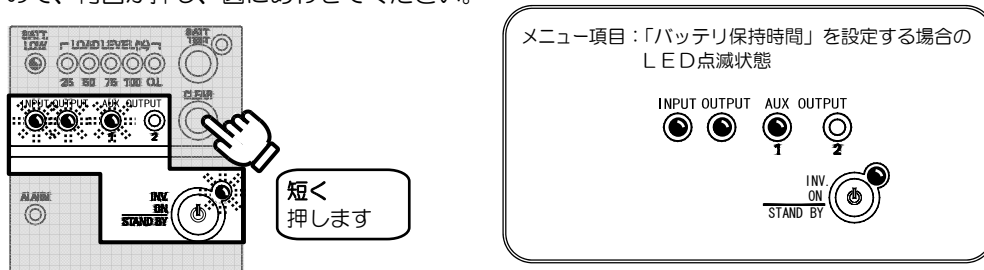
誤って、バッテリー保持時間を変更してしまった場合は、UPSの増設バッテリー盤のバックアップ時間を確認し、次の手順で設定してください。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。



- ② 下図の で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。



- ③ 下図の で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT. TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT. TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。

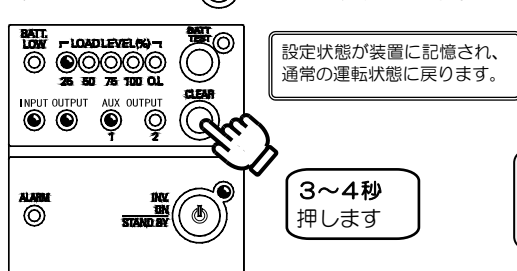
短く押します

例：10分に設定する場合のLED点滅状態

設定値	LED点滅	内容
10分	● ○ ○ ○	UPSのバックアップ時間の設定。20分以上は増設バッテリー接続時に指定します。
20分	○ ● ○ ○	
25分	● ● ○ ○	
30分	○ ○ ● ○	
60分	● ○ ● ○	設定できるバックアップ時間はUPSのモデル名により異なります。
120分	○ ● ● ○	
180分	● ● ● ○	

初期設定

- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3～4秒押します。



ご注意

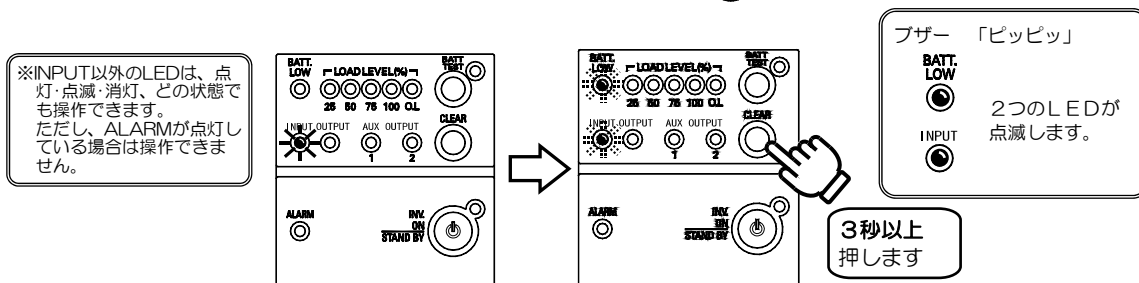
※設定を変更した後に「§ 10.15 バッテリ余命時間リセット」の操作をしないと、設定変更が有効になりません。バッテリー交換、増設時以外は操作しないでください。

§ 10.14 バッテリー種類の設定

工場出荷時に設定されています。お客様での設定変更はしないでください。

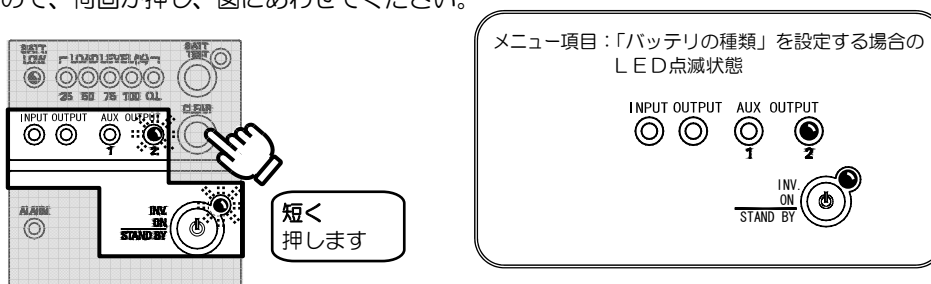
誤って、バッテリーの種類を変更してしまった場合は、次の手順で設定してください。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。



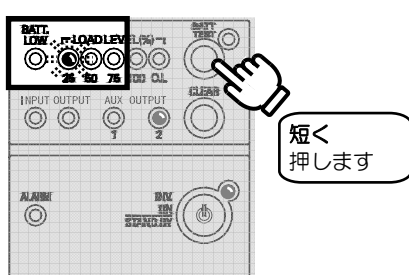
- ② 下図の で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

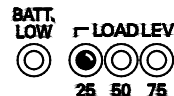


- ③ 下図の で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT. TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT. TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



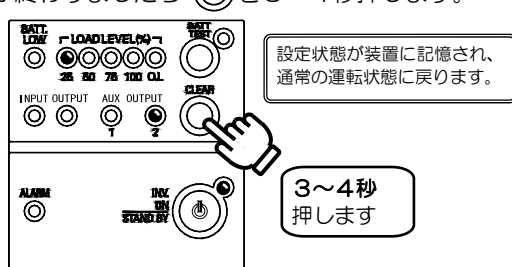
例：13年に設定する場合のLED点滅状態



設定値	LED点滅	内容
5年	● ○ ○ ○	バッテリー寿命5年タイプ
13年	○ ● ○ ○	バッテリー寿命13年タイプ

搭載しているバッテリーのタイプに合わせて設定してください。寿命5年タイプのバッテリー搭載しているときに、設定値「13年」を選択しても、実際のバッテリー寿命は13年にはなりません。

- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3～4秒押します。



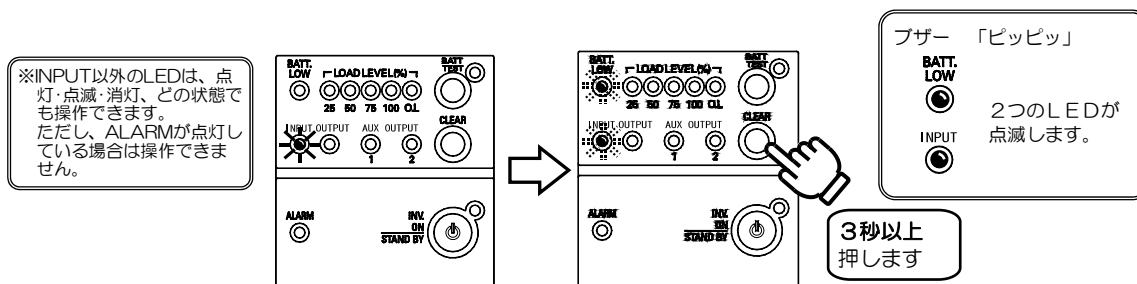
ご注意

※設定を変更した後に「§ 10.15 バッテリー余命時間リセット」の操作をしないと、設定変更が有効になりません。バッテリー交換、増設時以外は操作しないでください。

§ 10.15 バッテリー余命時間リセット

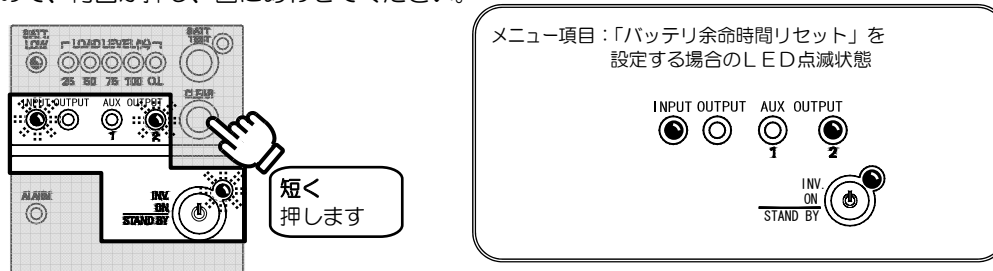
工場出荷時に設定されています。また、バッテリー交換をした場合にバッテリー余命時間をリセットします。誤って操作をすると、バッテリー余命の警告が正しく表示されません。お客様での設定変更はしないでください。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。



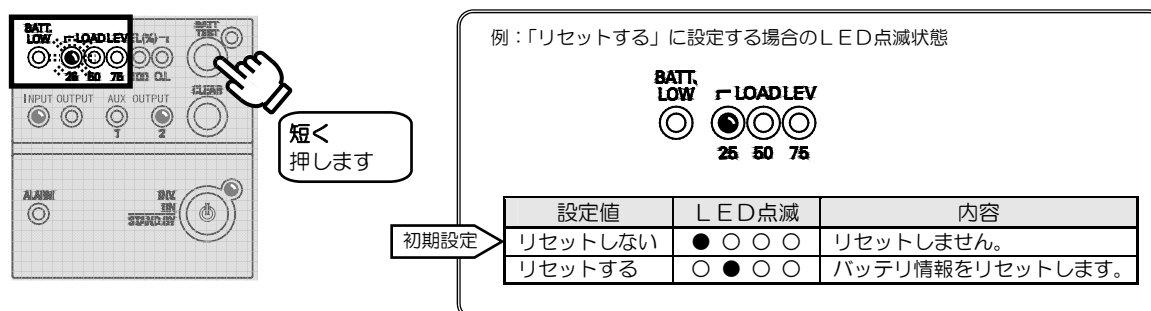
- ② 下図の^{CLEAR}で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

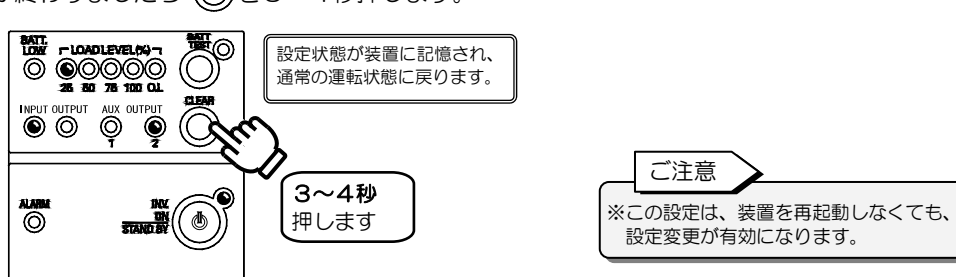


- ③ 下図の^{BATT TEST}で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



- ④ 設定が終わりましたら^{CLEAR}を3～4秒押します。



連動運転をする場合の設定

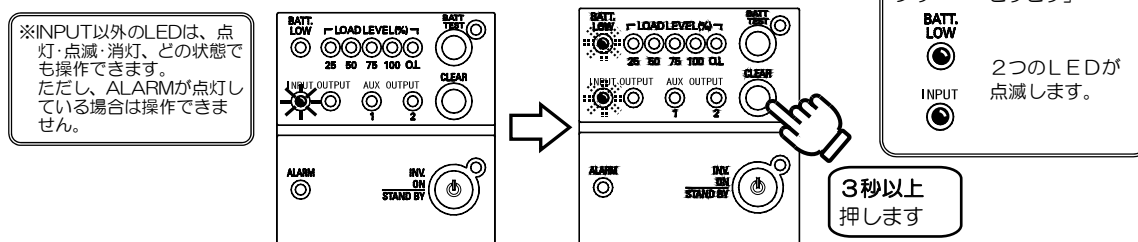
連動運転とは・・・

複数台(最大5台)のA11Fを接続して、それぞれの装置の「ON・OFF」遅延時間を設定し、起動・停止を連動させて運転することができる機能です。専用のケーブル、スイッチ（オプション）が必要です。

§ 10.16 連動運転時の「ON・OFF」

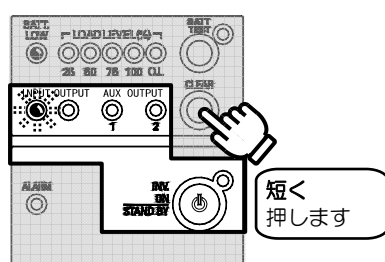
装置を連動させて運転する場合、それぞれの装置が起動・停止するときの遅延時間を設定します。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。

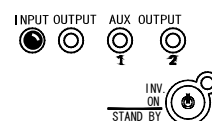


- ② 下図の で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、設定するメニュー項目のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、メニュー項目にあわせてください。



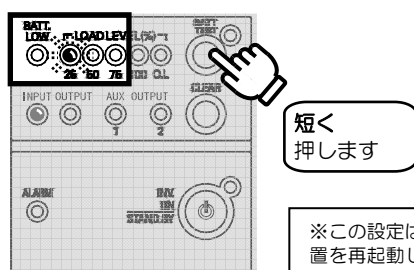
例：「連動運転ON遅延時間」を設定する場合のLED点滅状態



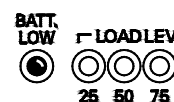
メニュー項目	LED点滅
連動運転ON遅延時間	● ○ ○ ○ ○
連動運転OFF遅延時間	○ ● ○ ○ ○

- ③ 下図の で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT. TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT. TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。

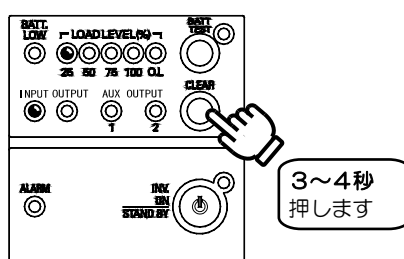


例：遅延時間「0秒」に設定する場合のLED点滅状態



	設定値	LED点滅	内容
初期設定	0 秒	● ○ ○ ○	専用スイッチを操作後、選択した時間が経過した時点でインバータ出力が供給または停止します。
	10 秒	○ ● ○ ○	
	30 秒	● ● ○ ○	
	1 分	○ ○ ● ○	
	3 分	● ○ ● ○	
	5 分	○ ● ● ○	
	10 分	● ● ● ○	
	15 分	○ ○ ○ ●	

- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3～4秒押します。



設定状態が装置に記憶され、通常の運転状態に戻ります。

ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

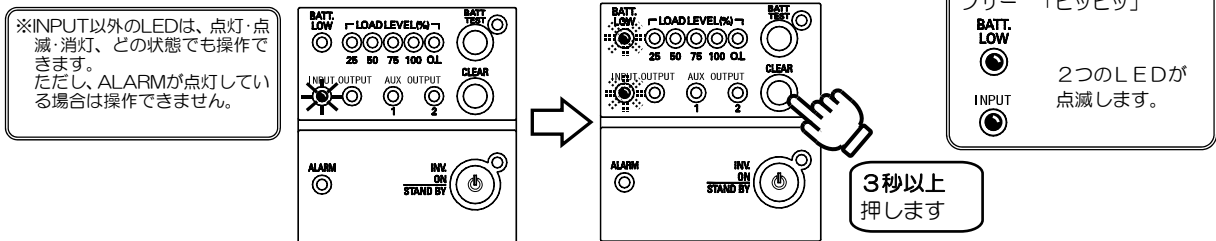
コンセントボックス（オプション）を使用する場合

コンセントボックスはUPSの出力を2系統に分割し、出力を制御（システムの順次起動・停止）することができます。「§10.17」「§10.18」「§10.19」「§10.20」の設定をしてください。

§10.17 コンセントボックスによる出力系統制御の設定

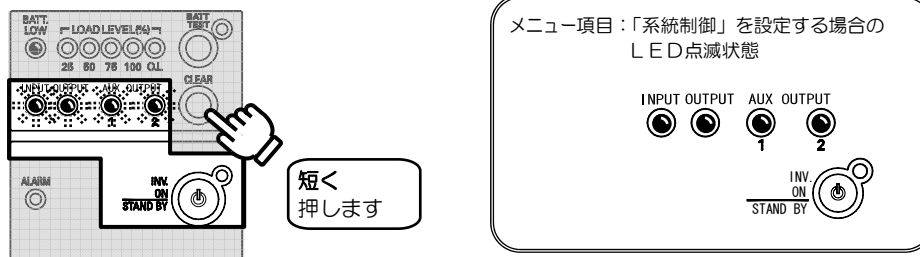
コンセントボックスを使用してUPSの出力系統制御をする場合、「する」に設定します。
コンセントボックスの出力系統制御の1と2の給電に対応して、それぞれUPSのAUX OUTPUTの1,2のLEDが点灯します。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、を3秒以上押します。



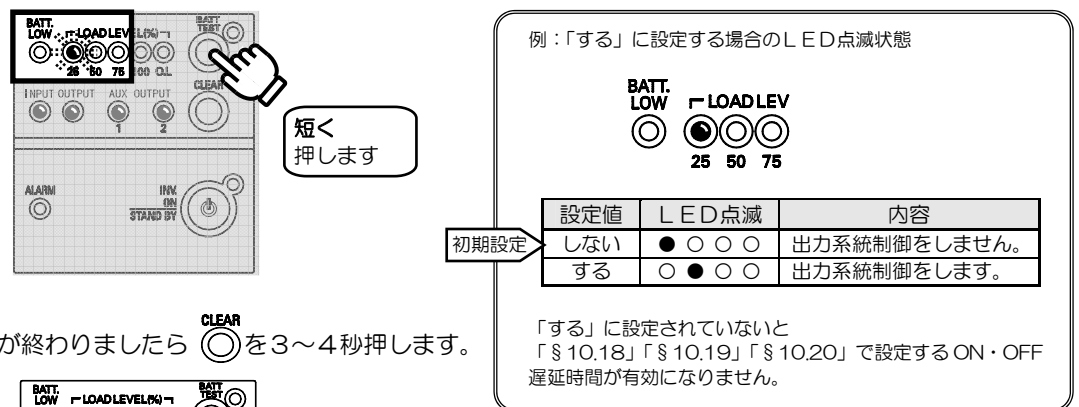
- ② 下図ので囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

を短く（3秒以下）押し、図のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

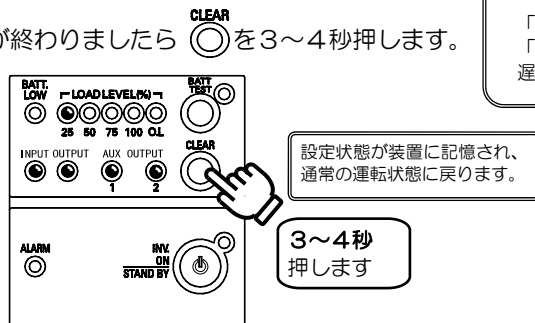


- ③ 下図ので囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

を短く（3秒以下）押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



- ④ 設定が終わりましたら を3～4秒押します。



ご注意

※この設定は、装置を再起動しないと設定変更が有効になりません。
※「§10.2 インタフェースの設定」がワークステーションモードに設定されている場合は、電源管理ソフト（オプション）も再起動が必要です。

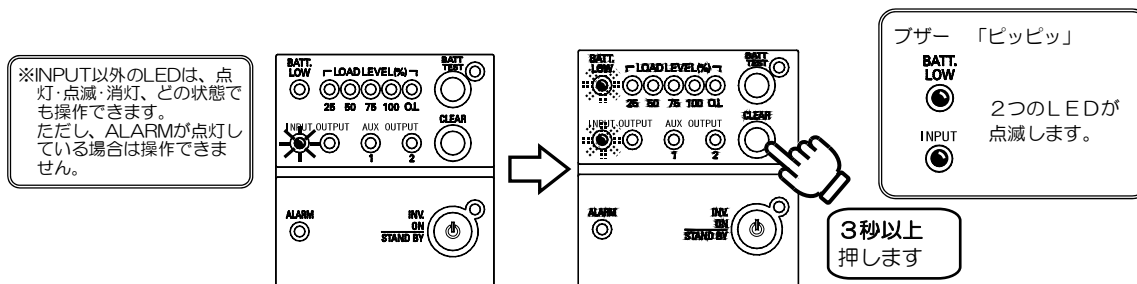
- ⑤ 設定を有効にするために「§9.5 装置を止める」、「§9.1 装置を運転する」を参照し、装置の再起動を行ってください。

§ 10.18 出力系統制御運転時の「ON」遅延時間の設定

コンセントボックスを使用して出力を系統制御する場合に設定します。

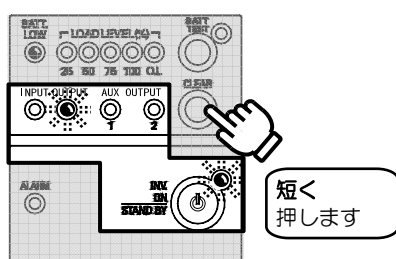
2系統の出力のON遅延時間を設定することにより、順次、システムを起動させることができます。OFF遅延時間の設定は「§ 10.19」をご覧ください。「10.17」で「する」に設定されていないと設定が有効になりません。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。

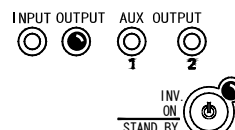


- ② 下図の で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、設定するメニュー項目のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、メニュー項目にあわせてください。



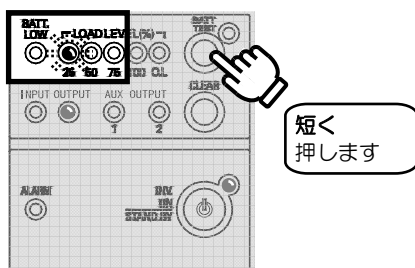
例：「OUTPUT2 ON 遅延時間」を設定する場合のLED点滅状態



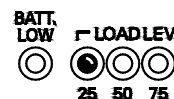
メニュー項目	LED点滅
OUTPUT1 ON 遅延時間	● ○ ○ ○ ●
OUTPUT2 ON 遅延時間	○ ● ○ ○ ●

- ③ 下図の で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



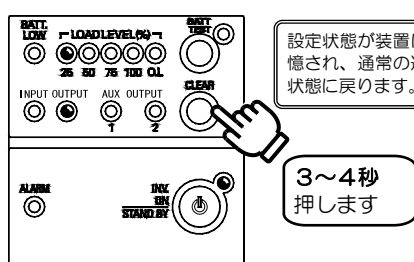
例：遅延時間「5秒または6秒」に設定する場合のLED点滅状態



ON 遅延時間 設定値		LED点滅	内容
OUTPUT1 ON	OUTPUT2 ON		
0秒	0秒	● ○ ○ ○	UPSのON操作をした後、選択した時間が経過した時点でOUTPUT1またはOUTPUT2がONします。
5秒	6秒	○ ● ○ ○	
30秒	35秒	● ● ○ ○	
1分	1分30秒	○ ○ ● ○	
5分	5分30秒	● ○ ● ○	
10分	10分30秒	○ ● ● ○	電源管理ソフトまたはLANカード使用時 ※
		● ● ● ●	

初期設定

- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3～4秒押します。



設定状態が装置に記憶され、通常の運転状態に戻ります。

ご注意

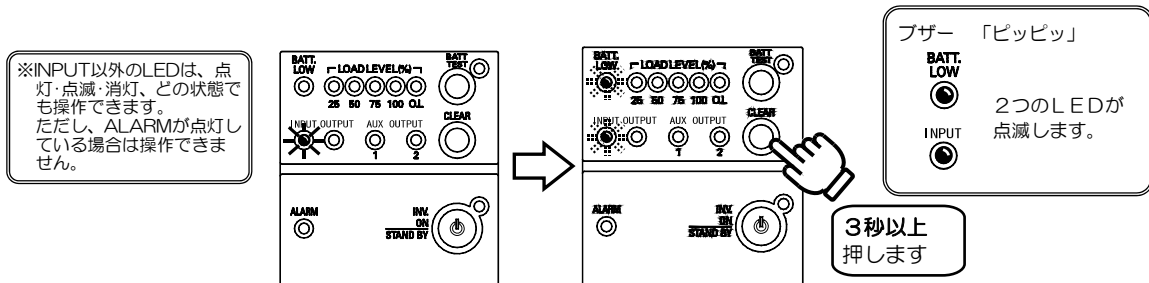
※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.19 出力系統制御運転時の「OFF」遅延時間の設定

コンセントボックスを使用して出力を系統制御する場合に設定します。

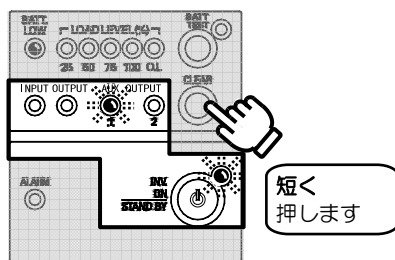
2系統の出力のOFF遅延時間を設定することにより、順次、システムを停止させることができます。ON遅延時間の設定は「§ 10.18」をご覧ください。「§ 10.17」で「する」に設定されていないと設定が有効になりません。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、を3秒以上押します。

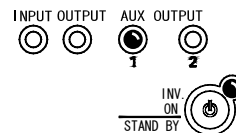


- ② 下図の  で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

を短く(3秒以下)押し、設定するメニュー項目のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、メニュー項目にあわせてください。



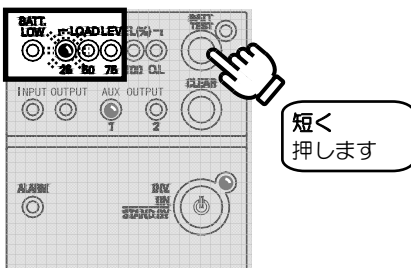
例：「OUTPUT2 OFF 遅延時間」を設定する場合のLED点滅状態



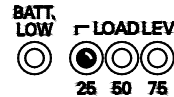
メニュー項目	LED点滅
OUTPUT1 OFF 遅延時間	● ● ● ● ●
OUTPUT2 OFF 遅延時間	○ ○ ● ● ●

- ③ 下図の  で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



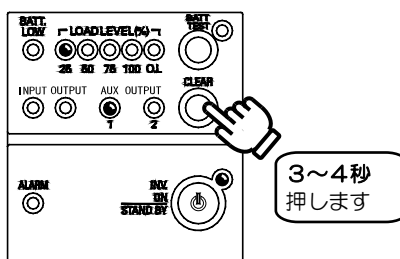
例：遅延時間「10秒」に設定する場合のLED点滅状態



設定値	LED点滅	内容
初期設定	● ● ● ● ●	UPSのOFF操作をした後、選択した時間が経過した時点でOUTPUT1 またはOUTPUT2 がOFFします。
0秒	○ ● ● ● ●	
10秒	○ ● ● ● ●	
30秒	● ● ● ● ●	
1分	○ ○ ● ● ●	
3分	● ○ ● ● ●	
5分	○ ● ● ● ●	電源管理ソフトまたはLANカード使用時 ※
電源管理ソフトまたはLANカード使用時 ※	● ● ● ● ●	

※電源管理ソフトまたはLANインタフェースカードを組み合わせて使用する場合、UPS側での設定より、電源管理ソフトまたはLANインタフェースカードの設定が優先されます。

- ④ 設定が終わりましたら を3～4秒押します。



設定状態が装置に記憶され、通常の運転状態に戻ります。

ご注意

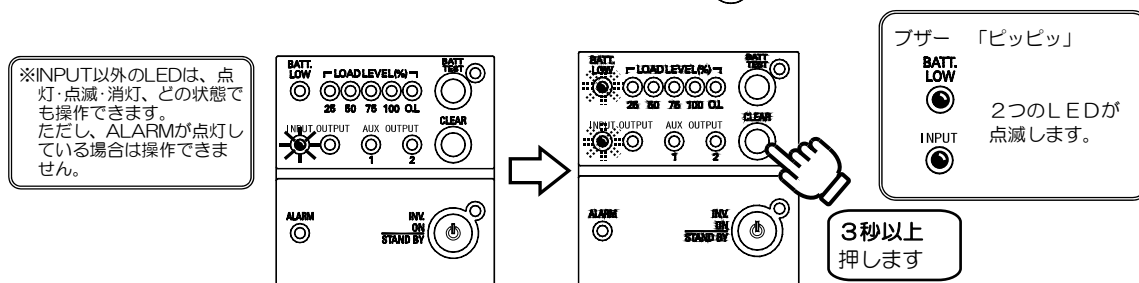
※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.20 出力系統制御運転時の停電時出力時間の設定

コンセントボックス（オプション）を使用して出力を系統制御する場合に設定します。
停電が発生してから2系統の出力が停止するまでの時間を選択します。

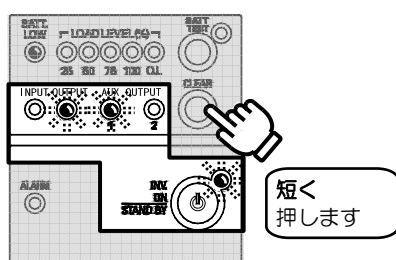
「§ 10.2」で「スタンドアロン」に設定されていないとこの設定が有効になりません。また、UPSがバッテリ起動の場合は有効になりません。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3秒以上押します。

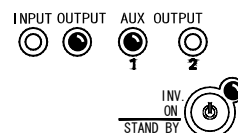


- ② 下図の で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

^{CLEAR}を短く(3秒以下)押し、設定するメニュー項目のようにLEDを点滅させます。^{CLEAR}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、メニュー項目にあわせてください。



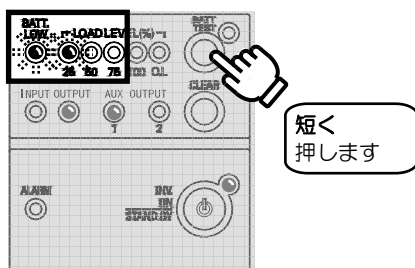
例：「OUTPUT2 停電時出力時間」を設定する場合のLED点滅状態



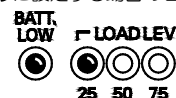
メニュー項目	LED点滅
OUTPUT1 停電時出力時間	● ○ ● ○ ●
OUTPUT2 停電時出力時間	○ ● ● ○ ●

- ③ 下図の で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

^{BATT. TEST}を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。^{BATT. TEST}を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。

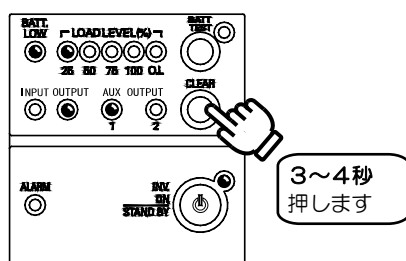


例：遅延時間 30 秒に設定する場合のLED点滅状態



設定値	LED点滅	内容
初期設定	● ○ ○ ○	OUTPUT1 または OUTPUT2 は、停電発生から選択した設定値の時間、電力を供給した後、OFF となります。
装置停止まで	○ ● ○ ○	
0 秒	● ● ○ ○	
30 秒	○ ○ ● ○	
1 分	● ○ ● ○	
3 分	○ ● ● ○	
5 分	○ ● ● ○	

- ④ 設定が終わりましたら ^{CLEAR}を3～4秒押します。



ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

設定状態が装置に記憶され、通常の運転状態に戻ります。

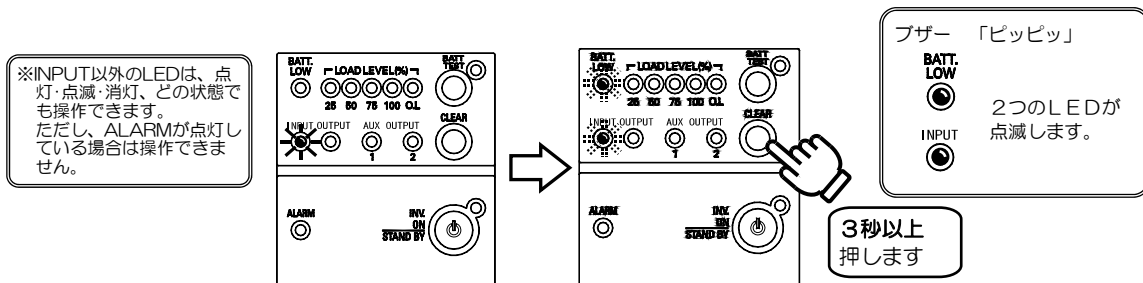
§ 10.21 電源管理ソフトによる 1,2 系統出力停止後のバッテリー運転中の動作設定

電源管理ソフト（オプション）を使用する場合に設定します。

停電発生時、電源管理ソフトにより 1, 2 系統の出力停止後のインバータ動作を選択します。

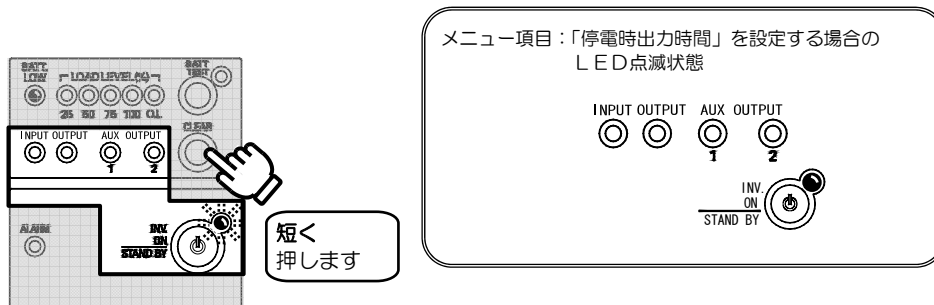
本項の設定はバッテリー運転時の動作選択であり、通常運転中には本設定に関係なく 1,2 系統出力を停止しても OUTPUT0 はそのままインバータにて出力を供給します。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、を3秒以上押します。



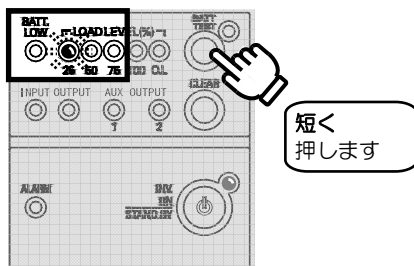
- ② 下図の  で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

を短く(3秒以下)押し、設定するメニュー項目のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、メニュー項目にあわせてください。

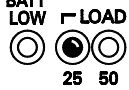
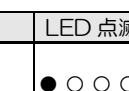


- ③ 下図の  で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

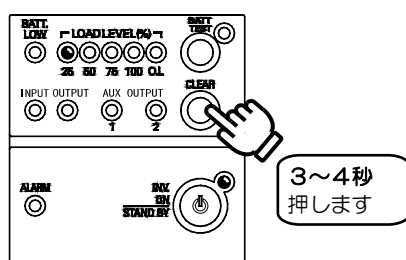
を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



例：設定値「電源管理ソフトウェアのシャットダウンによるOUTPUT1,2停止まで」に設定する場合のLED点滅パターン

設定値	LED点滅	内容
放電終止まで		バッテリーが放電終止に達した時点でOUTPUT 0 コンセントの電力供給が停止します。
電源管理ソフトウェアのシャットダウンによるOUTPUT1, 2停止まで		電源管理ソフトウェアによりOUTPUT 1 および OUTPUT 2 コンセントの電力供給が停止した時点でOUTPUT 0 コンセントの電力供給が停止します。

- ④ 設定が終わりましたら を3～4秒押します。



設定状態が装置に記憶され、通常の運転状態に戻ります。

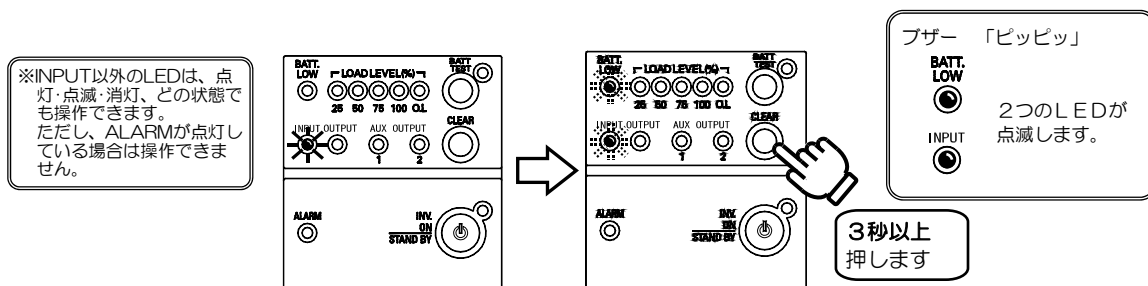
ご注意

※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.22 バッテリ電圧低下警告タイミングの設定

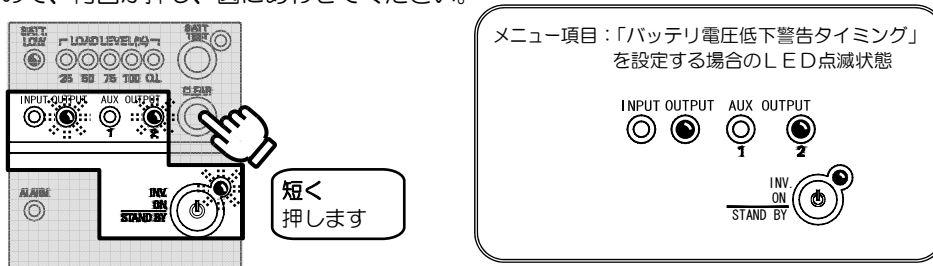
バッテリ電圧低下警告を発生するタイミングを設定します。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、を3秒以上押します。



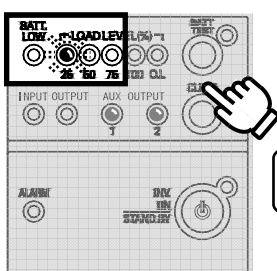
- ② 下図の  で囲まれた5つのLEDの点滅状態で設定するメニュー項目を決定します。

を短く(3秒以下)押し、図のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、図にあわせてください。

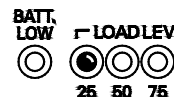


- ③ 下図の  で囲まれた4つのLEDの点滅状態で設定値を選択します。

を短く(3秒以下)押し、設定する値のようにLEDを点滅させます。を1回押すごとに点滅位置が変わりますので、何回か押し、設定したい設定値にあわせてください。



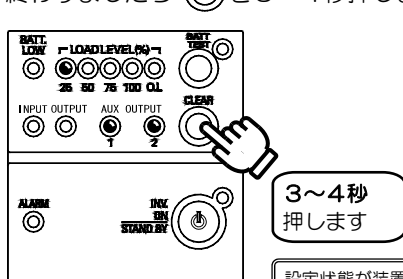
例：「2分」に設定する場合のLED点滅状態



設定値	LED点滅	内容
初期設定	バッテリー電圧	● ○ ○ ○
2分	○ ● ○ ○	バッテリー電圧低下レベルを検出した時点で警告：[BATT. LOW] 点灯、ブザー音「ビビビビビ・・・」が発生します。
3分	● ● ○ ○	バッテリーの残容量が2分になった時点で警告が発生します。
5分	○ ○ ● ○	バッテリーの残容量が3分になった時点で警告が発生します。
10分	● ○ ● ○	バッテリーの残容量が5分になった時点で警告が発生します。
電源管理ソフトまたはLANカード使用時※	● ● ● ●	バッテリーの残容量が10分になった時点で警告が発生します。

※電源管理ソフトまたはLAN インタフェースカードを組み合わせて使用する場合、UPS 側での設定より、電源管理ソフトまたはLAN インタフェースカードの設定が優先されます。

- ④ 設定が終わりましたら を3～4秒押します。



設定状態が装置に記憶され、通常の運転状態に戻ります。

ご注意

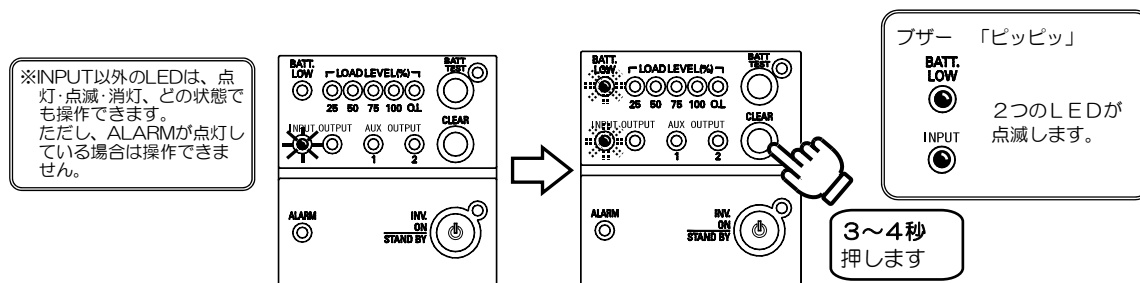
※この設定は、装置を再起動しなくても、設定変更が有効になります。

§ 10.23 設定値のリセット

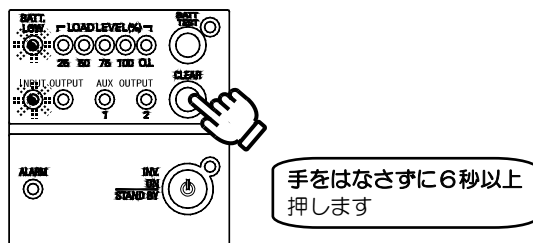
設定値を工場出荷状態の初期設定に戻します。

次の操作をすると、すべての設定値がリセットされます。メニュー項目ごとのリセットはできません。

- ① 装置の操作部【INPUT^緑】が点灯※していることを確認し、^{CLEAR}を3～4秒押します。



- ② ^{CLEAR}を3秒以上押します。
3秒経過すると「ピッピッ」とブザーが鳴りますが、そのままさらに3秒以上押しつづけます。



もう一度「ピッピッ」とブザーが鳴り、設定状態がリセットされ、通常の運転状態に戻ります。

§ 11. 装置の点検・保守

§ 11.1 日常の点検

操作部のLEDの表示状況に異常がないか点検してください。
その他は特に、点検・手入れの必要はありません。

§ 11.2 定期点検

6か月に1回程度、次の事項を実施してください。



- 専門業者以外は、内部の保守・点検をしないでください。感電、けが、やけど、発煙、発火などのおそれがあります。
- 点検は、装置を完全に停止させ入力電源を断としてから行ってください。感電のおそれがあります。
- バッテリーが接続されており、電気部品は充電されていますので絶対に手を触れないでください。感電のおそれがあります。

- (1) 外観・内部目視検査
各回路部品で変色・腐食しているものはないか、特に腐食性ガスや湿気の多い場所に設置されている場合はご注意ください。
- (2) ゴミなどが内部の部品に付きますと故障の原因となりますので、吸気口やファン排気口についたゴミ、ホコリを除去してください。

§ 11.3 交換部品

装置期待寿命は10年です。継続して装置をお使いいただく場合は、交換が必要な部品（有償）がありますので、購入先までご連絡ください。交換時期を過ぎても部品を交換しないと、装置の機能が十分に発揮されない場合があります。

- (1) バッテリー 1回／4.5年
バッテリーの交換については「§ 11.4 バッテリーの保守」をご覧ください。

ご注意

- 各部品の寿命は周囲温度25℃でご使用した場合で、周囲温度が高いと寿命は短くなります。
- お客様での部品交換はできませんので、購入先、当社までご連絡ください。

§ 11.4 バッテリーの保守



- 専門業者以外は、内部の保守・点検をしないでください。感電、けが、やけど、発煙、発火などのおそれがあります。
- バッテリーは定期的に交換してください。交換時期を過ぎたバッテリーは、火災の原因になることがあります。
- バッテリーの清掃には、ガソリン、シンナー、ベンジンなどの有機溶剤や洗剤などを使用しないでください。これらを付着させると電槽にひび割れをおこし漏液して、漏電や火災の原因になることがあります。

(1) バッテリーバックアップの確認

「§ 11.5 バッテリーテスト」をご覧ください。定期的にバッテリーバックアップ時間のテストをしてください。判定結果により、バッテリーを交換してください。
自動バッテリーテストは、1回/6か月に初期設定されています。

(2) バッテリーの交換時期の目安

バッテリーは、周囲温度、放電回数など使用条件によって寿命が短縮されます。特に温度による影響は大きく、周囲温度によって下表のように短縮されます。(周囲温度とバッテリー寿命の目安は下表を参照してください。) 寿命を過ぎて使用しますと、液漏れが発生し最悪の場合は損傷のおそれがありますので、予防保全のためお早めに交換をお願いします。

使用温度環境	期待寿命	バッテリー交換時期
25℃	5 年	4. 5年
30℃	3. 5年	3 年
35℃	2. 5年	2 年
40℃	1. 7年	1. 5年

(3) バッテリーの指定

バッテリーは本装置専用品です。指定のバッテリー以外を使用しないでください。
また、メーカー名・新旧異なるものを混ぜて使用しないでください。バッテリーの寿命低下、漏液、発熱の原因になることがあります。

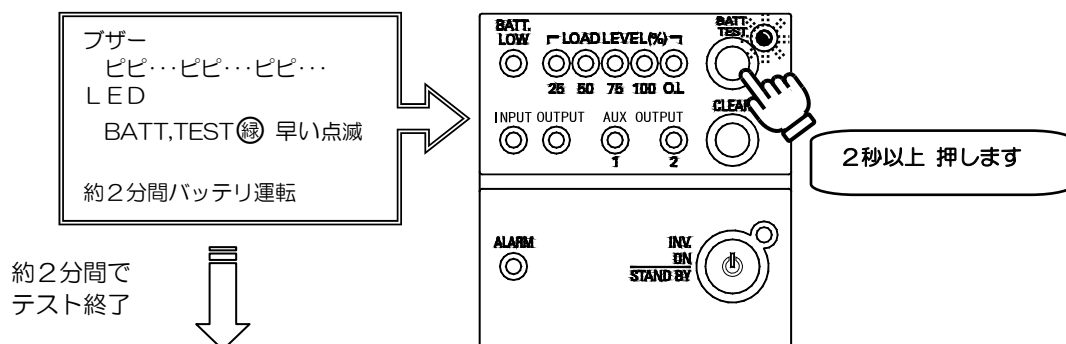
(4) 交換後のバッテリー

この製品のバッテリーは、鉛蓄電池を使用しております。鉛蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源ですのでバッテリーの交換およびご使用済み製品の廃棄に際しては、鉛蓄電池のリサイクルへご協力ください。鉛蓄電池の処理はリサイクルが可能な産業廃棄物処理業者に委託するか、購入したバッテリーの箱を利用して購入先へ返送してください。

§ 11.5 バッテリテスト

現在使用している負荷容量に対して、停電時のバッテリーのバックアップ時間をテストします。
負荷を停止させることなく確認できます。
バッテリーテストはバッテリーが 12 時間以上充電されていることを確認してから実施してください。

- ①  を 2 秒以上押します。
【BATT. TEST 】 が点滅しバッテリーテストを開始します。



【BATT. TEST 】 の点灯状況に結果が表示されます。
スケジュールでバッテリーテストが自動的に実行される場合にもブザーは鳴動します。

バッテリーテスト結果

表 示	ブ ザ ー	判 定
【BATT. TEST  】 点灯	停止	バッテリーは正常です。
【BATT. TEST  】 遅い点滅	 2 秒 7 回   7 回	お早めに交換することをおすすめします。

バッテリーテストスケジュール(自動)でバッテリーテストが行われた場合も同様の結果が表示されます。

- ② テストが終了し【BATT. TEST 】 が点灯または点滅した後、 を押します。
【BATT. TEST 】 が消灯し通常表示に戻ります。

- ③ バッテリーテスト中にテストを中止する場合は、 を押してください。
通常運転に戻ります。

バッテリーテスト中に下記のことが発生した場合、バッテリーテストは中止されます。

- ① 入力（電圧、周波数）の異常
- ② 故障
- ③ バイパス切り換えスイッチにて強制バイパス切換したとき。
- ④ **MAIN MCCB** を OFF したとき。
- ⑤ **BYPASS MCCB** を OFF したとき。
- ⑥ 出力過電流
- ⑦  を 1 秒以上押した場合

バッテリーテストが中止された場合は【BATT. TEST 】 の点灯状況に結果は表示されません。

ご注意

判定結果は目安です。正常と判定された場合でも「§ 11.4 バッテリーの保守」をご覧ください、交換時期になりましたら、お早めに交換してください。

§ 11.6 バッテリーの交換

負荷を止めずにバッテリー交換ができます。ただし、交換中に停電などの入力異常が発生するとバックアップができませんので、短時間で作業することをおすすめします。



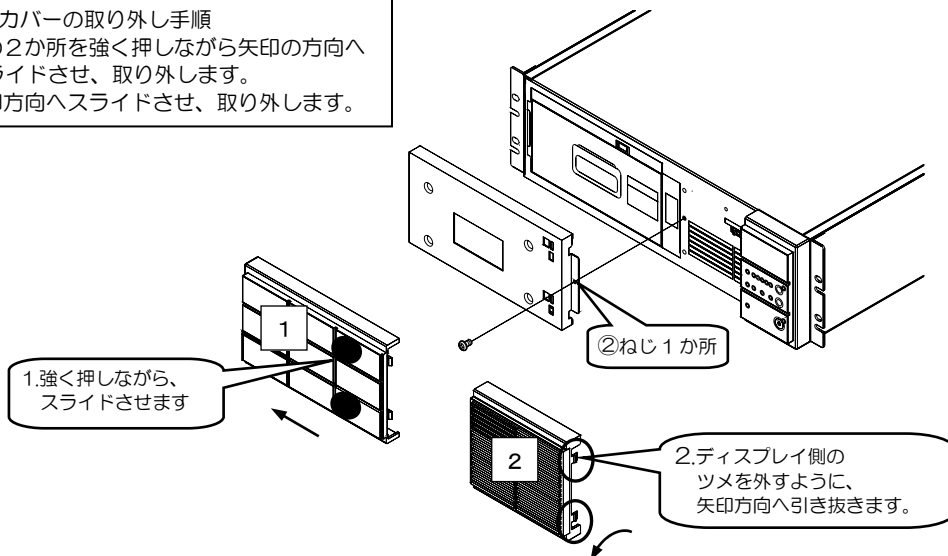
- バッテリーパックの質量は約23kgです。バッテリーパックを足元へ落下させないように注意してください。けがのおそれがあります。
- バッテリーの交換作業は、絶縁された手袋をするなどの対処をして行ってください。感電のおそれがあります。
- バッテリー端子には常時電圧（最大約60V：約12V×5個）が発生しています。手を触れたり、短絡させたりしないでください。けがのおそれがあります。

①装置の正面パネルを取り外します。

②バッテリーカバーの右側のねじ1か所を外し、バッテリーカバーを取り外します。

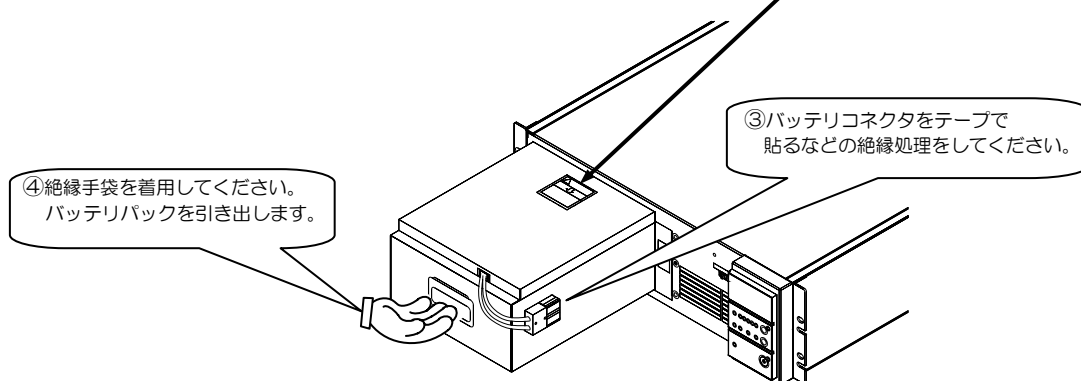
①正面カバーの取り外し手順

1. ●の2か所を強く押しながら矢印の方向へスライドさせ、取り外します。
2. 矢印方向へスライドさせ、取り外します。



ご注意

ストッパーがついていません。バッテリーパックはゆっくり引き出し、上面に底部を両手でささえ、落とさないように注意してください。バッテリーパックを置くときに、指をはさまないように注意してください。

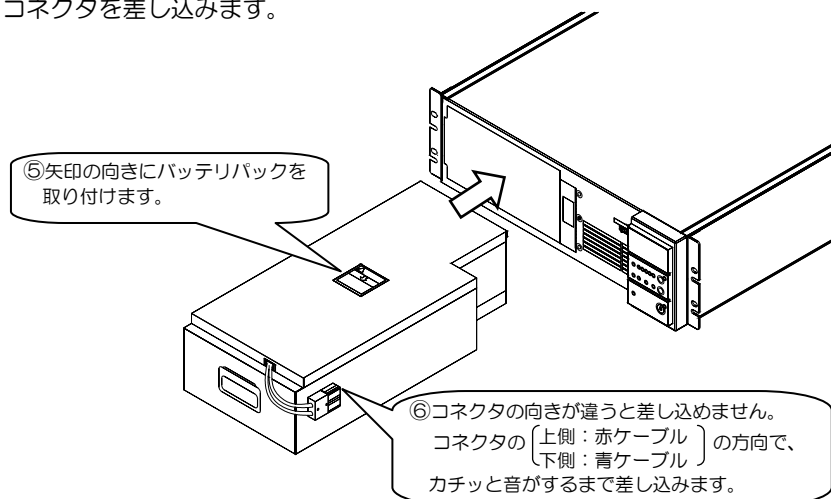


③バッテリーコネクタを抜きます。

④バッテリーパックを引き出します。

⑤新しいバッテリーパックをコネクタが前向きになるように装置に取り付けます。

⑥バッテリーコネクタを差し込みます。



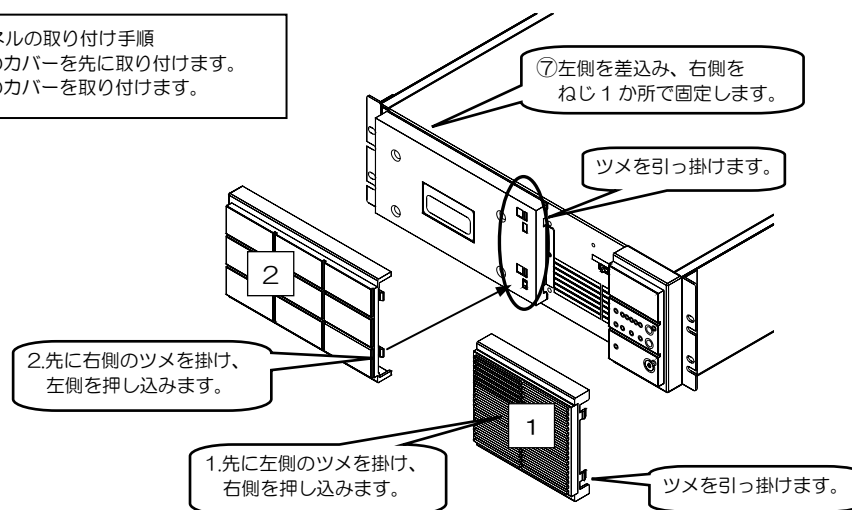
⑦バッテリーカバーを取り付けます。

⑧正面パネルをはめます。

 注意	• バッテリーコネクタの差込向きを間違えるとコネクタ挿入ができませんので無理に挿入しないでください。コネクタが破損すると感電のおそれがあります。
	• カバーを固定する際に手などを挟まないようにご注意ください。

⑧正面パネルの取り付け手順

1. 右側のカバーを先に取り付けます。
2. 左側のカバーを取り付けます。



⑨「§ 10.15 バッテリー余命時間のリセット」の操作でバッテリー余命をリセットします。詳細は「§ 10.15」をご覧ください。

使用済みのバッテリーについて

バッテリーは産業廃棄物です。有害物質の鉛を含んでいますので、交換後の不要となったバッテリーの処理はリサイクルが可能な産業廃棄物処理業者に委託するか、購入したバッテリーの箱を利用して購入先へ返送してください。

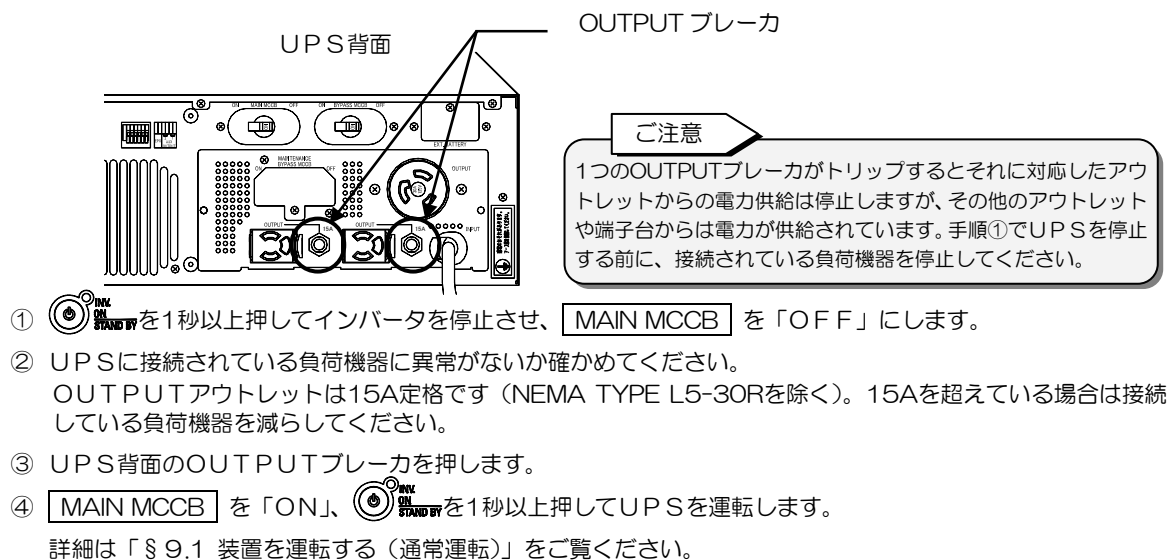
以上で、バッテリーの交換作業は終了です。

§ 11.7 ブレーカのリセット



- ブレーカのリセットは、必ずUPSを停止させてから作業してください。感電のおそれがあります。

OUTPUTブレーカがトリップする（ブレーカのレバーが飛び出す）と、UPSのOUTPUTアウトレットからの電力供給が停止します。つぎの手順でブレーカをリセットしてください。



以上で、ブレーカのリセット作業は終了です。

§ 12. こんなときには・・

装置の状態を確認し、つぎの表をご覧になり対応してください。

 注 意	- 専門業者以外は、内部の保守・点検をしないでください。感電、けが、やけど、発煙、発火などのおそれがあります。 - 点検は、装置を完全に停止させ入力電源を断としてから行ってください。感電のおそれがあります。 - バッテリーが接続されており、電気部品は充電されていますので絶対に手を触れないでください。感電のおそれがあります。
--	--

装置状態	対 応
出力に電力が供給されない。	- 入力配線が正しく配線されていることを確認してください。 「§ 7.配線」をご覧ください。 - 入力電圧、入力周波数が定格範囲内であることを確認してください。 「§ 15.4 標準仕様」をご覧ください。 - 各ブレーカの「ON/OFF」は、正しい位置になっていますか？ 「§ 8. 運転前の準備」をご覧ください。  を 1秒以上 押しましたか？ 「§ 9.1 装置を運転する（通常運転）」をご覧になり、正しい操作手順を確認してください。 - 出力コンセントのサーキットブレーカがトリップしていませんか？ 「§ 11.7 ブレーカのリセット」をご覧ください。
出力が停止しない。	 を 1秒以上押しましたか？ 「§ 9.4 装置を止める（日常の停止）」をご覧ください。 ただし、バイパス切り換えスイッチの操作、過負荷、故障などによるバイパス運転中はバイパス給電が継続されます。 「インバータ給電停止時の動作」が「バイパス」に設定されていませんか？ 「§ 10.12 インバータ給電停止時の動作」をご覧ください。出荷時は「OFF」に設定されています。  スイッチ反応時間が「3秒」に設定されていませんか？ 「§ 10.7  スイッチ反応時間」をご覧ください。出荷時は「1秒」に設定されています。
運転中に出力が停止した。	- 装置背面のバイパスブレーカ BYPASS MCCB が「OFF」になっていないか確認してください。過負荷や短絡状態により、バイパスブレーカ「BYPASS」が「OFF」となった可能性があります。 負荷の容量、短絡の有無を確認してください。 負荷の容量が多い場合は装置の出力に接続されている負荷機器を減らしてください。 - 出力コンセントのサーキットブレーカがトリップしていませんか？ 「§ 11.7 ブレーカのリセット」をご覧ください。
停電時に出力が停止した。	- バッテリーの交換時期を確認してください。 バッテリーの寿命は周囲温度で変化します。早めの交換をおすすめします。 - 出力コンセントのサーキットブレーカがトリップしていませんか？ 「§ 11.7 ブレーカのリセット」をご覧ください。
ブザーが鳴った。	装置に状態変化・警告・異常が発生したとき、ブザーが鳴ります。 「§ 13.ブザーが鳴ったときは」をご覧ください。
ブザーが鳴らない。	ブザー音が「OFF」に設定されていませんか？ 「§ 10.4 ブザー音の設定」をご覧ください。
【ALARM  】が点灯した。	装置に軽度のアラームまたは故障が発生しています。 購入先までご連絡ください。

装置状態	対 応
商用電源異常から復帰しない。 商用電源異常が頻繁に発生する。	- 装置裏面の入力ブレーカ MAIN MCCB が「ON」になっていることを確認してください。 (正常運転中に入力ブレーカ MAIN MCCB を「OFF」にすると商用電源異常と同じ動作になります。) 「§ 8. 運転前の準備」をご覧ください。 - 入力電圧、入力周波数が定格範囲内であることを確認してください。 「§ 15.4 標準仕様」をご覧ください。
バイパス運転から正常運転に切り換わらない。	バイパス切り換えスイッチ BYPASS SW が「インバータ」側になっていることを確認してください。バイパス切り換えスイッチ BYPASS SW は、装置の正面パネルの内側にあります。正面パネルを外して確認してください。 「§ 14. メンテナンスバイパス給電」をご覧ください。
バッテリーテストができない。	- 次の場合はバッテリーテストはできません。 ① インバータ停止中 ② バイパス給電中 ③ 入力電圧・入力周波数が定格範囲外の時 ④ 遠隔操作などによるシャットダウン動作中 ⑤ 装置の故障中 ⑥ バイパスブレーカ BYPASS MCCB が「OFF」になっている場合
シリアル通信ができない。	- 正面パネルを操作してインタフェース設定が「ワークステーションモード」になっているか確認してください。「§ 5.4 外部インタフェース」「§ 10.2 インタフェースの設定」をご覧ください。 - 正面パネルを操作して通信速度の設定を確認してください。 「§ 10.3 通信ボーレートの設定」をご覧ください。 出荷時は9600bpsに設定されています。
停電時の放電終止による装置停止後、復電時にインバータが自動で起動しない	「復電時の動作」が「自動」に設定されていることを確認してください。 「インバータOFF」に設定されているとインバータが自動起動しません。 「§ 10.6 復電時の動作の設定」をご覧ください。出荷時は「自動」に設定されています。
MAIN MCCB 「ON」時にブザーが鳴り【ALARM [Ⓐ] 】が点灯した。	バッテリーが正しく接続されていることを確認してください。 「§ 11.6 バッテリーの交換」をご覧ください。バッテリーコネクタがUPS本体に正しく接続されていることを確認してください。
負荷を接続しているのに、電源管理ソフトの計測画面で出力電流がOAと表示される。	負荷率が約5%以下の時は出力電流計測の値はOAが表示されます。
復電時に【BATT. LOW [Ⓐ] 】が点灯する。	負荷率やバッテリー電圧の状態によっては復電後の回復充電時に【BATT. LOW[Ⓐ]】が点灯することがあります。バッテリーの充電が進むにつれ消灯します。

これらの対応をしても、正常に動作しない場合は、購入先へご連絡ください。

§ 13. ブザーが鳴ったときは・・・

ブザーが鳴ったときはUPSの状態に異常か変化があったときです。
ブザーの音を確認し、つぎの表をご覧になり対応してください。

ポイント
ブザーは  を押して放すと止まります。

ブザーの音	LED状態	UPS状態	対応
連続音 ビ————	ALARM(赤) 点灯	【インバータ運転停止時】 装置の故障です。	お早めに購入先へご連絡ください。
	ALARM(赤) 点灯	【インバータ運転継続時】 バイパスブレーカ BYPASS MCCB が「OFF」 になっています。	「OFF」のバイパスブレーカ BYPASS MCCB を「ON」にします。 バイパスブレーカ BYPASS MCCB が「ON」 であることを確認します。
	ALARM(赤) 点灯	避雷器の故障です。	お早めに購入先へご連絡ください。
	ALARM(赤) 点灯 BATT. LOW(赤) 点灯	バッテリー放電終止	商用電源が回復すると装置は自動的に起動 します。
2秒 ビビ 2回 ビビ 2回 ビビ… 2回	INPUT(緑) 点滅	入力電圧、入力周波数に異 常が発生しバッテリーから給 電されています。	入力電圧、入力周波数を正常にします。
	INPUT(緑) 点滅	インバータ給電中に 入力ブレーカ MAIN MCCB が「OFF」にされました。	入力ブレーカ MAIN MCCB を「ON」にし ます。
	BATT. TEST(緑) 点滅	バッテリーテストを実行中 です。	バッテリーテストが終了するまでお待ちくだ さい。自動バッテリーテスト実行の際にも鳴 動します。 中止する場合は  を1秒以上押します。
連続 ビビビビビビビビビビ…	BATT. LOW(赤) 点灯	バッテリー電圧が低下してい ます。	入力電圧、入力周波数を正常にします。 入力ブレーカ MAIN MCCB を「ON」にし ます。
1秒 2秒 ビビビビ ビビビビ…	O. L(赤) 点灯	装置の出力に接続されてい る負荷機器が定格容量を超 えています。	装置の出力に接続されている負荷機器を減 らしてください。
2秒 ビビビビビビ ビビビビビビ… 7回 7回	BATT. TEST(緑) 点滅	バッテリーが未接続です。 電源管理ソフトウェア（オ プション）に軽故障が通知 されます。	バッテリーを接続してください。 ブザー音、【BATT. TEST(緑)】点滅、電源管理 ソフトウェアへの軽故障は  を押すと 止まります。
		バッテリーテストの結果が異 常です。	バッテリーの交換が必要です。 購入先へご連絡ください。
2秒 ビビビビ ビビビビ… 5回 5回	—	バッテリーの余命があと半年 未満です。	バッテリーの交換をおすすめします。 お早めに購入先へご連絡ください。 ブザー音は  を押すと止まります。
	BATT. LOW(赤) 点滅	バッテリーが寿命です。	バッテリーの交換が必要です。 購入先へご連絡ください。 ブザー音は  を押すと止まりますが、U P Sが入力電源を受電するたびにブザー音 が繰り返されます。【BATT. LOW(赤)】点滅は 「§ 10.15バッテリー余命時間リセット」を 行うまで点滅を続けます。 専門業者によりバッテリーが交換されるま で、この状態が継続します。

ご注意

その他、故障と思われることがおきましたら、購入先までご連絡ください。

§ 14. メンテナンスバイパス給電

手動操作でインバータ給電からバイパス給電に切り換えることができます。
装置をメンテナンスするとき、万一の故障時など、必要により操作してください。

§ 14.1 コンセントボックスを使用している場合の確認

コンセントボックス※を使用している場合は、下表によりインバータ給電からメンテナンスバイパス給電への切り換えを行ってください。

※コンセントボックス（オプション）は、型番：P10030 または P10035 を示します。

コンセントボックス	対 応
使用している場合	1. コンセントボックスのOUTPUT1、OUTPUT2に接続している負荷装置を停止します。 2. 「14.2インバータ給電からメンテナンスバイパス給電への切り換え」の手順でメンテナンスバイパス給電に切り換えます。 ご注意 「14.2 インバータ給電からメンテナンスバイパス給電への切り換え」の操作を行うと、コンセントボックスの系統制御出力 OUTPUT1、OUTPUT2からの出力が停止します。 切り換え操作の前に、必ず負荷装置を停止してください。 なお、スルー出力 OUTPUT0 からは、メンテナンスバイパス給電時も給電が継続されます。
使用していない場合	「14.2 インバータ給電からメンテナンスバイパス給電への切り換え」 「14.3 メンテナンスバイパス給電からインバータ給電への切り換え」 の手順で操作を行います。

§ 14.2 インバータ給電からメンテナンスバイパス給電への切り換え

- ① 【INPUT^緑】【OUTPUT^緑】【INV. ON/STAND BY^緑】が点灯していることを確認します。
- ② UPSの正面パネルを外します。

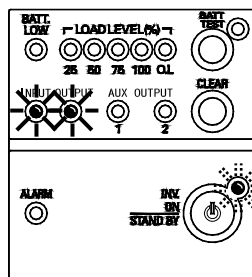
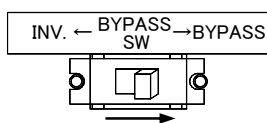
②正面カバーの取り外し手順

1. ●の2か所を強く押しながら矢印の方向へスライドさせ、取り外します。
2. 矢印方向へスライドさせ、取り外します。

1. 強く押しながら、スライドさせます

③ バイパス切り換えスイッチ

- ③ バイパス切り換えスイッチ **BYPASS SW** をBYPASS側にします。

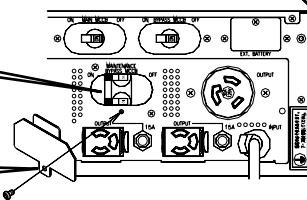


2. ディスプレイ側のツメを外すように、矢印方向へ引き抜きます。

- ④ 【INV. ON/STAND BY^緑】が点滅していることを確認します。
- ⑤ UPS背面のメンテナンスバイパスMCCBカバーを、ねじ(1か所)を外して取り外します。
- ⑥ **MAINTENANCE BYPASS MCCB** を「ON」にします。

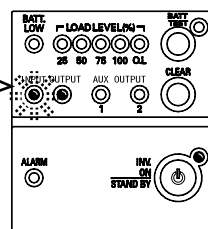
⑥ 「ON」にします。

⑤ ねじを外して取り外します。

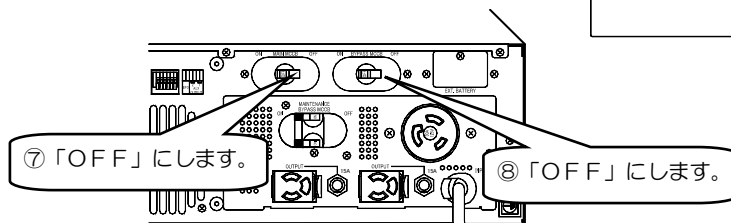


- ⑦ **MAIN MCCB** を「OFF」にします。

【INPUT^緑】点滅
数秒後にすべて消灯



- ⑧ **BYPASS MCCB** を「OFF」にします。



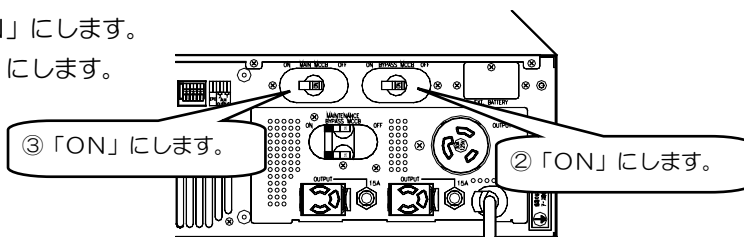
以上で、インバータ給電からメンテナンスバイパス給電への切り換え操作は終了です。

§ 14.3 メンテナンスバイパス給電からインバータ給電への切り換え

① すべてのLEDが消灯していることを確認します。

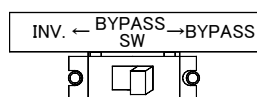
② **BYPASS MCB** を「ON」にします。

③ **MAIN MCB** を「ON」にします。



④ バイパス切り換えスイッチ **BYPASS SW** をBYPASS側であることを確認します。

INV. 側になっている場合は、BYPASS側にしてください。



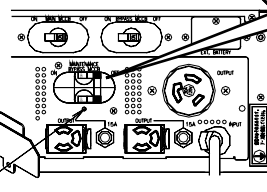
このとき、LEDが右記の状態であることを必ず確認してください。

LED		
INPUT	緑	点灯
INV. ON/STAND BY	緑	点滅
OUTPUT	緑	点灯
注1		

⑤ **MAINTENANCE BYPASS MCB** を「OFF」にします。

⑥ **MAINTENANCE BYPASS MCB** カバーを取り付けます。

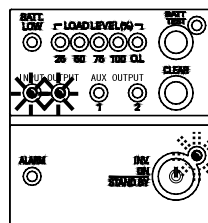
⑥こちら側を先に差し込み、
ねじでもとどりに取り
付けます。



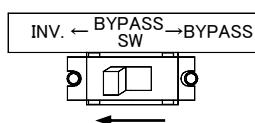
⑦ **【OUTPUT(緑)】【INPUT(緑)】** が点灯

【INV. ON/STAND BY(緑)】 が点滅していることを確認します。

注1



⑧ バイパス切り換えスイッチ **BYPASS SW** をINV.側にします。



注1. 出力系統制御の設定を「する」にした場合は、
AUX OUTPUT の 1,2 も点灯となります。

⑨ **INV. ON/STAND BY** ボタンを1秒以上押します。

【INV. ON/STAND BY(緑)】 が点滅から点灯にかわります。

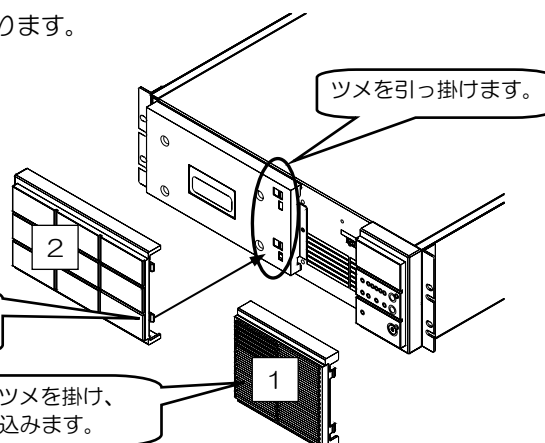
⑩ 正面パネルを取り付けます。

⑩正面カバーの取り付け手順

1. 右側のカバーを先に取り付けます。
2. 左側のカバーを取り付けます。

2. 先に右側のツメを掛け、
左側を押し込みます。

1. 先に左側のツメを掛け、
右側を押し込みます。



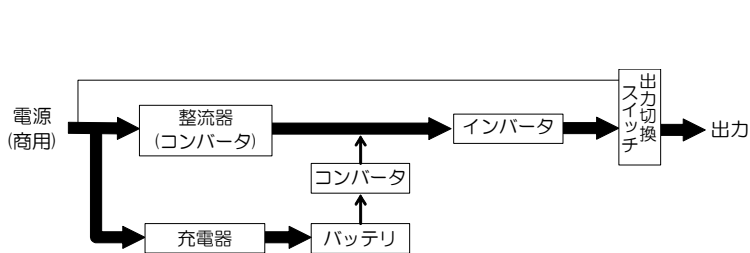
以上で、メンテナンスバイパス給電からインバータ給電への切り換え操作は終了です。

§ 15. 特性

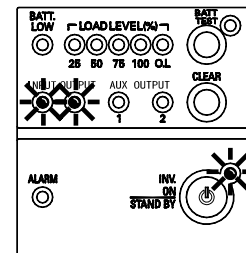
§ 15.1 基本動作

(1) 正常運転時

常時は商用電源を受電し、整流器で直流電力に変換後、さらにこの直流電力をインバータで商用電源と同期した交流電力に変換して、安定した電力を負荷に供給します。バッテリーは充電器にて常時浮動充電され、商用電源の異常（停電、電圧降下など）に対して待機しています。



常時の電力供給経路

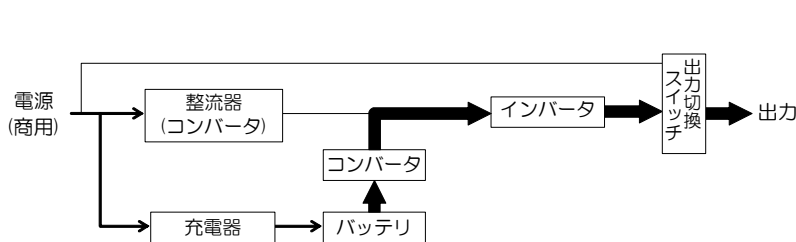


ディスプレイ点灯状況 注1

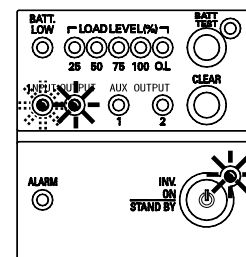
(2) 商用電源異常時

商用電源に異常または停電が生じた場合は、整流器および充電器は停止しますが、バッテリーからの直流電力によりインバータが運転を継続し、負荷には瞬時の中断もない電力を供給します。この時、バッテリー運転ブザーが鳴り、【INPUT[●]】が点滅します。

ブザーは  を押すと停止します。



商用電源異常時の電力供給経路



ディスプレイ点灯状況 注1

(3) バッテリー電圧低下時

商用電源の異常または停電が続き、バッテリー電圧が約 55V(1.85V/セル)以下になると、上図ディスプレイ表示の【BATT. LOW[●]】（バッテリー電圧低下）が点灯します。

(4) 商用電源復帰

商用電源が正常に回復しますと整流器および充電器は運転を再開し、自動的に（1）に示した正常運転時の動作状態に戻ります。

(5) 長時間停電

停電が長時間続いてバッテリー電圧が放電終止電圧に達しますと、バッテリーの過放電を防止するため保護回路が動作してインバータを停止します。

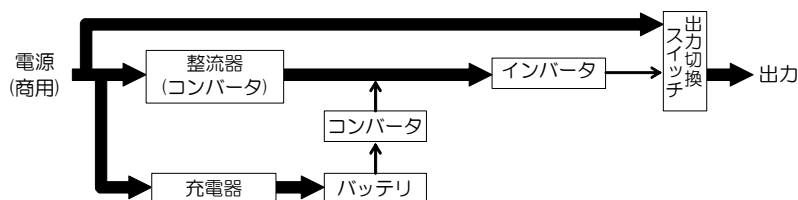
なお、インバータ自動停止後、商用電源が正常に回復しますと、自動的に運転を再開し、（1）に示した正常運転時の運転状態に戻ります。（復電時の動作設定で、インバータ「OFF」の設定としている場合、または「充電率」が設定され充電率が設定値に達していない場合、インバータ出力は停止したままとなります。）

注1．出力系統制御の設定を「する」にした場合は、AUX OUTPUT の 1,2 も点灯となります。

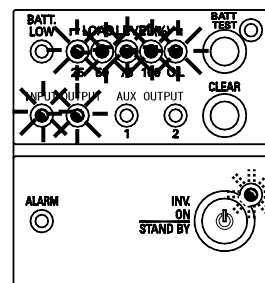
§ 15.2 保護動作

(1) 過負荷時

コンピュータなどの始動時に、大きな電流が流れ、万が一、インバータの容量を超える過負荷状態になりますと、自動的に出力切換スイッチが働き、無瞬断でインバータ給電からバイパス給電に切り換わります。その後、自動的に無瞬断でインバータ給電に切り換わり常時の状態に戻ります。(オートリターン)



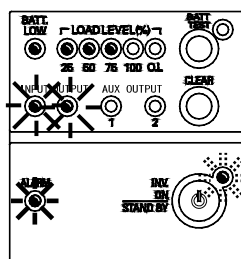
過負荷時の電力供給経路



ディスプレイ点灯状況 注2

(2) インバータ故障時

万が一、インバータに故障が発生した場合は、自動的に出力切換スイッチが働き、無瞬断でインバータ給電からバイパス給電に切り換わります。【ALARM $\odot$ 】が点灯し、ブザーが鳴ります。電力供給経路は過負荷時と同じです。ブザーは $\odot$ を押すと停止します。



インバータ故障時のディスプレイの表示状況

注 1. 故障時の取り扱い

インバータ故障によるバイパス給電中に停電が発生すると出力が停止します。お早めに販売店または、当社まで連絡してください。

注 2. 出力系統制御の設定を「する」にした場合は、AUX OUTPUT の 1,2 も点灯となります。

§ 15.3 保護動作表

装置保護のため、下表の保護動作・機能があります。
○印：LED点灯、ブザー鳴動、転送信号送出を示します。

項 目	操作部(正面 ^ハ 示)表示							警 報	転送信号：接点信号出力(ア ^フ シヨ)					保 護 動 作 (装置動作)	備 考
	INPUT ● (注 5)	OUTPUT ● (注 7)	AUX OUTPUT ● (注 4)	INV.ON STANDBY ● (注 6)	ALARM ● (注 1)	OL ● (注 2)	BATT. LOW ● (注 3)	ブザー (注 1)	交流 入力 異常	バ ^ッ テリ 電圧 低下	交流 出力	バ ^ッ イ ^ス 出力	装置 異常		
準 備	○	(注 4)	—	(注 4)	—	—	—	—	—	—	(注 3)	(注 3)	—	整流器、充電器 運転	受電
正 常	○	○	(注 6)	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	イン ^バ ータ運転	受電、始動
重故障	○	○	(注 6)	○ 点滅	○	—	—	○ (1)	—	—	○	○	○	イン ^バ ータ停止 バ ^ッ イ ^ス 給電	
軽故障	○	○	(注 6)	○	○	—	—	○ (1)	—	—	○	—	—	イン ^バ ータ運転	
過負荷 (実効値)	○	○	(注 6)	○ 点滅	—	○	—	○ (4)	—	—	○	○	—	バ ^ッ イ ^ス 給電	オートリターン
強 制 バイパス	○	○	(注 6)	○ 点滅	—	—	—	—	—	—	○	○	—		バ ^ッ イ ^ス 給電に 手動切り換え
入 力 過電圧	○ 点滅	○	(注 6)	○	—	—	—	○ (2)	○	—	○	—	—	整流器、充電器 停止 イン ^バ ータ給電継続	バ ^ッ テリ運転
入力過電圧 (長時間)	○ 点滅	○	(注 6)	○	—	—	○	○ (3)	○	○	○	—	—		バ ^ッ テリ運転、バ ^ッ テリ END でイン ^バ ータ停止
停 電	○ 点滅	○	(注 6)	○	—	—	—	○ (2)	○	—	○	—	—		バ ^ッ テリ運転
停 電 (長時間)	○ 点滅	○	(注 6)	○	—	—	○	○ (3)	○	○	○	—	—		イン ^バ ータ給電継続 バ ^ッ テリ運転、バ ^ッ テリ END でイン ^バ ータ停止
入力異常 (周波数)	○ 点滅	○	(注 6)	○	—	—	—	○ (2)	○	—	○	—	—		バ ^ッ テリ運転
入力異常 (長時間)	○ 点滅	○	(注 6)	○	—	—	○	○ (3)	○	○	○	—	—		バ ^ッ テリ運転、バ ^ッ テリ END でイン ^バ ータ停止
バッテリ 異 常	○	○	(注 6)	○ 点滅	○	—	○	○ (1)	—	○	○	○	○	イン ^バ ータ停止 バ ^ッ イ ^ス 給電	注 2
バッテリ 余命半年	○	○	(注 6)	○	—	—	—	○ (5)	—	—	○	—	—	イン ^バ ータ運転	バッテリが推定で余命 半年未満となった時
バッテリ 寿 命	○	○	(注 6)	○	—	—	○ 点滅	○ (5)	—	—	○	—	—	イン ^バ ータ運転	バッテリが推定で 寿命に達した時

注1. 警報ブザーは装置正面 (●)を押すと停止します。

ブザー音の種類

- (1) ビ……………連続 (2) ビビ……………ビビ……………
(3) ビビビビビビビビ……………連続 (4) ビビビビ……………ビビビビ……………
(5) ビビビビビビ……………ビビビビビビ……………

「13. ブザーが鳴ったときは」を参照してご対応ください。

故障時はお早めに購入先までご連絡ください。

注2. 初起動時にバッテリ異常でかつ交流入力正常でない場合は BATT.LOW のみが点灯します。

注3. 「§ 10.12 インバータ給電停止時の動作の設定」により、装置は下記のように動作します。

バイパスに設定した場合 : ○

OFF に設定した場合 (初期設定) : —

注4. 「§ 10.12 インバータ給電停止時の動作の設定」により、装置は下記のように動作します。

バイパスに設定した場合 : ○ (OUTPUT)、○点滅 (INV.ON STANDBY)

OFF に設定した場合 (初期設定) : —

注5. 「§ 10.17 コンセントボックスによる出力系統制御の設定」が「しない」の場合、電源管理ソフトによる ON 遅延、OFF 遅延時間中は点滅します。

注6. 「§ 10.17 コンセントボックスによる出力系統制御の設定」により、装置は下記のように動作します。

出力系統制御をする にした場合 : ○

出力系統制御をしない にした場合 (初期設定) : —

注7. 「§ 10.17 コンセントボックスによる出力系統制御の設定」が「する」の場合、電源管理ソフトによる ON 遅延、OFF 遅延時間中は点滅します。

§ 15.4 標準仕様

項 目		規 格 ま た は 特 性	備 考
出 力 容 量		2kVA/1.4kW	
冷 却 方 式		強制空冷	
交 流 入 力	相 数	単相2線	
	電 圧	100,110,115,120V ±15%以内	出力電圧と同一 (注1) 負荷率が80%以下の場合は +15%,-20%以内
	周 波 数	50Hzまたは60Hz ±1,±3,±5%	変動範囲は出力周波数精度設定による (注2)
	所 要 容 量	1.8kVA	バッテリ回復充電時の最大容量
	入 力 力 率	0.97以上	定格出力時 (注3)
交 流 出 力	相 数	単相2線	
	電 圧	100,110,115,120V	設定変更可能
	電圧整定精度	定格電圧 ±2%以内	
	周 波 数	50Hzまたは60Hz	入力周波数と同じ(自動選択)
	周 波 数 精 度	定格周波数 ±3.0% 以内(商用同期時)	1,3,5% 設定変更可能 自走発振時:±0.5%以内
	電 圧 波 形	正弦波	
	電 圧 波 形 歪 率	線形負荷時:3%以下 100%整流器負荷時:7%以下	定格出力時
	過渡 電圧 変動	負 荷 急 変 時	0⇔100%変化または出力切換
		停電・復電時	定格出力時
		入力電圧急変	±10%変化
		応 答 時 間	5サイクル以下
	負 荷 力 率	0.7 (遅れ)	変動範囲0.7(遅れ)~1.0
	過電流保護動作		105%以上にてバイパス回路へ自動切換 オートリターン機能付
	過負荷 耐 量	インバータ	105%
		バイパス	200%
			800%
バ ッ テ リ	方 式	小形制御弁式鉛蓄電池	
	定 格 容 量	12 A・h	20時間率
	個 数	5個 (12V/1個)	5個直列
	バックアップ時間	10分	周囲25℃、定格負荷時
発 生 熱 量		173W	
入力漏洩電流		3mA以下	
周 囲 条 件		周囲温度:0~40℃ 相対湿度:20~90%	(注4)
騒 音		45 dB以下	装置正面1m、A特性

- 注1. 本装置の入力の許容電源電圧範囲は80~144Vです。許容電圧を超える電源を接続すると内部部品が破損して火災や発煙の原因になることがあります。
- 注2. 交流入力周波数が、定格周波数の±3% (1,3,5%切換可) の範囲にあり、かつ交流入力電圧が定格電圧±15%の範囲内にあるとき (負荷率が80%以下の場合は-20%~+15%)、インバータは交流入力と同期運転し、バイパス回路への無瞬断切換が可能となります。
なお、交流入力周波数が設定範囲を超えた場合はバッテリ運転になります。
- 注3. 入力電圧波形歪率が1%未満の場合。
- 注4. バッテリを搭載していますので、30℃を超える環境で使用すると、バッテリ寿命が短くなります。
- 注5. 接地されている場合、入・出力の接地相を装置の指定に合わせてください。
- 注6. バックアップ時間が長時間の装置は標準仕様と一部違いがあります。別冊の増設バッテリ仕様の取扱説明書をご覧ください。

§ 16. 装置の保証について

本装置は下記に記載の保証規定により「購入後1年間は無償修理」とし、1年間経過したものは有償とさせていただきます。

無償保証規定

1. 保証期間中に取扱説明書にしたがった正常な使用状態で本装置が故障した場合には無償修理させていただきます。
2. 故障の際は買いあげの販売店または当社本社・支店など(巻末)へご連絡ください。
3. 保証期間中でも、次のような場合には有償修理となります。
 - (1) ご使用の誤り、または不当な修理や改造、誤接続による故障および損傷。
 - (2) 火災・地震・風水害・落雷およびその他の天災地変、公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧や指定外の電源使用などによる故障および損傷。
 - (3) 買いあげ後の輸送や移動および落下など、不適当なお取り扱いにより生じた故障および損傷。

§ 付録

付録1 停電時の自動シャットダウンについて

付属の通信ケーブルをUPS（PC I/F）とコンピュータのシリアルコネクタ間を接続するとOSの標準サービスにより停電時の自動シャットダウンを実行させることができます。

WindowsNT 編

無停電電源(UPS)の設定はシステム管理者権限で行ってください。

操作手順

1. コントロールパネル内の「無停電電源(UPS)」を選択して、チェックボックスを次のように設定します。



注1. 上記設定では停電後、バッテリー残量が少なくなるとシャットダウンを開始します。

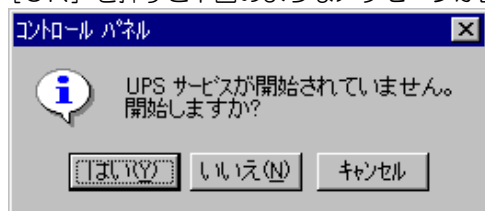
注2. 停電後すぐにシャットダウンを開始させたい場合は[バッテリー容量低下信号(L)]のチェックをはずして、[バッテリーの予測寿命(E)]を2分（最低値）に設定してください。

- 1.1 無停電電源装置がインストールされているポート(U)
UPS と通信ケーブルを接続した COM ポートの番号を指定します。
- 1.2 電源障害信号(P)
[UPS サービス]の設定にしたがって警告メッセージを表示するようになります。
- 1.3 バッテリー容量低下信号(L)
UPS のバッテリー電圧低下信号によりOSのシャットダウンを開始するようになります。
チェックボックスを選択しない場合は[無停電電源の特性]の設定にしたがって電源障害信号によりシャットダウンを開始します。
- 1.4 リモート無停電電源シャットダウン(R)
チェックボックスを設定すると、OSのシャットダウンが開始されてから2分後にUPSの自動停止が行われます。なお設定時間を変更するにはレジストリの変更が必要です。
- 1.5 コマンドファイルを実行する(X)
シャットダウンを開始する前にコマンドを実行する場合は選択し、実行するコマンドを記述します。
ただし、30 秒以内に終了するコマンドのみ実行可能です。
- 1.6 電源障害から警告メッセージまでの時間(T)
電源障害が発生してから最初の警告メッセージを表示するまでの時間です。ここで設定した時間以内に電源障害が回復すると警告メッセージは表示しません。
- 1.7 警告メッセージの表示間隔(D)
ここで設定した時間間隔で警告メッセージが繰返し表示されます。
- 1.8 バッテリーの予測寿命(E)
この設定は、[バッテリー容量低下信号(L)]を無効とした場合に有効となります。

1.9 稼動 1 分ごとのバッテリー再充電時間(B)

この設定は、[バッテリー容量低下信号(L)]を無効とした場合に有効となります。また充電時間はUPS サービスが稼動してからの積算となります。停電によりバッテリー運転が開始され、バックアップ可能時間が残り 2 分になるとOSのシャットダウンを開始します。

2. [OK] を押すと下図のようなメッセージが出ますので [はい(Y)] を押します。



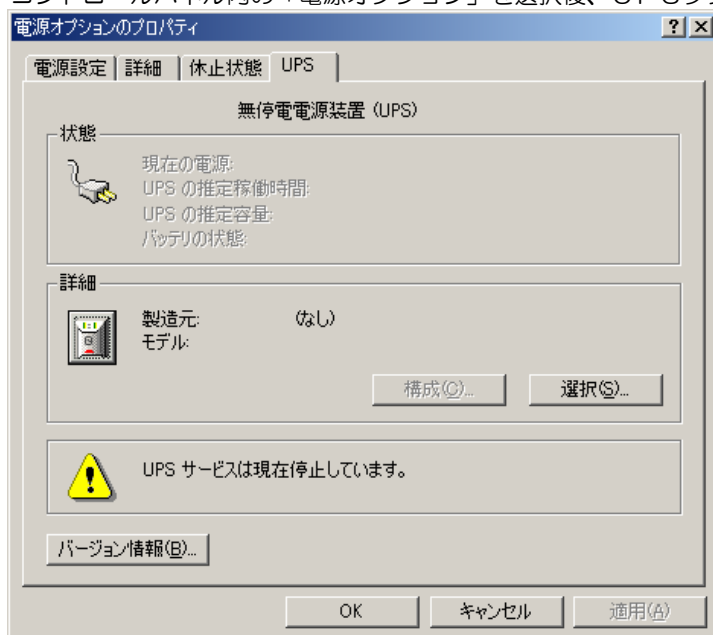
Windows95/98/Me ではUPSの標準サービスがありませんので別売の電源管理ソフトが必要です。
なお、別売の電源管理ソフトではより高度な設定が可能です。

Windows2000/XP/server2003 編

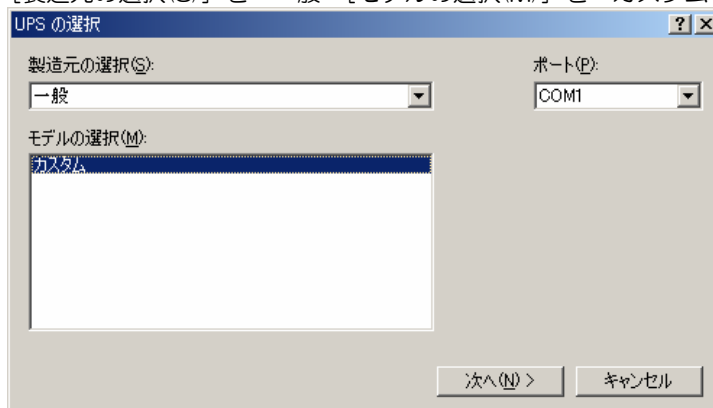
無停電電源装置(UPS)の設定はシステム管理者権限で行ってください。

操作手順

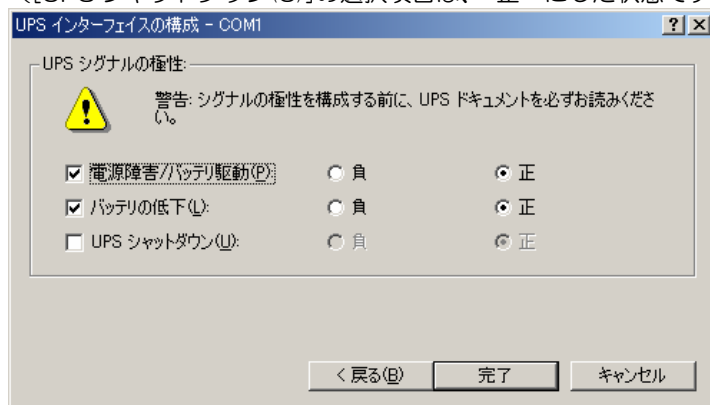
1. コントロールパネル内の「電源オプション」を選択後、UPSタブ内の [選択(S)] を押します。



2. [製造元の選択(S)] を“一般” [モデルの選択(M)] を“カスタム”として [次へ(N)] を押します。



3. 下図のように設定して「完了」を押します。
 ([UPS シャットダウン(U)]の選択項目は、“正”にした状態でチェックを外してください。)



注意！
 [UPS シャットダウン(U)]を有効にしても
 Windows2000/XP/server2003 の
 シャットダウン後にUPSの自動停止はで
 きません。

UPSの自動停止が必要な場合は、別売の
 電源管理ソフトが必要です。

3.1 電源障害/バッテリー駆動(P)

[UPS サービス]の設定にしたがって警告メッセージを表示するようになります。

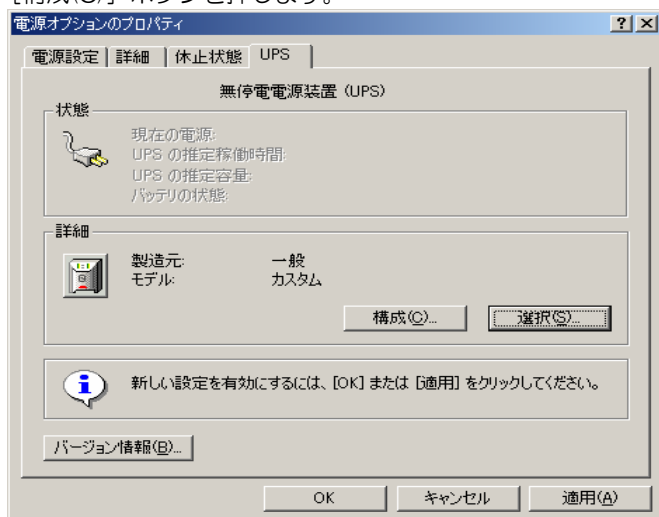
3.2 バッテリーの低下(L)

バッテリー電圧低下信号によりOSのシャットダウンを開始するようになります。

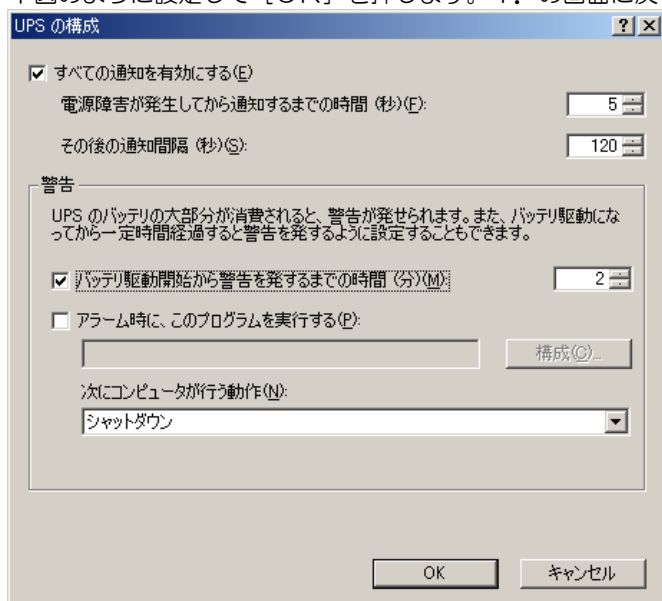
3.3 UPSシャットダウン(U)

チェックボックスは選択しません。

4. 「構成(C)」ボタンを押します。



5. 下図のように設定して「OK」を押します。1. の画面に戻りますので「適用(A)」を押します。



5.1 すべての通知を有効にする(E)

電源障害の警告メッセージを表示させる場合はチェックボックスを選択します。

5.2 電源障害が発生してから通知するまでの時間(秒) (F)

電源障害が発生してから最初の警告メッセージを表示するまでの時間です。ここで設定した時間以内に電源障害が回復すると警告メッセージは表示しません。

5.3 その後の通知間隔(秒) (S)

ここで設定した時間間隔で警告メッセージが繰返し表示されます。

5.4 バッテリ駆動開始から警告を発するまでの時間(分) (M)

電源障害が発生してから設定時間後にOSのシャットダウンが開始されます。最小設定時間は2分となります。また3. で設定している[バッテリーの低下(L)]と本設定により、どちらか早い方にてOSのシャットダウンが開始されます。

5.5 アラーム時に、このプログラムを実行する(P)

シャットダウンを開始する前にコマンドを実行する場合はこのチェックボックスを選択し、実行するコマンドファイルを記述します。ただし、30 秒以内に終了するコマンドのみ実行可能です。

5.6 次にコンピュータが行う動作(N)

Windows2000/XP/server2003 をシャットダウンするか、またはコンピュータを休止状態にするかを指定します。

[シャットダウン]を選択すると、Windows2000/XP/server2003 がシャットダウンされます。

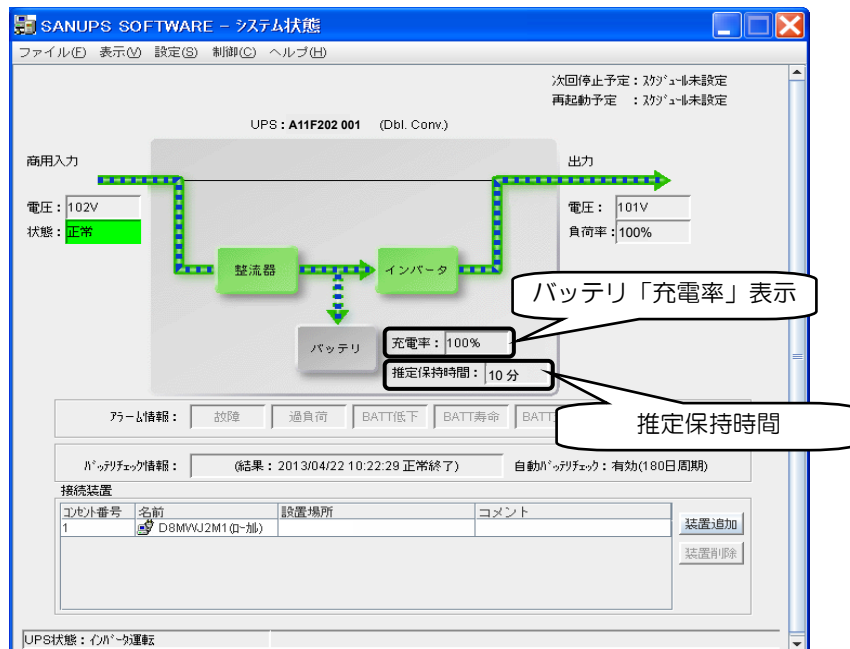
[休止状態]を選択すると、メモリの内容が全てハードディスクに保存されます。

[休止状態]タブで[休止状態をサポートする]が選択されていない場合には[休止状態]は選択できません。

付録2 情報表示について

電源管理ソフトウェアやLANインタフェースカードをご使用の場合、バッテリー「充電率」および「推定保持時間」を確認することができます。バッテリー「充電率」および「推定保持時間」をご使用の場合は、下記の点にご注意ください。

SANUPS SOFTWARE のメイン画面



バッテリー充電率表示について

- (1) バッテリーは工場出荷時に充電されていますが、UPS初起動時、ソフトウェア上ではバッテリーの「充電率」が低く表示されることがあります。「充電率」はUPSの運転時間に応じて増加しますので、「§ 9.1 装置を運転する（通常運転）」をご覧になりUPSを運転してください。充電率が100%と表示されるまでの時間は、接続されているバッテリーの構成により異なります。
- (2) UPSのバッテリーが十分に充電されている場合でも、UPSをいったん停止させてから再度運転すると、充電率が低く表示されることがあります。これは周囲温度などの環境に影響されるため、1～2時間程度UPSを運転すると正常に表示されます。
- (3) バッテリー起動の手順でUPSを運転し、その後、正常な交流入力を受電した場合も、バッテリーの充電率が算出されます。（注：旧バージョンのUPSでは対応していません）
- (4) バッテリーが正しく接続されていない状態でUPSを運転すると、「充電率」が正常に表示されません。この状態のときは、バッテリーを正しく接続し直し再度UPSを運転しても正常な値はすぐに表示されません。この場合、UPSを12時間以上通常運転すると正常な値が表示されます。なお、正常な値が表示されるまでの時間は、接続されているバッテリーの構成により異なります。
- (5) 表示される「充電率」は目安です。実際の充電率と異なる場合もあります。

推定保持時間表示について

- (1) 推定保持時間は、負荷率が低い場合、正確に表示されないことがあります。
- (2) この推定保持時間目安です。実際の保持時間と異なる場合もあります。